

東日本大震災 宮古市の記録

第1巻《津波史編》概要版



岩手県宮古市

東日本大震災 宮古市の記録

第1巻《津波史編》概要版



表紙写真説明（上から）

- ・ 明治 29 年三陸地震津波 鍛ヶ崎 日立浜 (本文 71 頁)
- ・ 昭和 8 年三陸地震津波 田老尋常小学校 (本文 78 頁)
- ・ 昭和 35 年チリ地震津波 高浜 現国道 45 号 (本文 86 頁)
- ・ 平成 23 年東日本大震災津波 市役所から築地を望む (本文 12 頁)



刊行のごあいさつ

宮古市長 山本正徳

このたび、「東日本大震災 宮古市の記録 第1巻 ≪津波史編≫ 概要版」の発刊にあたり、改めてこの震災により犠牲になられた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。

また、平成23年3月11日の発災から、早3年余が経過しましたが、今日まで国や県、県内外の自治体、団体、ボランティアの方々にも多大なご支援、ご協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

当市は、平成24年7月に宮古市東日本大震災復興計画を策定し、「すまいと暮らしの再建」「産業・経済復興」「安全な地域づくり」の3つを復興の柱に据え、復興に向けて取り組んでいるところです。3本柱の中の「安全な地域づくり」では「災害記憶の後世への継承」を方向性として位置付け、震災記録を保存・作成し、情報発信することとしております。

今回の第1巻概要版の内容ですが、「第1部 東日本大震災」では、広報みやこの「写真特集 津波」や東日本大震災における地震、津波、被害の概要等の各種データを収録しております。次に「第2部【資料編】歴史津波」では、過去の当地方における津波被害の写真を掲載し、各種史料・文献から地震津波年表を作成しました。

本記録誌は、当市における津波災害の記録集・データ集として、災害に強いまちづくりの研究や、防災意識の啓発・教育活動に末永く活用されることと思っております。

末筆となりますが、本記録誌作成にあたり、ご尽力いただいた宮古市東日本大震災記録編集委員会の神田より子委員長並びに南正昭副委員長をはじめとする委員の皆様、また、各種資料・記録の収集にあたりご協力いただきました関係機関の皆様にも厚く御礼を申し上げます、刊行のごあいさついたします。

平成26年9月

刊行にあたりごあいさつ

宮古市東日本大震災記録編集委員会委員長

敬和学園大学人文学部教授 神田より子

『東日本大震災 宮古市の記録 第1巻 《津波史編》』刊行にあたり、震災によって犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また未だにご苦労をされている皆様に御見舞を申し上げます、一日も早く日常の生活を取り戻せますようお祈りいたします。

私は自分自身の研究のため、宮古市との関わりが30年に及んでおります。そうした中で多くの友人や知人がこのたびの大震災で被災され、他人事ではないという個人的な思いから、この事業に参加させていただくこととなりました。

今回の宮古市東日本大震災記録編集委員会では、『東日本大震災 宮古市の記録 第1巻 《津波史編》』に引き続き、平成27年度に『東日本大震災 宮古市の記録 第2巻』の刊行を予定しています。私どもは主に民俗学の方法により、様々な立場の方々から、そのときどう行動したのかといった被災の体験、どう行動すればよかったのか、廻りの方々にどう行動してほしかったのかという実体験を踏まえたお考えを伺っています。そして現場での対応の仕方、後方支援のあり方などを、お一人お一人から聞き書きをし、皆様方の記憶を記録する事業を行っております。

私どもの活動は聞き書きをするだけではなく、これまで書かれた皆様方の体験記も掲載する予定で、それらの収集も行っています。また震災当時の映像（ビデオ映像と写真）も、アーカイブ化して保存したいと考えています。そのため、当編集委員会では多くの研究仲間だけではなく、地元のNPO法人「立ち上がるぞ！宮古市田老」の方々や、月刊タウン誌『みやこわが町』の皆様方とも協力して取材活動を行っています。この記録が、今回の災害を乗り越えて宮古市が災害に強い町となる一助となりますよう努力する次第です。

皆様方が一日も早く普通の日常生活に戻れますよう祈念しつつ、更なる取材活動を行って参りたいと思っております。

宮古市の復興を願って

宮古市東日本大震災記録編集委員会副委員長

岩手大学 工学部社会環境工学科教授 南 正昭

東日本大震災から早3年が経過しました。未曾有の大震災により、ここ宮古市にも甚大な被害がもたらされました。幾多の尊い命が失われるとともに、多くの建築物や施設が被災、流失し、地区によっては街の姿が大きく変化してしまいました。

その後、被災地では計り知れない苦しみや悲しみを受け止めつつ、日々の生活を続けて来られています。その中でこれからの生活、街の姿を描き出し創り出していくために、住民、行政、支援者らが幾度も話し合いを重ねながら、復興に向けた計画の策定や実践を進めてきています。

この悲しみを受け止めつつ、次の生活を創り出すべく歩みだす、宮古の人々の姿を歴史に記録として残すこと、それがこの度の宮古市史編纂の主要な役割だと思われまます。津波災害の猛威について、津波防災・減災のあり方について、災害に負けないまちづくりについて、復興の計画づくりや進め方について、長い将来にわたり人類が学ぶ記録になることでしょうか。この大災害から人々が生活を切り開いて行く姿から、私たちは人として、また社会として掛け替えのないものを学ぶことになるでしょう。

今後、わが国に起こりうる大災害に対して、個人や世帯、地域社会、都市基盤施設や法制度等々について、どのような対策を事前にとっておけば良いのか、万が一また大災害が起こったときにどう対処すれば良いのか、学ばせてもらうことになるでしょう。同時に、東日本大震災により犠牲になった多くの方々の命の尊厳を、鎮魂の念とともに思い起こすことになるでしょう。

この度、大震災以前からのほぼ10年にわたる宮古とのご縁により、宮古市歴史編纂の役割の一端を務めさせていただくことになりました。津波防災の街としてよく知られてきた田老地区には、学生とともに度々訪れ、学ばせていただきました。土地の標高や居住者の分布状況を調べ、大震災直前の2011年1月には100名以上の住民の方々に参画していただき、一人ひとりにあった津波避難のための訓練の取り組みを始めたばかりでした。

宮古が向き合ってきた津波防災への道のりは、これからも続くこととなります。この持続的な取り組みが、人類の叡智となり希望となることを心から祈念したいと思います。

東日本大震災 宮古市の記録 第1巻 津波史編 概要版 | 目次 |

刊行のごあいさつ	宮古市長 山本 正徳	3
刊行にあたりごあいさつ	宮古市東日本大震災記録編集委員会委員長 敬和学園大学 人文学部 教授 神田より子	4
宮古市の復興を願って	宮古市東日本大震災記録編集委員会副委員長 岩手大学 工学部 社会環境工学科 教授 南 正昭	5
写真特集 津波（広報みやこ平成23年6月1日号）		11
1 地震と津波の概要		24
(1) 地震の概要		24
(2) 津波の概要		27
2 被害の概要		31
(1) 浸水と地盤沈下		31
(2) 人的被害と建物被害		31
(3) 宮古市の被害概要		31
3 宮古市東日本大震災浸水図		38
4 東日本大震災に伴う対応状況		63
5 東日本大震災による死者数及び行方不明者数		65
6 東日本大震災による家屋倒壊数		66
7 東日本大震災による被害推計総額		67
第1部 東日本大震災		9
第2部【資料編】歴史津波		71
〔写真〕 明治29年三陸地震津波		72
〔写真〕 昭和8年三陸地震津波		78
〔写真〕 昭和35年チリ地震津波		84
〔写真〕 昭和43年十勝沖地震津波		88
第2部【資料編】歴史津波 解題		90
宮古地方地震津波年表		93
津波の高さと被害		100
(1) 昭和8年三陸地震による津波の高さ		100

(2)	明治29年三陸地震津波による被害(県別)	102
(3)	昭和8年三陸地震津波による被害(県別)	102
(4)	明治29年三陸地震津波による被害(岩手県)	103
(5)	昭和8年三陸地震津波による被害(岩手県)	104
(6)	津波浸水高表	108
(7)	チリ地震津波による市町村別被害(岩手県)	109
(8)	チリ地震津波による人的被害(岩手県)	109
(9)	チリ地震津波による家屋被害(岩手県)	110
	参考文献	111
	宮古市東日本大震災記録編集委員会	113

第1部
東日本大震災



津波

宮古市の被災記録と復興への一歩

このたびの津波により、多くの尊い命や貴重な財産が奪われました。お亡くなりになられた方々に哀悼の意をささげますとともに、被災された市民の皆さまへお見舞いを申し上げます。広報みやこは、市内の被災状況をありのまま後世へと伝え残すため、この写真特集を企画しました。

本号が、「絶望」を「希望」に変え、復興への一歩を踏み出すための一冊となることを願っています。

写真撮影 藤田浩司、川内義昭、中村寛亮、中村尚道
(広報みやこ)

写真協力 宮古漁業協同組合、田老町漁業協同組合、
前川 均、和田 薫 (敬称略)



市街地へ磯鶏

地震と津波の状況 (気象庁発表)

発生日時 平成23年3月11日金午後2時46分ごろ
 震源の深さ 二陸沖北緯36度6.2分、東経142度51.6分、牡鹿半島の東南東約130km付近
 震源の規模 約7.9Mj
 マグニチュード M3.0 (暫定値)
 震度 5強/度重: 震度5弱/五月町、掛ヶ崎、長沢、田老、川月、門馬田代
 平成23年3月11日金午後2時49分: 岩手県に津波の津波警報
 平成23年3月12日土午後8時20分: 津波の津波警報に切り替え
 平成23年3月13日土午後7時30分: 津波の津波注意警報に切り替え
 平成23年3月12日土午後8時58分: 津波の津波注意警報解除
 平成23年3月11日金午後2時46分/2.2m
 平成23年3月11日金午後3時26分/3.5m以上
 ※後日観測で回収した津波観測点の記録分析の結果
 37.0m/田老小堀内地区宮古大震災研究所発表
 38.0m/釜尻崎吉地区川東宮古海洋大発表

避難などの状況

市災害対策本部の設置 平成23年3月11日金午後2時46分
 水ひの門の閉鎖 警報発表時間即水ひの門11力所 (宮古地域3力所、田老地域8力所)
 避難指示発令 平成23年3月11日金午後2時49分
 避難指示解除 平成23年3月13日土午後5時58分
 避難指示対象 避難指示対象: 12,942人
 避難所開設数・避難者数 85力所・8,888人 (最大時)

3月11日午後2時46分、宮古市街地へ津波が押し寄せ、多くの建物が倒壊した。津波の高さは最大約38メートルに達したと推定されている。



津波が押し寄せた後、街中がゴミの山で埋め尽くされた。多くの建物が倒壊し、多くの人が犠牲になった。



津波が退去した後、道路は泥で埋め尽くされた。多くの建物が倒壊し、多くの人が犠牲になった。



3月11日午後3時25分、上の写真から2分後、津波はより高くなった。多くの建物が倒壊し、多くの人が犠牲になった。





津波の被害を受けた宮古市立第一中学校の校舎。校舎の基礎が崩壊し、校舎が傾斜した。校舎の基礎を修復する作業を進めている。



津波の被害を受けた山田町の橋。橋の鉄骨が折れ、橋が崩壊した。



がれきや泥でふさがれた道路。市役所前から駅前方向への歩道。



被災者の自宅の残骸。家具や家電が壊れている。



被災者の自宅の残骸。壁が崩壊し、天井が落ちている。



記録 file 2

鉾ヶ崎

津波の被害を受けた鉾ヶ崎の漁港。多くの漁船が沈没し、漁具が壊れている。



写真特集 津波 宮古市の震災記録と復興への一歩

被災した個人宅がもたらした被害の深刻さ、復興の困難



伊達した東屋が津波によって立ち上がり、波が押し寄せた。津波は津波の波が押し寄せた。



旧魚市場建屋。波の力により車がアーチ状の屋根の下まで打ち上げられている

みやぎ



全壊した船が津波の力によって立ち上がり、波が押し寄せた。津波は津波の波が押し寄せた。

みやぎ

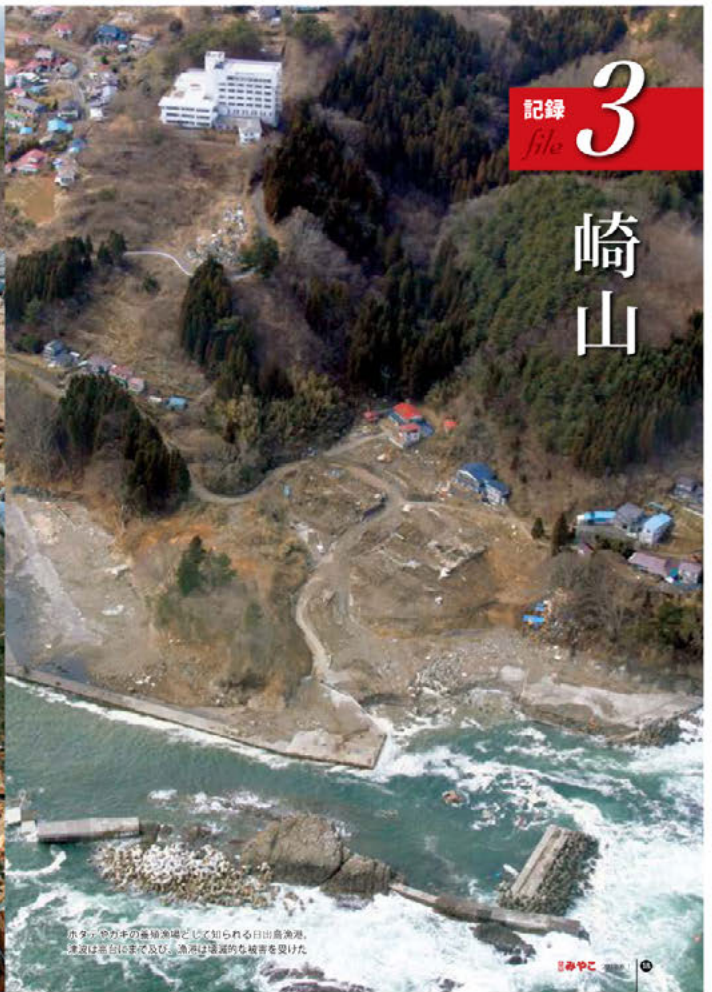


写真特集 津波 宮古市の震災記録と復興への一歩

被災地が完全に壊滅した。津波の力により車がアーチ状の屋根の下まで打ち上げられている



津波の被害を受けた被災地。津波の力により車がアーチ状の屋根の下まで打ち上げられている



記録 file 3

崎山

赤々、宮古市の最南端として知られる日出島漁港。津波は300メートル及び、漁港は津波の被害を受けた

みやぎ

高浜・金浜



高浜地区の津波被害の被災状況(宮古市提供)



高浜地区の津波被害の被災状況(宮古市提供)



高浜地区の津波被害の被災状況(宮古市提供)



高浜地区の津波被害の被災状況(宮古市提供)



高台に位置する宮古湾畔付近まで駆け上った津波。橋や電話で宮古市街から約400m地点より撮影(提供:和田 真)



高浜地区の津波被害の被災状況(宮古市提供)



高浜地区の津波被害の被災状況(宮古市提供)



高浜地区の津波被害の被災状況(宮古市提供)





宮古漁港、加工場や集会所などの施設は鉄骨の柱だけが無惨に残された



釜屋漁港(左)へ製氷設備工場など多くの種別生産施設などが失われた



中田地区、校舎の柱の心柱が唯一の残存物として残された



震災直前に完成した宮古川は津波で破壊され、交通が寸断された



記録 file 7

田老

宮古川に建設された大津波防止ダムは津波で破壊され、被災地への物資供給が断たれた。津波で壊れたダムは、今も復旧工事が進められている



津波 宮古市の被災記録と復興への一歩

津波で壊れた宮古市立宮古南小学校の跡地に、大規模な住宅再建計画が進められている。



津波で壊れた宮古市立宮古南小学校の跡地に、大規模な住宅再建計画が進められている。



津波で壊れた宮古市立宮古南小学校の跡地に、大規模な住宅再建計画が進められている。



津波で壊れた宮古市立宮古南小学校の跡地に、大規模な住宅再建計画が進められている。



津波 宮古市の被災記録と復興への一歩



記録 8 file

復興への一歩
天皇、皇后両陛下が
本市避難所を慰問



5月6日、本市の避難所の一つとなっている市民総合体育館を訪問された天皇、皇后両陛下。両陛下は、同施設で避難生活を強いられている約100人の市民に「お体はどうですか」「よくご無事でいられましたね」などと励ましの声を掛けられました。





写真提供 津波 復興支援センター

阪南市民は復興を願い、花の田舎づくりを推進している。復興支援センターが中心となり、市民有志が参加している。写真は、復興支援センターが主催する「花の田舎づくり」の様子。



被災した車の保管場となった駐車場



復興のための新築建物の建設現場



写真提供 津波 復興支援センター

津波の被害を受けた被災地の風景。背景には山々が見え、前景には大量の瓦礫が散らばっている。



復興支援センターが主催する「花の田舎づくり」の様子。子供たちが参加している。



神戸復興するといふ被災地で活動する「神戸復興支援センター」のメンバーが、被災地を訪れ、復興支援活動を行っている様子。



写真特集 津波 宮古市の被災記録と復興への一歩

「2011年3月11日の震災直後、被災者の声、一人一人が大切に記録するために、被災者の声、（3月11日・第二中校）



被災者の記録を残すために、被災者の声、一人一人が大切に記録するために、被災者の声、（3月11日・第二中校）



滋賀県長浜市雨森地区の住民らが復興を祈って制作した高さ50cmの巨大こいのぼり。NPO法人「おぼろ」などの関係者の企画の下、「がんばれおぼろ がんばれおぼろ」の活動がきっかけで、内部に被災者の声、（3月11日・第二中校）

144 2011.11.1



写真特集 津波 宮古市の被災記録と復興への一歩

ともたちつれてかえってお 軽石川に

「大きくなくなって元気に帰ってきてね。」
 幾多の苦難を乗り越え、
 約4年の歳月をかけてふるさとの川に帰ってきた児童
 が、けさの朝、軽石川を、
 大海原へ向かって旅立ちました。
 まちの復興までは、
 長い険しい道のり。
 市民全員で力を合わせて、
 宮古市の新たな一歩を踏み出しましょう。

震災による児童の心の影響にも負けず、約100名の児童が参加する本町の小学校の児童が、4月11日、軽石川に

145 2011.11.1

145 2011.11.1

1 地震と津波の概要

(1) 地震の概要

- 発生日時 平成23年（2011）年3月11日14時46分
- 名称 3月11日、気象庁はこの地震を「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」と命名。4月1日、政府は地震による震災の名称を「東日本大震災」とすると発表した。岩手県では「東日本大震災津波」と表記することとしている。

3月11日、気象庁はこの地震を「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」と命名。4月1日、政府は地震による震災の名称を「東日本大震災」とすると発表した。岩手県では「東日本大震災津波」と表記することとしている。

- 震源地 三陸沖、牡鹿半島の東南東約130キロメートル付近
北緯38度06・21分、東経142度51・66分
- 震源の深さ 約24キロメートル
- 震源域 長さ約450キロメートル、幅約200キロメートルと推定
- マグニチュード9・0

地震の規模を示すマグニチュード9・0は我が国の観測史上最大となり、この地震により巨大な津波が太平洋岸を中心に押し寄せ、2万人近くの死者・行方不明者を生じる未曾有の大災害となった。

宮城県栗原市で震度7を観測したほか、岩手県から茨城県にかけての太平洋岸の広い範囲で震度6強や6弱の揺れが記録された（図表1）。我が国で震度7が観測されたのは、平成7年（1995）の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）、平成16年（2004）新潟県中越地震に次いで三度目となった。

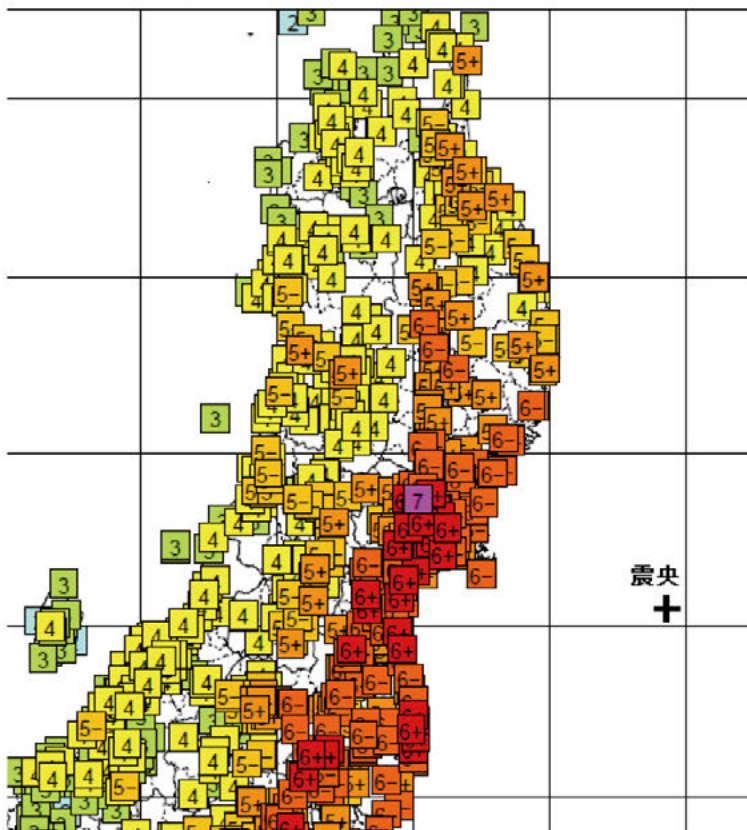
岩手県では一関市・大船渡市などで震度6弱を記録、震源に近い県南部で揺れが強かったことがうかがえる。宮古市では茂市で震度5強を記録、門馬田代・鍬ヶ崎・五月町・田老・川井・長沢で震度5弱となった（図表2）。

この地震の主な破壊継続時間は約160秒に及び、同日15時08分には震源域の北、岩手県沖でマグニチュード7・4、15時15分には茨城県沖でマグニチュード7・6の余震（最大余震）が発生し、その後も

非常に活発に推移した（図表3）。

この地震のメカニズムは、日本海溝から沈み込む海側プレート（太平洋プレート）に引きずり込まれた陸側プレート（北米プレート）が跳ね返ることによって発生する典型的な海溝型大地震であった（図表4）。

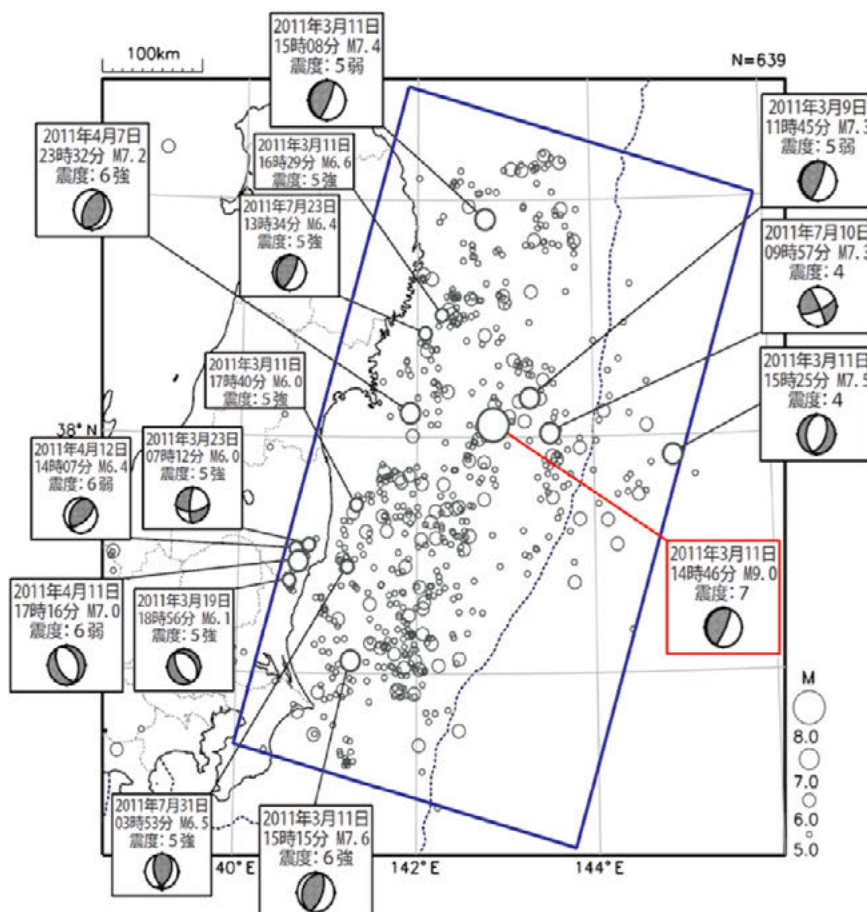
【図表1】 3月11日14時46分に発生した本震（マグニチュード9・0、最大震度7）の市町村ごとの震度分布（気象庁2012・12より）



【図表2】 東北地方太平洋沖地震における岩手県各地の震度

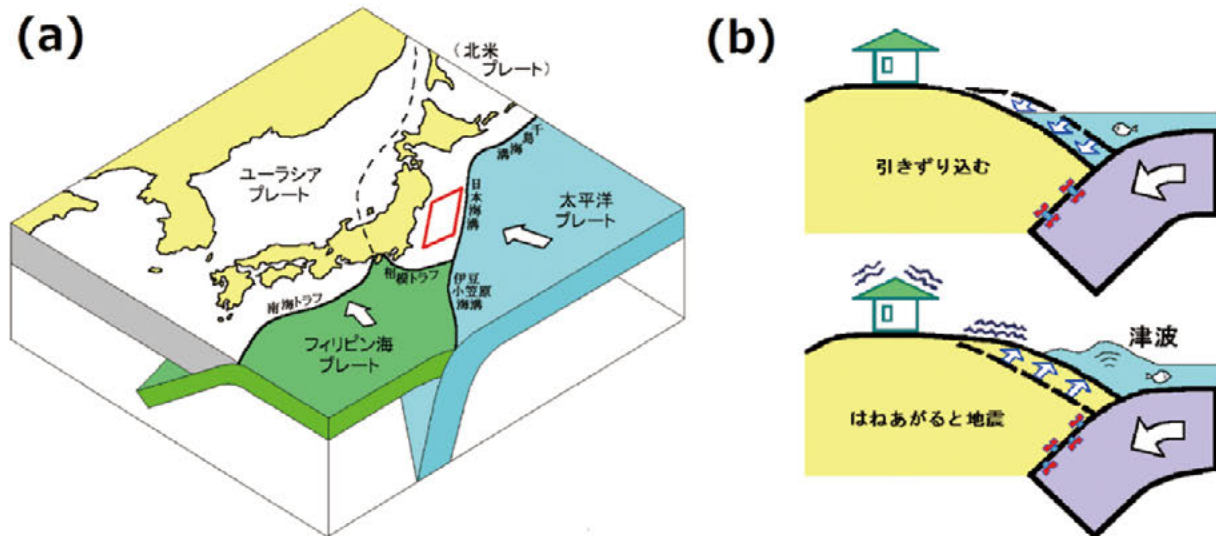
震度 6 弱	釜石市中妻町 (5.7)、矢巾町南矢幅 (5.7)、大船渡市大船渡町 (5.6)、大船渡市猪川町 (5.6)、滝沢村鶴飼 (5.6)、一関市花泉町 (5.6)、藤沢町藤沢 (5.6)、花巻市大迫町 (5.5)、一関市室根町 (5.5)、奥州市前沢区 (5.5)、奥州市衣川区 (5.5)
震度 5 強	釜石市只越町 (5.4)、盛岡市玉山区藪川 (5.4)、北上市柳原町 (5.4)、北上市相去町 (5.4)、奥州市江刺区 (5.4)、普代村銅屋 (5.3)、盛岡市玉山区洪民 (5.3)、花巻市東和町 (5.3)、遠野市松崎町 (5.3)、平泉町平泉 (5.3)、八幡平市田頭 (5.2)、八幡平市野駄 (5.2)、花巻市材木町 (5.2)、金ヶ崎町西根 (5.2)、奥州市水沢区佐倉河 (5.2)、山田町大沢 (5.1)、住田町世田米 (5.1)、盛岡市山王町 (5.1)、一関市東山町 (5.1)、一関市川崎町 (5.1)、奥州市水沢区大鐘町 (5.1)、宮古市茂市 (5.0)、花巻市石鳥谷町 (5.0)、遠野市宮守町 (5.0)、一関市大東町 (5.0)
震度 5 弱	宮古市門馬田代 (4.9)、野田村野田 (4.9)、大船渡市盛町 (4.9)、二戸市浄法寺町 (4.9)、紫波町日詰 (4.9)、宮古市楯ヶ崎 (4.8)、宮古市五月町 (4.8)、一戸町高善寺 (4.8)、八幡平市大更 (4.8)、宮古市田老 (4.7)、宮古市川井 (4.7)、山田町八幡町 (4.7)、盛岡市馬場町 (4.7)、岩手町五日市 (4.7)、久慈市川崎町 (4.6)、久慈市長内町 (4.6)、二戸市石切所 (4.6)、雫石町干刈田 (4.6)、軽米町軽米 (4.6)、宮古市長沢 (4.5)、二戸市福岡 (4.5)、葛巻町葛巻元木 (4.5)、花巻市大迫総合支所 (4.5)

() 内は計測震度を記す。
気象庁技術報告第 133 号に掲載のデータより作成。



【図表3】 東北地方太平洋沖地震とその余震
2011年3月1日～2012年2月29日、深さ0～90キロメートル、マグニチュード7.0以上の地震とマグニチュード6.0以上で震度5強以上を観測した地震（気象庁2012・12より）

【図表4】(a) 日本列島周辺のプレート構造
 (b) プレート沈み込みによる海溝型大地震発生の模式図
 (岡田 2012.3 より)



(防災科学技術研究所「東日本大震災調査報告」より)

【図表5】平成23年4月11日地震調査委員会評価文(気象庁技術報告 第133号より)

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の評価

- 3月11日14時46分頃に三陸沖の深さ約25kmでマグニチュード(M)9.0(暫定)の地震が発生した。今回の本震の規模はこれまでに日本国内で観測された最大の地震である。この地震により宮城県栗原市で最大震度7を観測した。また、相馬で7.3m以上、大洗で4.2m、釜石で4.1m以上などの高い津波を北海道地方、東北地方、関東地方の太平洋沿岸で観測した。
- 発震機構は西北西-東南東方向に圧力を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
- 3月13日15時現在、最大の余震は11日15時08分に発生したM7.5(暫定)の地震で、岩手県から茨城県にかけての太平洋沖でM7.0以上の地震が3回発生しており、M6.0以上の余震が40回(暫定値)発生している。余震域は南北約500kmにわたっている。今後も規模の大きな余震が発生する恐れがある。
- GPS観測の結果によると、本震の発生に伴って、志津川観測点(宮城県)が約4.4m東南東に移動するなどの地殻変動が観測されている。また、岩手県から福島県にかけての沿岸で最大約75cmの沈降も観測されており、津波がおさまった後も引き続き浸水している地域がある。
- 今回の地震の震源域は、岩手県沖から茨城県沖までに及んでいる。地震波及び地殻変動などによる様々な解析結果があるが、その長さは約400km、幅は約200kmで、最大の滑り量は約20m以上であったと推定される。地震調査委員会で評価している宮城県沖・その東の三陸沖南部海溝寄り、福島県沖、茨城県沖の領域を震源域としたと考えられるが、更に三陸沖中部や、三陸沖北部から房総沖の海溝寄りの一部にまで及んでいる可能性もある。

(2) 津波の概要

東北地方太平洋沖地震がマグニチュード9.0という海溝型の巨大地震であったため、津波の規模も桁違いに大きく、北海道から沖縄にかけての太平洋沿岸で高い津波が観測されたほか、日本海、オホーツク海、東シナ海の沿岸でも津波が観測され、さらにハワイや北米・南米にまで津波が到達したという。

岩手県の釜石・大船渡、宮城県の石巻などでは、津波の第一波が14時46分、すなわち津波発生とほぼ同時に10から20センチの高さで到達し、最大波は15時20分前後、地震発生の約30分後に津波に襲われた。宮古市では日立浜の気象庁検潮所の観測データで15時01分に第一波が到達し、15時26分に8.5センチ以上の浪の高さを観測している（検潮所が流したため不正確である可能性がある、図表6）。

津波遡上高は東京大学地震研究所の発表によると、田老小堀内で37.9センチ、東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ（2011）による津波痕跡調査結果によると、今回の津波の最大遡上高は宮古市重茂姉吉で計測された40.5センチである。この値はこれまで国内最高とされた1896年の明治三陸地震津波の際の大船渡市三陸町綾里における遡上高38.2センチを更新した。

気象庁では、地震発生から3分後の14時49分、岩手県・宮城県・福島県に津波警報（大津波）を発令し予想される津波の高さを3メートルとした。15時14分には津波の高さを6センチ、15時30分には10センチ以上と予想される津波の高さが引き上げられた。その後、12日20時20分に津波警報（津波）に、13日7時30分に津波注意報に切り替えられ、すべての警報・注意報が解除されたのは3月13日17時58分であった（図表7）。

三陸沿岸では、1896年明治三陸地震津波（マグニチュード8.3）、1933年昭和三陸地震津波（マグニチュード8.1）、1960年チリ地震津波など、これまでに何度も大きな津波災害に見舞われ、津波の常襲地帯とも言われている。また、平安時代の869年貞観地震（マグニチュード8.3）では海岸から3メートル程度まで仙台平野に浸入したことが報告されている（佐竹ほか、2008）。今

回の津波は、高さの点で明治三陸津波に、また内陸への浸入距離の点で貞観地震に、それぞれにた様相を示しているという（岡田、2012）。

【図表6】津波観測施設で観測された津波の観測値（気象庁技術報告 第133号より）

津波観測点名	第一波	最大の高さの波		最高潮位	
	到達時刻 (始まり) a	発 現 時 刻 b	高 さ	発 現 時 刻 d	D.L. から 計った 潮位
	日 時 分	日 時 分	cm *9	日 時 分	cm *9
宮古 *1 *4 *5	11 15 1	11 15 26	8.5 m以上	11 15 26	9.0 m以上
大船渡 *1 *3 *5 *6	11 14 —	11 15 18	8.0 m以上	11 15 18	9.8 m以上
釜石 *1 *5 *6	11 14 —	11 15 21	420 以上	11 15 21	642 以上
岩手久慈沖 *1 *2	11 14 —	11 15 19	4.0 m		
岩手宮古沖 *1 *2	11 14 —	11 15 12	6.3 m		
岩手釜石沖 *1 *2	11 14 48	11 15 11	6.7 m		

* 1 データの入手出来ない期間があったことを示す
 * 2 GPS波浪計の観測点であることを示す
 * 3 巨大津波観測計により観測されたことを示す（観測単位は0.1 m）
 * 4 第一波を潮位計、最大波を巨大津波観測計により観測されたことを示す
 * 5 地盤沈下の影響で、第1波の読み取りが不正確である可能性があることを示す
 * 6 地震の揺れにより生じた潮位の変動等のため、潮位データからは津波の第一波の始まりに時刻が特定できなかったもの
 * 9 巨大津波観測計とGPS波浪計については、観測単位0.1 mで掲載している

【図表7】津波警報・注意報の発表状況（津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報を含む）

津波予報区	発表時刻		11日	11日	11日	11日	11日	11日	11日	12日	12日	12日	13日	13日
	上:警報等	下:予想高さ	14時49分	15時14分	15時30分	16時08分	18時47分	21時35分	22時53分	3時20分	13時50分	20時20分	07時30分	17時58分
北海道太平洋沿岸東部	0.5 m	1 m	3 m	6 m	→	→	→	→	→					解除
北海道太平洋沿岸中部	1 m	2 m	6 m	8 m	→	→	→	→	→					解除
北海道太平洋沿岸西部	0.5 m	1 m	4 m	6 m	→	→	→	→	→					解除
北海道日本海沿岸北部							0.5 m	→	→			解除		
北海道日本海沿岸南部		0.5 m	1 m	→	→	→	→	→	→			解除		
オホーツク海沿岸			0.5 m	→	→	→	→	→	→			解除		
青森県日本海沿岸	0.5 m	1 m	2 m	3 m	→	→	→	→	→			解除		
青森県太平洋沿岸	1 m	3 m	8 m	10 m以上	→	→	→	→	→					解除
陸奥湾		0.5 m	1 m	→	→	→	→	→	→			解除		
岩手県	3 m	6 m	10 m以上	→	→	→	→	→	→					解除
宮城県	6 m	10 m以上	→	→	→	→	→	→	→					解除
秋田県				0.5 m	→	→	→	→	→	解除				
山形県				0.5 m	→	→	→	→	→	解除				
福島県	3 m	6 m	10 m以上	→	→	→	→	→	→					解除
茨城県	2 m	4 m	10 m以上	→	→	→	→	→	→					解除
千葉県九十九里・外房	2 m	3 m	10 m以上	→	→	→	→	→	→					解除
千葉県内房	0.5 m	1 m	2 m	4 m	→	→	→	→	→				解除	
東京湾内湾		0.5 m	1 m	2 m	→	→	→	→	→				解除	
伊豆諸島	1 m	2 m	4 m	6 m	→	→	→	→	→					解除
小笠原諸島	0.5 m	1 m	2 m	4 m	→	→	→	→	→					解除

【図表8】津浪調査地点と津波の高さ（「気象庁技術報告 第133号」より）

	観測地点名	調査日	調査時刻	津波の高さ (m)
99	宮古市日立浜町（宮古検潮所付近）①	3/28	12:00	7.3
100	宮古市日立浜町（宮古検潮所付近）②	3/28	11:00	7.1
101	宮古市日立浜町（宮古検潮所付近）③	3/28	12:25	5.1
102	宮古市光岸地	3/28	13:45	8.5
103	宮古市藤原閉伊川河口付近	3/28	14:50	9.3

○宮古市日立浜町（宮古検潮所付近）①・②・③，宮古市光岸地，宮古市藤原閉伊川河口付近



第3.2.83図 津波調査地点



写真99 津波の痕跡（第3.2.83図の99）赤丸内で漂着物を確認



写真 100 津波の痕跡 (第 3.2.83 図の 100)
漂着物を確認

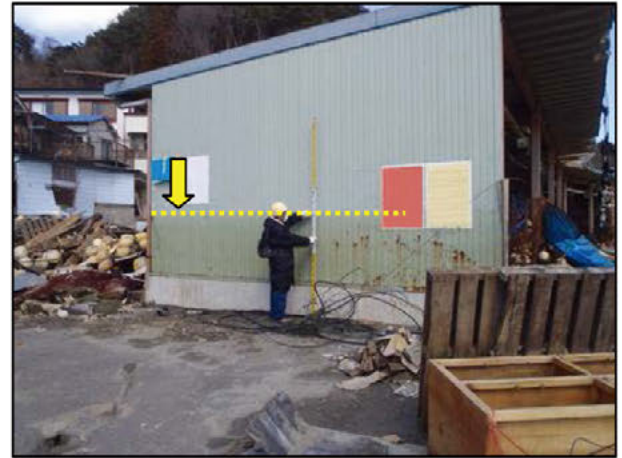


写真 101 津波の痕跡 (第 3.2.83 図の 101)
漂着物を確認



写真 102 津波の痕跡 (第 3.2.83 図の 102) 漂着物を確認



写真 103 津波の痕跡 (第 3.2.83 図の 103) 樹木で漂着物を確認

2 被害の概要

(1) 浸水と地盤沈下

東北地方太平洋沖地震による津波により東日本の太平洋沿岸部の地域が津波によって壊滅的な被害を受けた。国土地理院の発表によると、青森県・岩手県・宮城県・福島県・茨城県・千葉県・宮城県の6県64市町村の合計浸水面積は561^{平方キロ}にのぼる。県別で見ると宮城県が最も多く327^{平方キロ}で、ついで福島県の112^{平方キロ}、岩手県は58^{平方キロ}となっている。仙台平野を中心とする宮城県が圧倒的に多く、リアス式海岸で低地の少ない岩手県沿岸部は、浸水高は大きい浸水面積は小さい結果となっている。宮古市の浸水区域は、市域1千260^{平方キロ}のうち10^{平方キロ}が浸水した(図表10)。

各地で地盤沈下や液状化現象も発生し、液状化による被害は1都8県(岩手県・宮城県・福島県・茨城県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)で深刻な被害をもたらした。国土交通省の電子基準点の解析結果から東北地方の太平洋沿岸において顕著な地盤沈下が確認された(図表11)。岩手県・宮城県・福島県のうち最も変動したのが陸前高田市小友町のマイナス84^{センチ}である。宮古市での地盤沈下の最大値は、磯鶏の藤原埠頭でマイナス50^{センチ}である。以下、本町でマイナス44^{センチ}、津軽石第11地割(駒形通)・マイナス42^{センチ}、津軽石第9地割(新町)・マイナス33^{センチ}であった。地盤沈下の影響で干満の潮位差が大きくなる大潮の時は、沿岸部で浸水や冠水が発生し、港湾のかさ上げ工事が進められている。

(2) 人的被害と建物被害

東日本大震災による死者・行方不明者は12都道県でみられ、死者1万5千859人、行方不明者3千021人(平成24年5月30日警察庁発表)にのぼる(図表12)。明治以降では大正12年(1933年)の関東大震災(死者・行方不明者:約10万5千人)、明治29年(1896年)の明治三陸地震津波(同:約2万2千人)に次ぐ深刻な被害をもたらした。岩手県では4千670人をこえる死者、1千140人をこ

える行方不明者となっている(図表12)。また、岩手県・宮城県・福島県の3県では、犠牲者の死因の92・4%が溺死となっている(平成23年版「防災白書」)。

岩手県総務部総合防災室の発表によると、関連死を含めた死者数は5千089人、行方不明者1千144人、負傷者209人、家屋倒壊数は2万5千023棟となっている(平成25年9月30日現在・図表13)。岩手県の調べによると、宮古市の死者数は467人、行方不明者94人、負傷者33人で、家屋倒壊数は4千098棟である。宮古市の発表(平成24年11月6日現在)では、被災当時の居住地を基準とした死者数517人、行方不明者94人、家屋倒壊(半壊以上の住家)は4千005棟に及んだ。

(3) 宮古市の被害概要

宮古市発表の被害状況を見てみたい(65から66頁)。年代別に死者数を見ると死者517人のうち、70歳から79歳の126人(24・4%)、次いで60歳から69歳の122人(23・6%)、80歳から89歳の83人(16・1%)で60歳以上の高齢者が64%で約3分の2となっていることが分かる。住所別では、田老地区181人(35・0%)、宮古地区68人(13・2%)、磯鶏地区65人(12・6%)、鉾ヶ崎地区と津軽石地区が同数で57人(11・0%)、重茂地区48人(9・3%)となっている。

家屋倒壊数は、市全体で住家が4千449棟、非住家が4千639棟で合計9千088棟が被災している。被災した住家のうち全壊した住家が2千677棟で60・2%となることから今回の津波の強さ、被害の深刻さがうかがえる。参考までに震災時の市全体の課税台帳による家屋数(非住家を含む)は、3万9千907棟であった。

宮古市における被害総額は2千456億円を超えている(国・県の施設、鉄道、電信電話、電気事業者関係を除く)。平成22年度の宮古市一般会計総歳出額が296億6千41万7千円であるから、年間総予算の約8年分を超えたことになる。被害額のうち最も大きな割合をしめているのが、住宅被害で1千496億円で全体の約60%をしめ

【図表 10】平成 23 年東北地方太平洋沖地震 市区町村別津波浸水範囲面積

県	市区町村	浸水面積 (km ²)	市区町村面積 (km ²)	撮影日
青森県		24	844	
岩手県		58	4,946	
	宮古市	10	1,260	3月13日、4月1日、5日
	大船渡市	8	323	3月13日、4月1日、5日
	久慈市	4	623	3月13日、4月5日
	陸前高田市	13	232	3月13日、4月1日
	釜石市	7	441	3月13日、4月1日、5日
	大槌町	4	201	3月13日、4月1日
	山田町	5	263	3月13日、4月1日、5日
	岩泉町	1	993	3月13日、4月1日、5日
	田野畑村	1	156	4月5日
	普代村	1	70	3月13日、4月5日
	野田村	2	81	3月13日、4月5日
	洋野町	1	303	3月13日
宮城県		327	2,003	
福島県		112	2,456	
茨城県		23	1,444	
千葉県		17	689	
	合計	561	12,382	

- ・ 浸水面積は、空中写真から水田や集落への浸水、瓦礫の痕跡から浸水位置を空中写真((衛)は衛星画像)を判読して算出(数値は湖沼、内水面を含む)。
- ・ 調査対象は津波による浸水被害があったと想定される太平洋沿岸全域(青森県下北八戸沿岸(物見崎以南)~千葉県(九十九里浜沿岸))
- ・ 市町村面積は「全国都道府県市区町村別面積調(平成22年10月1日現在:国土地理院)」による。(平成23年4月18日発表国土地理院「平成23年東北太平洋沖地震、市区町村別津波浸水範囲面積(概略値)第5報」より)

【図表 11】岩手県の各観測点における地盤沈下調査結果 一覧表

市町村名	所在地	変動量 (cm)	点名	基準点種別
宮古市	本町	-44	6884	一等水準点
宮古市	津軽石第9地割	-33	6879	一等水準点
宮古市	磯鷄第4地割	-50	藤原埠頭	四等三角点
宮古市	津軽石第11地割	-42	宮古	電子基準点
下閉伊郡山田町	船越第16地割	-41	6870	一等水準点
下閉伊郡山田町	船越第2地割	-43	6868	一等水準点
下閉伊郡山田町	船越第10地割	-53	浦の浜	四等三角点
下閉伊郡山田町	織笠	-54	山田	電子基準点
上閉伊郡大槌町	吉里吉里第13地割	-35	6866	一等水準点
釜石市	平田第3地割	-56	6808	一等水準点
釜石市	大平町3丁目	-66	釜石大観音	四等三角点
釜石市	甲子町	-56	釜石	電子基準点
大船渡市	大船渡町字地ノ森	-60	6789	一等水準点
大船渡市	猪川町字富岡	-73	宮田	三等三角点
大船渡市	盛町字中道下	-72	盛	四等三角点
大船渡市	赤崎町字鳥澤	-76	大船渡	電子基準点
陸前高田市	米崎町字高畑	-58	6784	一等水準点
陸前高田市	小友町字西の坊	-84	西の坊	四等三角点
陸前高田市	気仙町字双六	-53	双六	四等三角点

備考：基準点の精度は約 10 cm、電子基準点の精度は約 1 cm
(国土地理院「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震に伴う地盤沈下調査」より)

【図表 12】 全国の人的被害・建物被害状況一覧

災害種別	人的被害					建物被害								道路 損壊 箇所	橋梁 被害 箇所	山崖 崩れ 箇所	堤防 決壊 箇所	鉄 軌 道 箇所	
	死 者 人	行 方 不 明 人	負傷者			全 壊 戸	半 壊 戸	流 失 戸	全 焼 戸	半 焼 戸	床 上 浸 水 戸	床 下 浸 水 戸	一 部 破 損 戸						非 住 家 被 害 戸
			重 傷 人	軽 傷 人	合 計 人														
北海道	1			3	3		4				329	545	7	469					
東北	青森	3	1	25	86	111	308	701					1,006	1,402	2				
	岩手	4,673	1,144			212	18,460	6,563		33		6	14,191	5,401	30	4	6		
	宮城	9,537	1,297			4,148	82,896	155,095		135		7,796	222,824	28,745	390	12	51	45	
	秋田			4	7	11							3	3	9				
	山形	2		8	21	29							21	96	21		29		
	福島	1,606	207	20	162	182	21,192	73,034		77	3	1,061	338	166,834	1,117	187	3	9	
東京		7		20	97	117	15	198		1			4,847	1,101	295	55	6		
関東	茨城	24	1	34	678	712	2,626	24,238		31	1,799	779	185,531	19,923	307	41			
	栃木	4		7	126	133	261	2,118					73,180	295	257		40	2	
	群馬	1		13	26	39		7					17,246		36		9		
	埼玉			7	38	45	24	199		1	1		1,800	33	160				
	千葉	21	2	29	229	258	801	10,117		15	157	731	54,884	660	2,343		55	1	
	神奈川	4		17	121	138		41					459	13	160	1	2		
	新潟				3	3							17	9					
	山梨				2	2							4						
	長野				1	1													
	静岡			1	2	3						5	13	9					
中部	岐阜														1				
	三重				1	1								9					
四国	徳島											2	9						
	高知				1	1						2	8						
合計	15,883	2,652		6,149	126,583	272,315		297	3,352	10,218	742,867	59,285	4,198	116	207	45	29		

※ 警視庁緊急災害警備本部（平成 25 年 10 月 10 日）発表「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震の被害状況と警察措置」より作成
 ※ 未確認情報を含む。
 ※ 4 月 7 日に発生した宮城県沖を震源とする地震、4 月 11 日に発生した福島県浜通りを震源とする地震、4 月 12 日に発生した福島県中通りを震源とする地震、5 月 22 日に発生した千葉県北東部を震源とする地震、7 月 25 日に発生した福島県沖を震源とする地震、7 月 31 日に発生した福島県沖を震源とする地震、8 月 12 日に発生した福島県沖を震源とする地震、8 月 19 日に発生した福島県沖を震源とする地震、9 月 10 日に発生した茨城県北部を震源とする地震、10 月 10 日に発生した福島県沖を震源とする地震、11 月 20 日に発生した茨城県北部を震源とする地震、平成 24 年 2 月 19 日に発生した茨城県北部を震源とする地震、3 月 1 日に発生した茨城県沖を震源とする地震、3 月 14 日に発生した千葉県東方沖を震源とする地震、6 月 18 日に発生した宮城県沖を震源とする地震、8 月 30 日に発生した宮城県沖を震源とする地震、12 月 7 日に発生した三陸沖を震源とする地震及び平成 25 年 1 月 31 日に発生した茨城県北部を震源とする地震の被害を含む

【図表 13】 岩手県の人的・建物被害状況一覧

	死者数（人）			行方不明者数（人）		負傷者数（人）	家屋倒壊数（棟） （半壊以上の住家）
	直接死	関連死	計	うち、死亡届の受理件数（件）			
陸前高田市	1,556	42	1,598	215	209	不明	3,341
大船渡市	340	74	414	79	75	不明	3,934
釜石市	888	98	986	152	151	不明	3,655
大槌町	803	50	853	433	429	不明	3,717
山田町	604	67	671	149	147	不明	3,167
宮古市	420	47	467	94	94	33	4,098
岩泉町	7	3	10	0	0	0	200
田野畑村	14	3	17	15	15	8	270
普代村	0	0	0	1	1	4	0
野田村	38	1	39	0	0	19	479
久慈市	2	1	3	2	2	10	278
洋野町	0	0	0	0	0	0	26
沿岸小計	4,672	386	5,058	1,140	1,123	74	23,165
内陸小計	0	31	31	4	4	135	1,858
計	4,672	417	5,089	1,144	1,127	209	25,023

岩手県総務部総合防災室発表「平成23年3月11日(本震・津波)及び4月7日(余震)に係る被害状況」（平成25年9月30日現在）より

※死者数のうち、直接死は岩手県警調べ、関連死は岩手県復興局調べ

※家屋倒壊数は、全壊及び半壊数を計上

る。商工労働関係施設が281億円、水産関係215億円、漁港施設150億円、観光施設136億円と河川・道路・橋梁などの公共土木施設77億円などとなっている。

A 田老地域

市北部に位置する田老地域は、太平洋に面する田老漁港を中心に市街地が形成される漁業の町である。摂待地区や小堀内地区など比較的小規模な集落が海岸部から山間部にかけて広く点在している。漁業が基幹産業で、アワビやウニなどの磯漁業、ワカメやコンブの養殖業が盛んである。田老鉱山の鉱毒水の影響によって姿を消したサケの増殖に取り組んだ結果、田老川にサケが遡上し津軽石川と共に本州一の座を分け合ってきた。

慶長16年・明治29年・昭和8年の津波で壊滅的な被害を受け、「津波太郎」とも言われるほどで、その歴史は津波との闘いであったとも言える。昭和三陸地震津波後は、市街地の区画整理と防潮堤の整備に取り組み、昭和54年に完成した総延長2千433メートルの大防潮堤は「田老万里の長城」とも言われた。さらに防災無線や津波避難路の整備・津波体験の伝承など、ハード・ソフト両面から防災に取り組み、平成15年には「津波防災の町」を宣言した。こうした「防災のまち」としての長年の努力も、今回の津波は市街地で津波浸水高16・6メートル、津波遡上高20・72メートルを記録するなど、巨大津波が第一・第三堤防を越え、第二堤防が破壊された。

防潮堤を越えた津波は、市街地を破壊しながら押し流し、平坦部は全て浸水、大平から長内川までの住宅全てが流失した。この壊滅的な被害により1千300人以上が避難した。青砂里―和野・乙部・荒谷の熊野神社付近で山林火災が発生し、3月16日によく鎮火した。

田老第一小学校には被害がなかったが、田老総合事務所は道路に面した車庫が損壊した。田老第一中学校校舎は床上30センチの浸水、校庭はガレキで埋め尽くされた。田老魚市場・田老保育所・国民健康保険田老診療所・宮古消防署田老分署など主要施設は全壊した。田老漁業協

同組合ビルは全壊したが修理復旧している。

摂待地区は摂待漁港のあわび増殖センターが全壊、摂待海岸水門は扉が破壊され摂待川をさかのぼった。下摂待橋は流失したが、田老第三小学校は浸水しなかった。

B 宮古地域

宮古市は岩手県内でも陸中沿岸の中核都市に位置づけられ、宮古地域は宮古広域生活圏における中心として都市・産業基盤整備が進められてきた。

三陸漁場をひかえりアス式海岸の岩礁と閉伊川河口の砂浜により多様で豊富な漁業資源に恵まれる宮古湾は、重茂半島によって太平洋の荒波から守られた天然の良港でもあり、江戸時代より代官所が置かれ南部の宮古港として盛岡藩内随一の繁華地となった。「南部鼻曲り鮭」として本州一の水揚げを誇るサケ、サンマ・アワビ・ウニ・ワカメなど四季を通じて多様な海産物が水揚げされ、明治維新後も漁業と交易の町として発展してきた。昭和8年の三陸地震津波後に国策として銅精錬や石灰製造工場が誘致され、国鉄山田線が開通するなど都市として大きく発展した。戦後は藤原埠頭が整備され、港の後背地に合板を中心とする木材工業の企業が立地する搬入港となった。現在は金型・コネクタ―関連企業も誘致され、漁業・木材工業と共に重要な基幹産業となっている。

JRおよび三陸鉄道宮古駅を中心として商業施設が集積する「中心市街地地区」、金融機関や電気・通信事業者の社屋が並ぶ「愛宕・築地・光岸地地区」、魚市場や水産加工施設が集積し景勝地浄土ヶ浜を有する「鍛ヶ崎地区」、潮吹穴・姉ヶ崎などの景勝地や中の浜キャンプ場などの観光施設が点在する「崎山地区」、港湾施設や物流施設を有する「藤原地区」、市民文化会館や県立宮古短期大学・商業・水産高校が点在する「磯鶏地区」、住宅地が連なり三陸沿岸道路宮古南インターチェンジがある「高浜・金浜地区」、電子部品関連企業が集積する「津軽石・赤前地区」、漁村集落の「堀内・白浜地区」に分けることができる。

① 中心市街地地区

今回の津波は出崎埠頭を飲み込み、築地・新川町の堤防を越え市役所も2階まで浸水、閉伊川のJ R山田線の橋梁も6桁を流失した。津波は向町・大通から宮古駅、本町・新町・黒田町・末広町へと広がり、中央通り商店街には漁船が打ち揚げられた。本町・末広町商店街も1・5メートルほど浸水、車両が重なりガレキの山となり、中心市街地の被害は広範囲にわたった。

② 愛宕・築地・光岸地区

明治維新後に埋め立てられた築地地区、昭和12年に完成した出崎埠頭では、住家が流失し岩手銀行・NTT・東北電力などのビルは残ったもののほぼ1階が浸水した。国道45号線がガレキで不通になり、愛宕地区も国道沿いの住家が全壊し、地区の半分以上が浸水した。

③ 鍬ヶ崎地区

津波防潮堤のない鍬ヶ崎地区は、平坦部がほぼ全滅の被害となった。漁港の岸壁沿いにある魚市場や水産加工関連施設を破壊した波と蛸の浜の岬を越えた波が蛸の浜町でぶつかり、ドックで整備中の浄土ヶ浜観光遊覧船が港町に打ち揚げられた。鍬ヶ崎小学校は校庭と校舎昇降口まで浸水、体育館が床上浸水であった。

④ 崎山地区

女遊戸海岸の水門が破壊され、集落の半分以上が浸水、宮古栽培漁業センターが全壊した。中の浜キャンプ場も流失、宿漁港は岸壁が破壊され、日出島地区はほぼ全域が浸水した。

⑤ 藤原地区

藤原地区は中屋造船所前の水門が破れ、藤原埠頭の防潮堤を越えて津波が浸入、国道45号線を越えてJ R山田線の線路に達した。45号線周辺から海側の水産加工関係の工場や住宅、旧藤原保育所など被害が大きかった。藤原小学校は校庭が浸水した。

⑥ 磯鶏地区

磯鶏地区は防潮堤から海側の埠頭にある合板工場や運輸・倉庫施設はもちろん、三陸北部森林管理署・宮古市民文化会館など国道45号線

沿いに大きな被害が出た。津波はJ R磯鶏駅を越えて磯鶏西や上村まで浸水した。八木沢川沿いの合板工場、宮古水産高校まで浸水した。リアスハーバーも全壊、貯木場から木材(丸太)が流失した。

⑦ 高浜・金浜地区

昭和35年のチリ地震津波でも大きな被害が出た高浜・金浜は、国道45号はガレキのため不通、集落に車両が入れず孤立状態になった。高浜は国道45号線が走る堤防を津波が越えて浸水し、高浜地区センターが全壊するなどバス路線沿いで被害が大きかった。高浜小学校は校庭まで浸水した。

金浜地区は、防潮堤が30メートルほど破損し、平坦地の住家がほぼ全壊し、江山寺も浸水、金浜神社の鳥居が倒壊した。

⑧ 津軽石・赤前地区

津軽石は、津軽石川水門を越えて川を遡り、稲荷橋が水没した。法の脇地区もほぼ全家屋が流失し、津軽石駅付近で列車が脱線した。津軽石出張所・津軽石公民館が全壊し、本町では全壊した住家や床上1・5メートルほどの浸水となった。津軽石保育所が全壊したが、津軽石小学校は校庭の浸水にとどまった。津軽石川を遡上した波が、根井沢川に入り新町下地区にも被害がでた。

赤前地区は北から入った津波が運動公園を飲み込み、真っ直ぐ南へ進んだ。平坦部の住家押し流し、大量のガレキが宮古工業高校のグラウンドに流れ込み、ふ化場まで浸水した。

⑨ 堀内・白浜地区

釜ヶ沢地区はほぼ全域が浸水し、小堀内・堀内・白浜地区も集落の半分以上が浸水した。地盤沈下のため満潮時や高潮で重茂半島線に海水が入るようになり、かさ上げ工事が行われている。

C 重茂地域

三陸沿岸で太平洋に突き出た重茂半島は、親潮と黒潮が交錯する豊かな三陸漁場が広がっている。ワカメ・コンブ・ウニ・アワビ・サケなどの漁業資源は、三陸沿岸随一の品質と水揚げ量を誇る漁業の地域

である。本州最東端の地で映画「喜びも悲しみも幾年月」の舞台となった鮎ヶ崎灯台の拠点となる姉吉キャンプ場、宮古湾を一望できる月山、原生林が残る十二神山など海と山の自然に恵まれる地域である。

半島である地域内の大部分が山林であり、人々の多くが重茂館・重茂里・音部・姉吉・千鶏・石浜など漁港の後背地と周辺の高台に居住している。リアス式海岸の特徴である深い入江と高い断崖がつづき、主要地方道重茂半島線は、赤前から海岸を通りカーブと坂をくり返しながら集落を結んでいる。

外洋に面するため、明治と昭和の三陸地震津波では大きな被害が出ている。明治・昭和の二度とも全滅の被害を出した姉吉は、津波記念碑を建てて高台に居住し、今回の津波では最高津波遡上高40・5㍎を記録しながら流失家屋がなかった。

半島西側で宮古湾に面した白浜・浦の沢・追切の漁港、外洋に面した立浜・鵜磯・荒巻・重茂・音部・姉吉・千鶏・石浜・川代、全ての漁港に津波が襲来し、防潮堤や護岸を破壊、集荷・荷さばき場や冷蔵庫、水産加工施設、サケ・アワビ種苗生産施設などが全壊した。漁船の被害は市全体で2千629隻に及んだ。

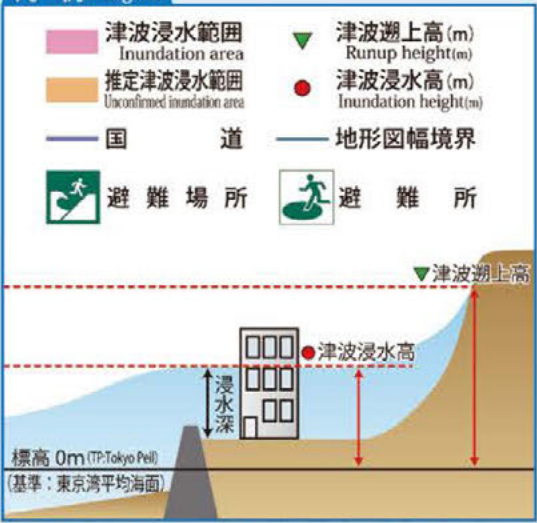
住家は音部里と重茂里でほぼ流失した。重茂里の向渡橋が落橋し、姉吉・千鶏・石浜が孤立する事態となった。千鶏は県道重茂半島線の上野商店まで津波が到達し、石浜も集落の半分ほどが浸水した。鵜磯小学校は校舎一階、千鶏小学校は校舎二階まで浸水した。

1

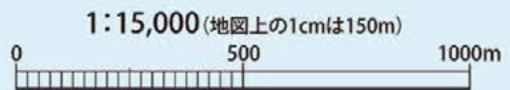
3 宮古市東日本大震災浸水図



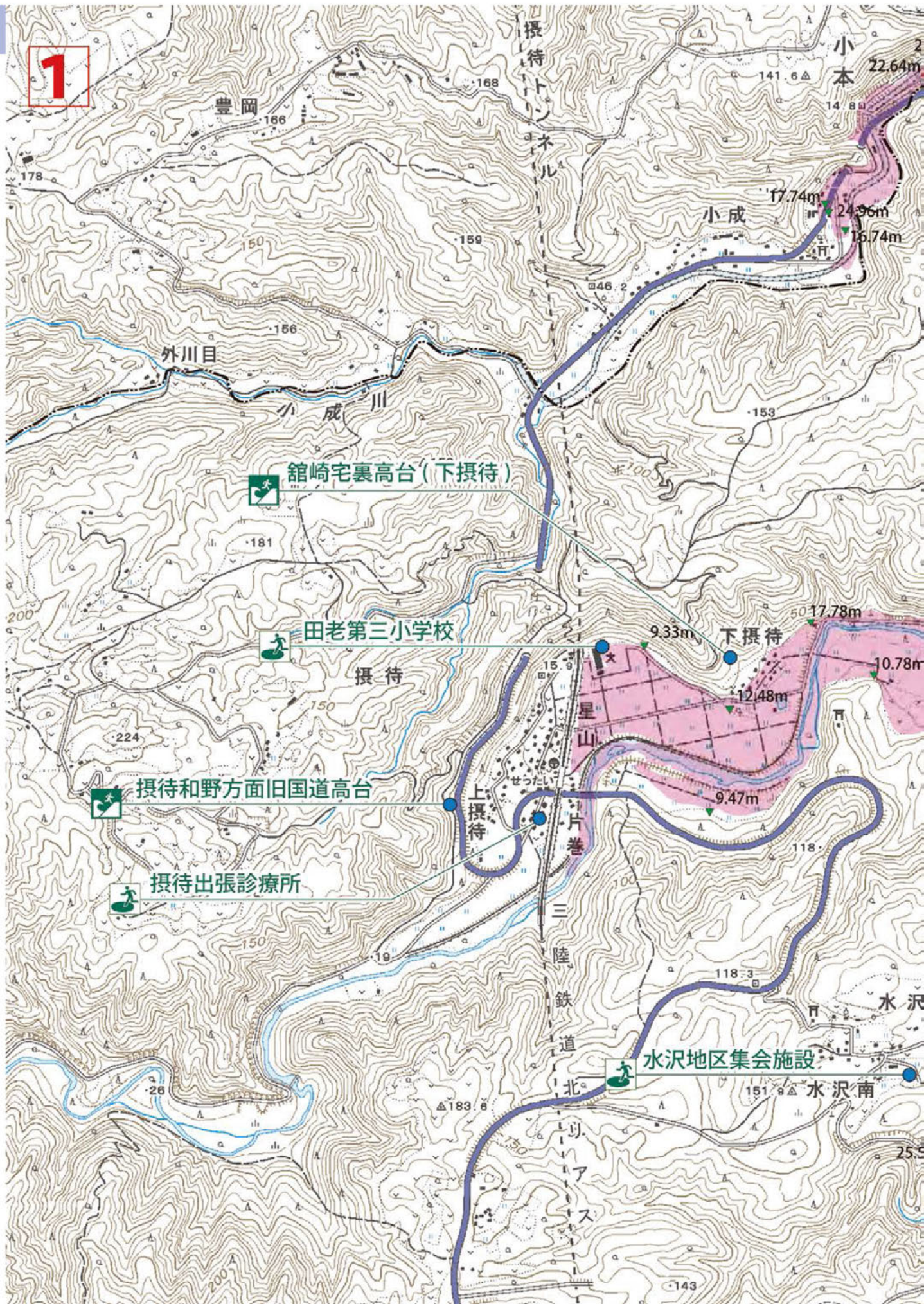
凡例/ Legend



注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による



1



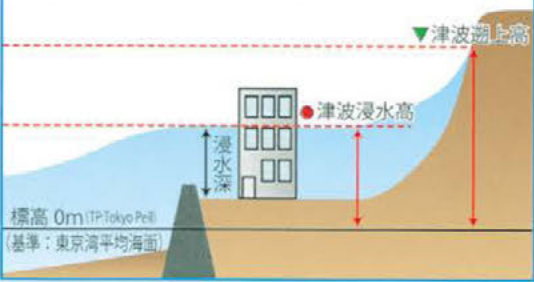


青野滝地区集会施設



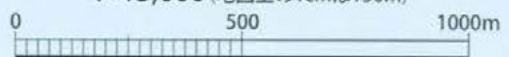
凡例 / Legend

	津波浸水範囲 Inundation area		津波遡上高(m) Runup height(m)
	推定津波浸水範囲 Unconfirmed inundation area		津波浸水高(m) Inundation height(m)
	国道		地形図幅境界
	避難場所		避難所

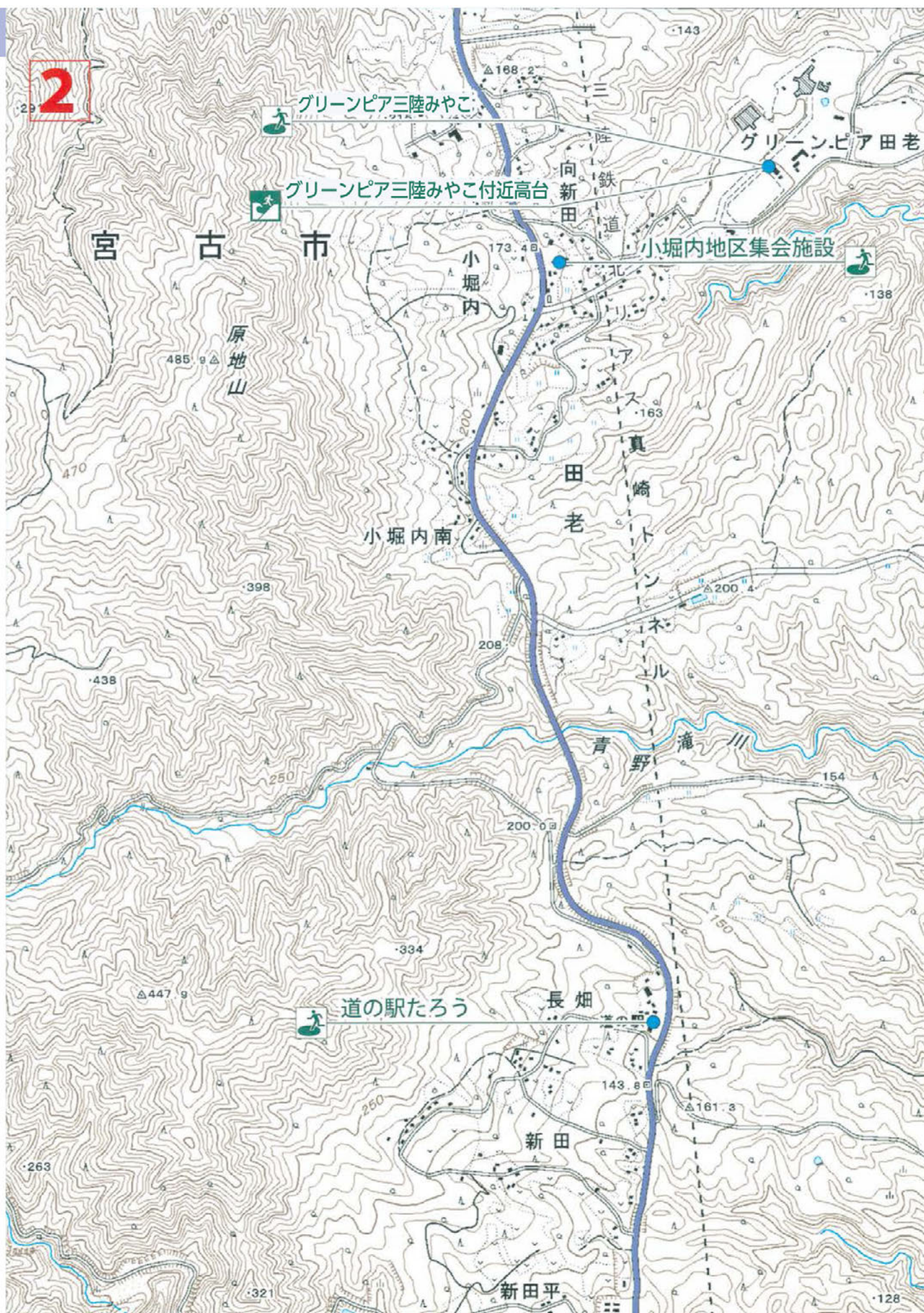


注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による

1:15,000 (地図上の1cmは150m)



2





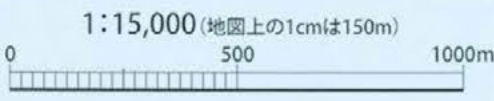
- 乙部自治会研修センター裏高台
- 出羽神社高台
- 三王岩展望台付近駐車場高台



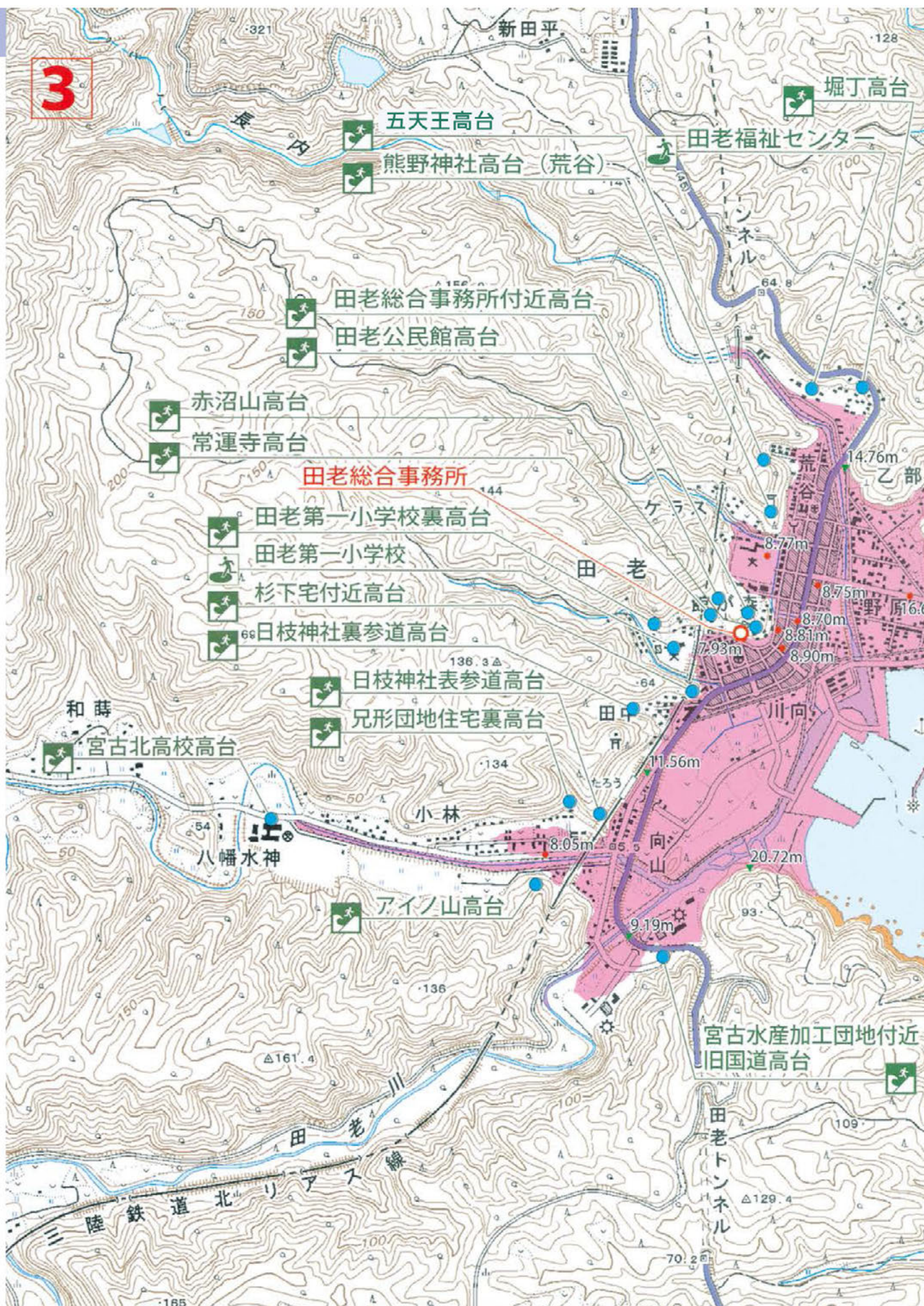
凡例 / Legend

津波浸水範囲 Inundation area	津波遡上高 (m) Runup height (m)
推定津波浸水範囲 Unconfirmed inundation area	津波浸水高 (m) Inundation height (m)
国道	地形図幅境界
避難場所	避難所

注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による

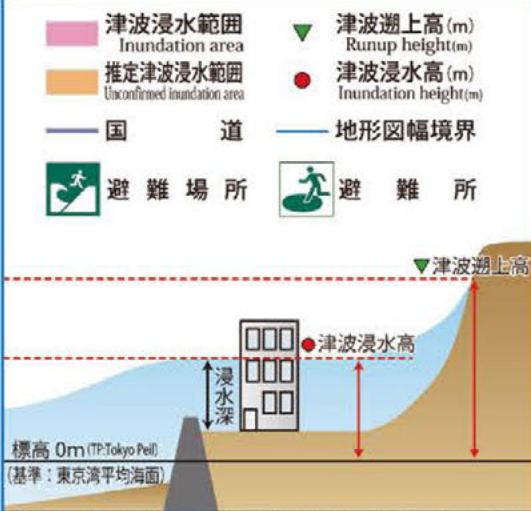


3





凡例/ Legend



注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による



1:15,000 (地図上の1cmは150m)



4





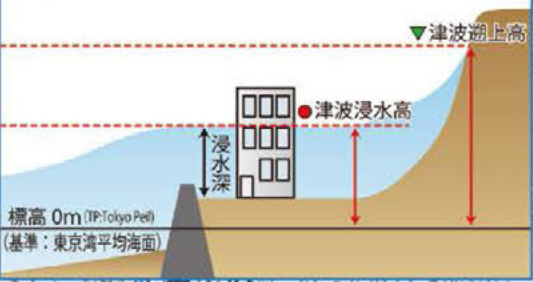
5

1:15,000 (地図上の1cmは150m)
0 500 1000m

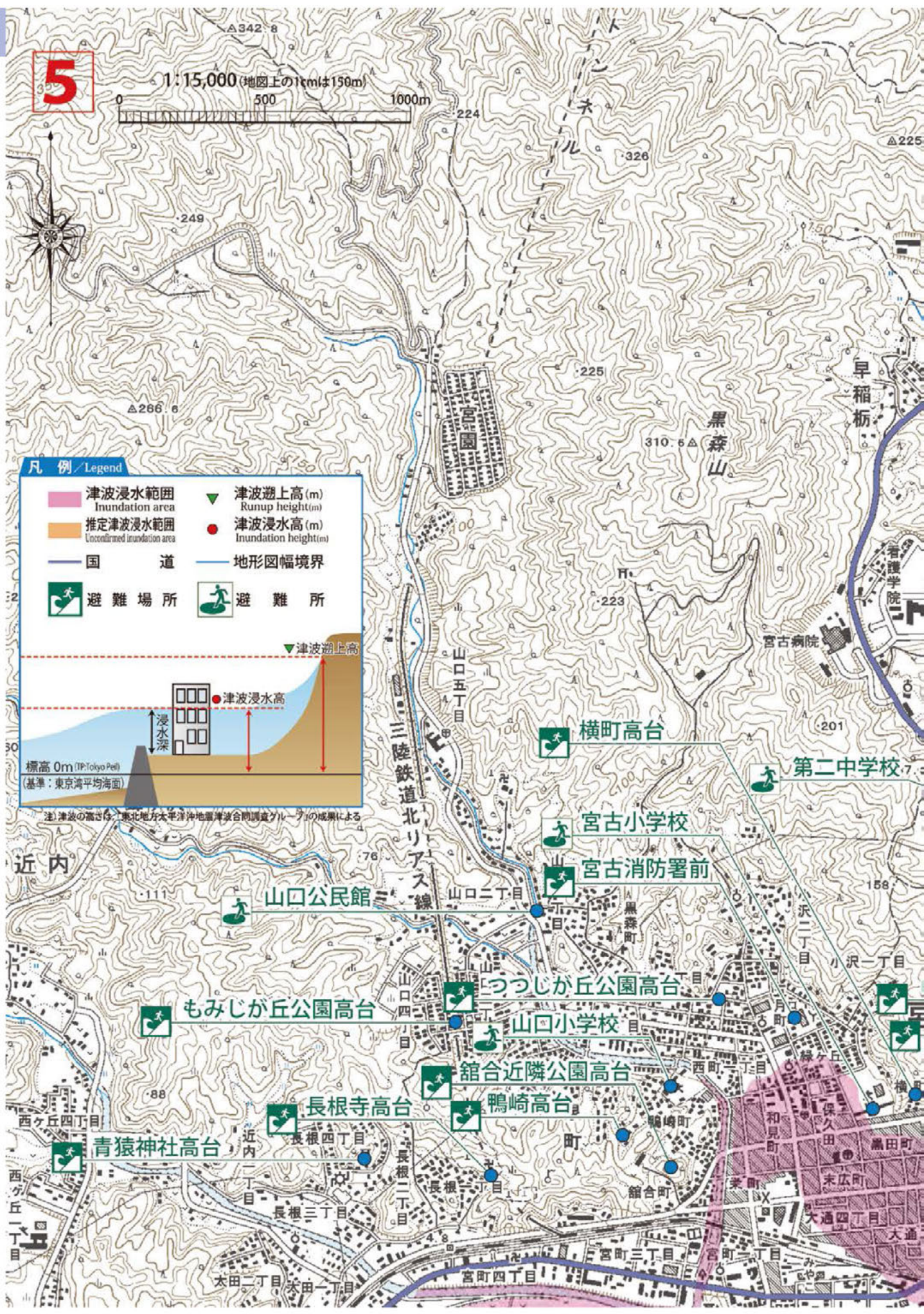


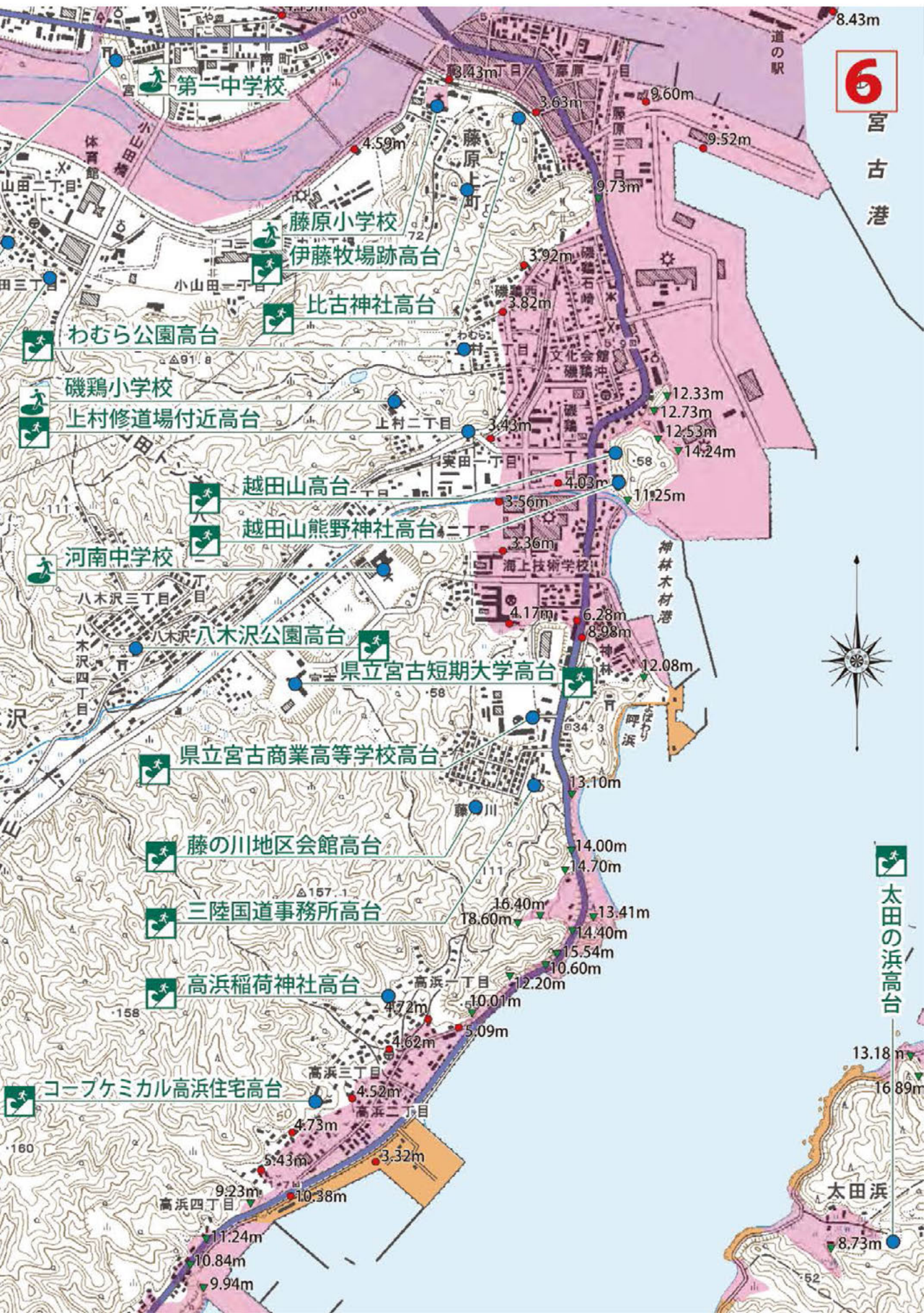
凡例 / Legend

- 津波浸水範囲
Inundation area
- 推定津波浸水範囲
Unconfirmed inundation area
- 国
- 道
- 避難場所
- 避難所
- 津波遡上高 (m)
Runup height (m)
- 津波浸水高 (m)
Inundation height (m)
- 地形図幅境界

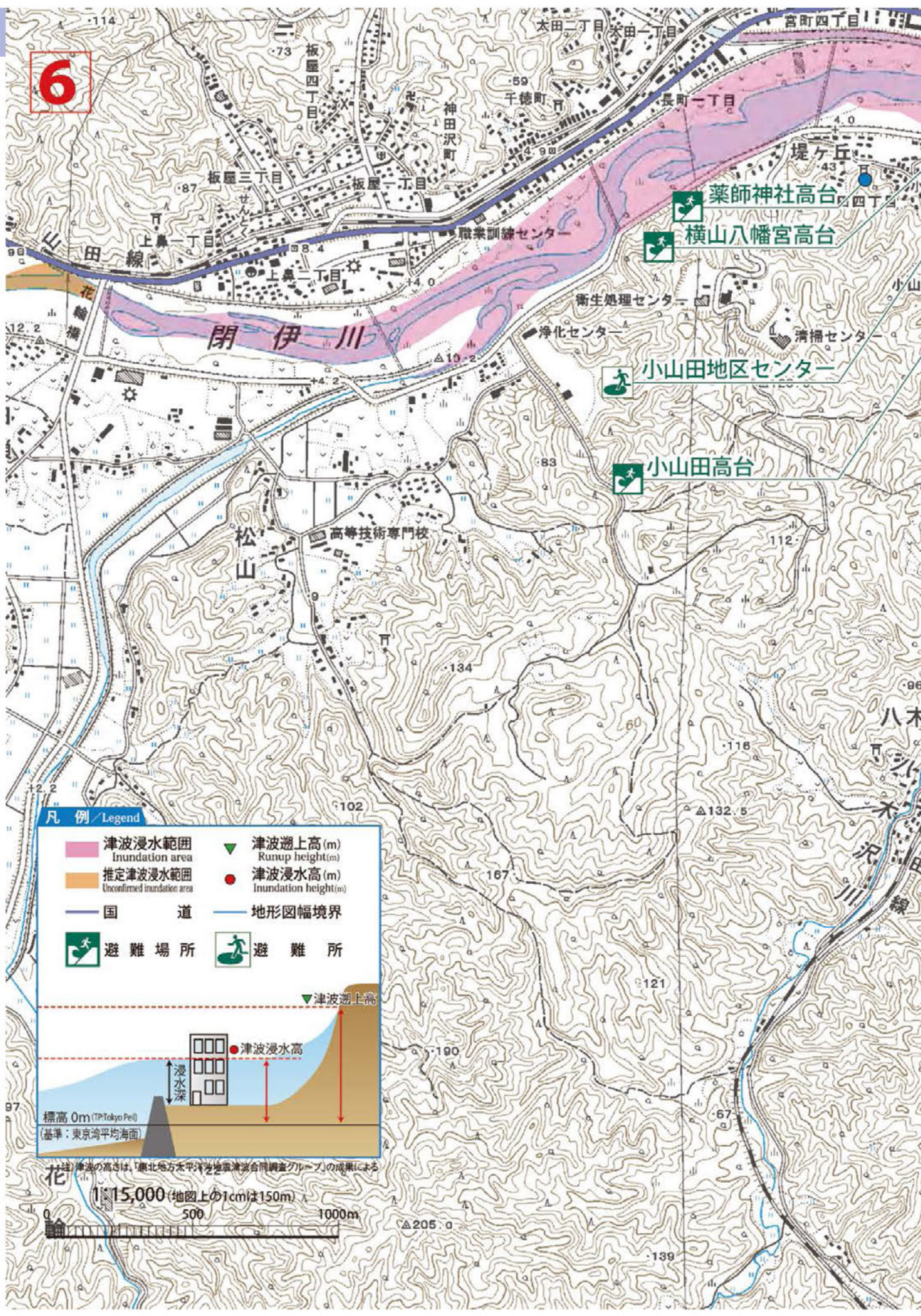


注) 津波の高さは、東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループの成果による

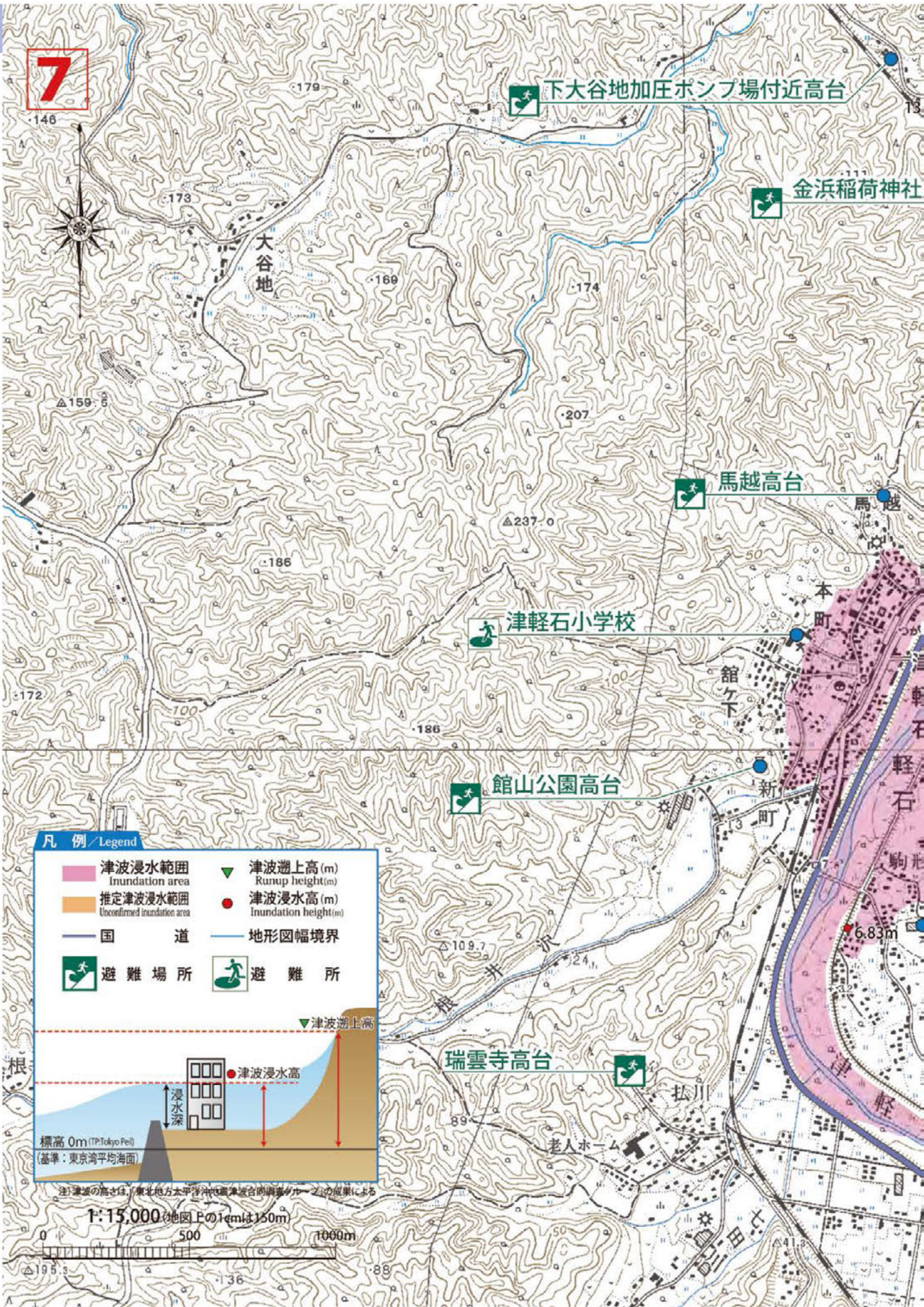




6



7



凡例 / Legend

- 津波浸水範囲 (Inundation area)
- 推定津波浸水範囲 (Unconfirmed inundation area)
- 国道 (National road)
- 地形図幅境界 (Topographic map boundary)
- 避難場所 (Evacuation site)
- 避難所 (Evacuation shelter)
- 津波遡上高 (m) (Runup height (m))
- 津波浸水高 (m) (Inundation height (m))

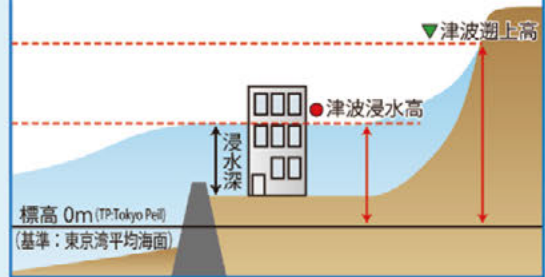
標高 0m (TP:Tokyo Peil)
(基準:東京湾平均海面)

注)津波の高さは、東北地方太平洋沖地震津波合同調査チームの結果による

1:15,000 (地図上の1cmは150m)

凡例 / Legend

- 津波浸水範囲
Inundation area
- 推定津波浸水範囲
Unconfirmed inundation area
- 国道
- 地形図幅境界
- 避難場所
- 避難所
- 津波遡上高 (m)
Runup height (m)
- 津波浸水高 (m)
Inundation height (m)



注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による

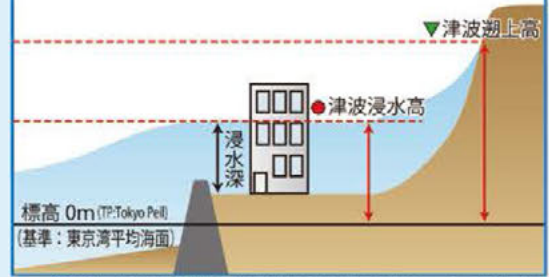






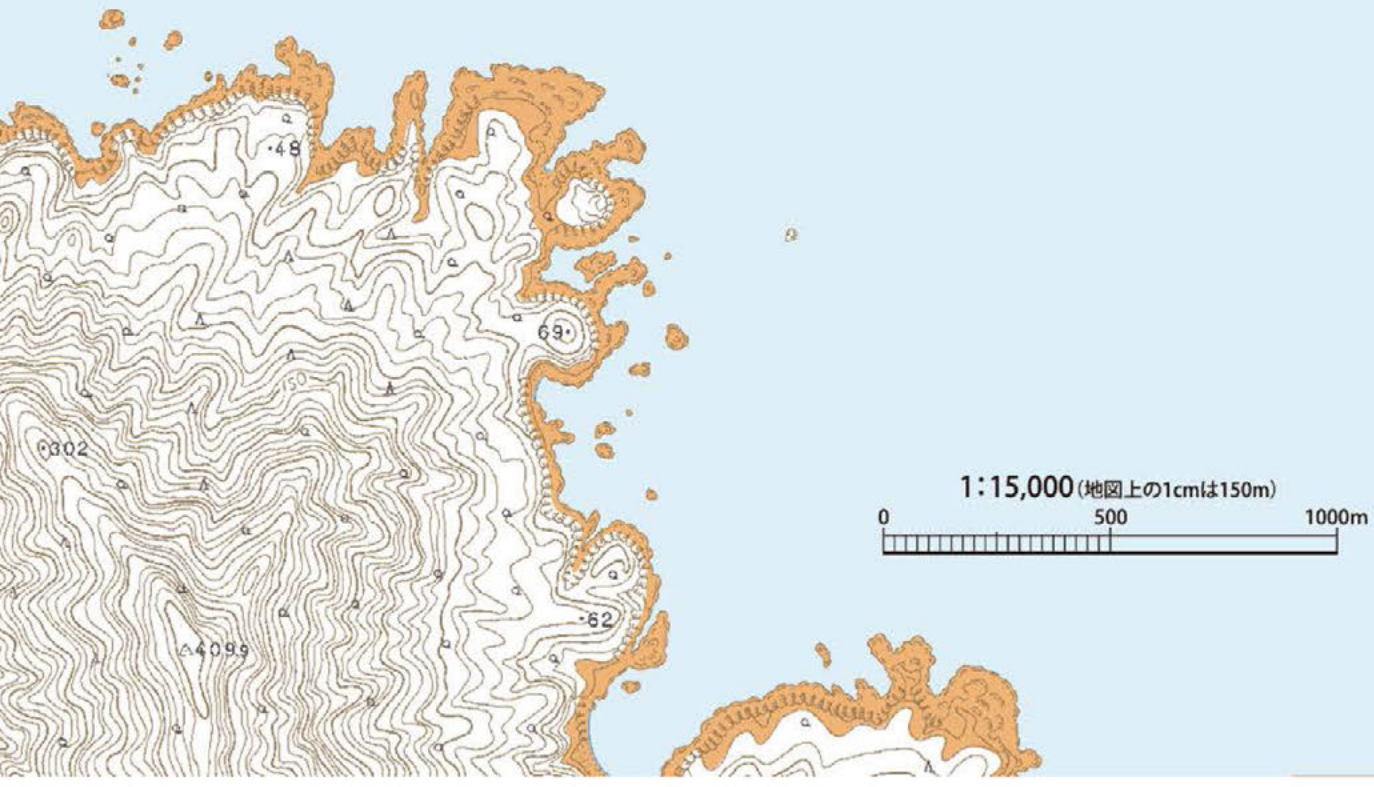
凡例 / Legend

- 津波浸水範囲
Inundation area
- 推定津波浸水範囲
Unconfirmed inundation area
- 国 道
- 避難場所
- 避難所
- 津波遡上高 (m)
Runup height (m)
- 津波浸水高 (m)
Inundation height (m)
- 地形図幅境界



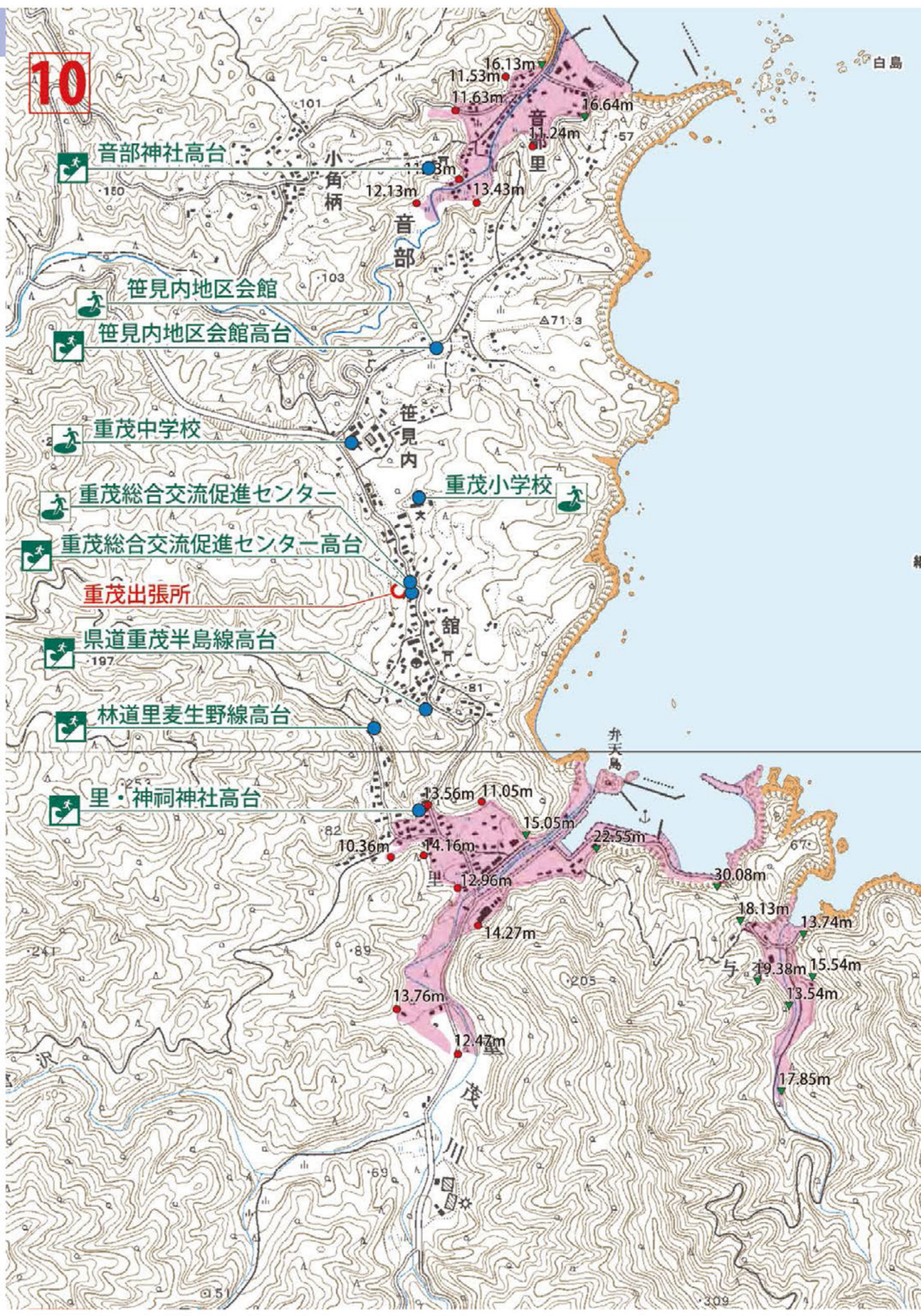
注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による

子島



10

白島





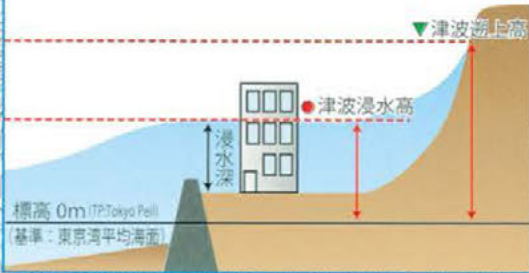
1:15,000 (地図上の1cmは150m)



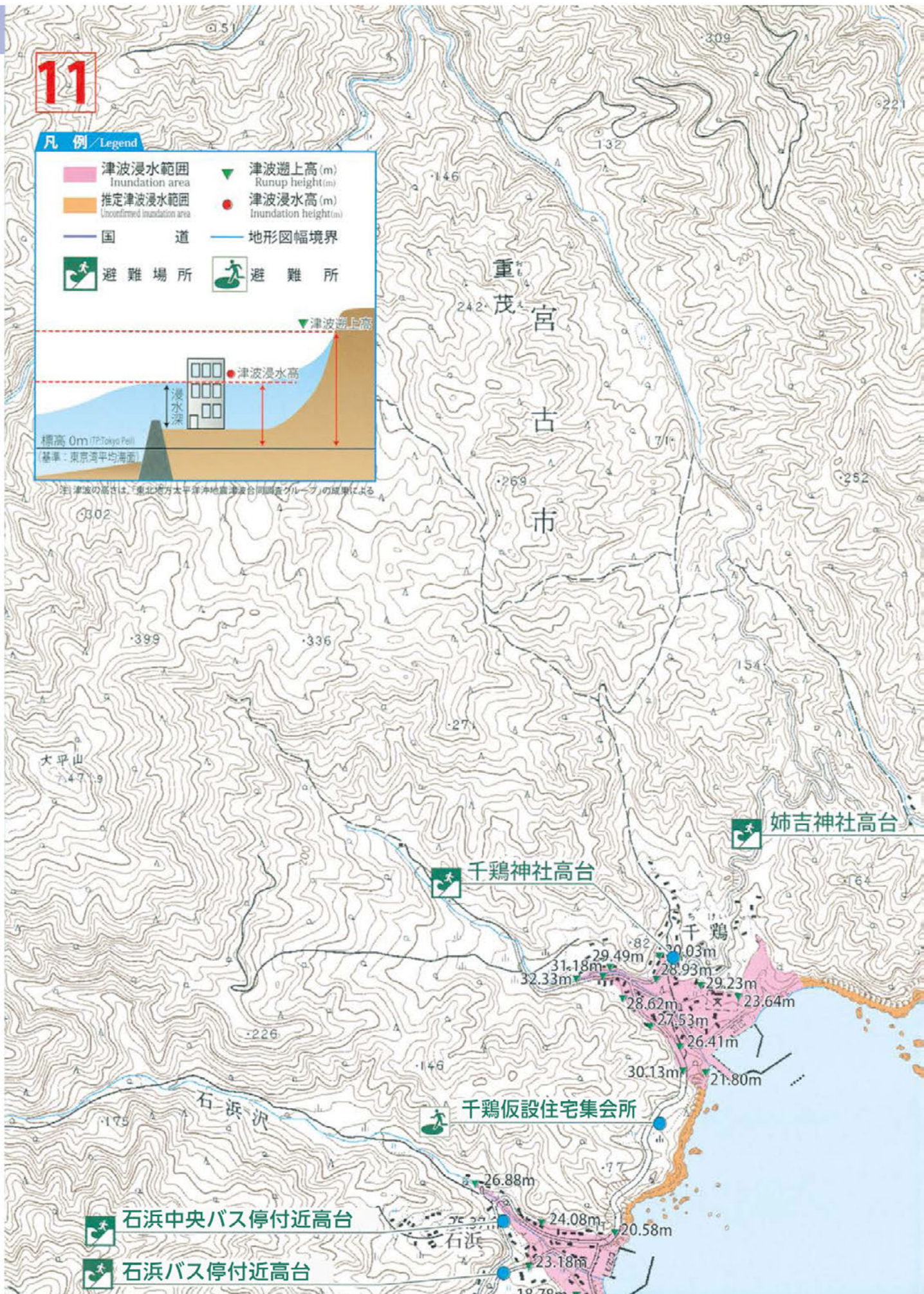
11

凡例 Legend

- 津波浸水範囲
Inundation area
- 推定津波浸水範囲
Unconfirmed inundation area
- 国道
- 避難場所
- 津波遡上高 (m)
Runup height (m)
- 津波浸水高 (m)
Inundation height (m)
- 地形図幅境界
- 避難所



注: 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による。



12

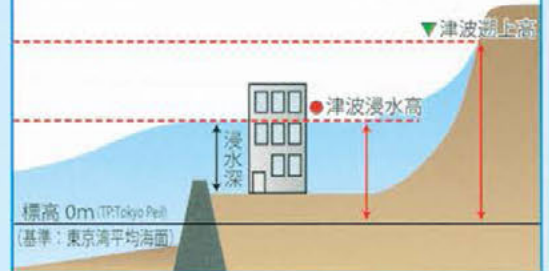


山
田
湾



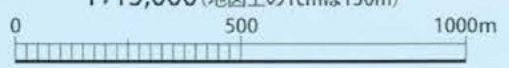
凡例 / Legend

- 津波浸水範囲 (Inundation area)
- 推定津波浸水範囲 (Unconfirmed inundation area)
- 国 道 (National Road)
- 避難場所 (Evacuation site)
- 津波遡上高 (m) (Runup height (m))
- 津波浸水高 (m) (Inundation height (m))
- 地形図幅境界 (Topographic map boundary)
- 避難所 (Evacuation shelter)



注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による

1:15,000 (地図上の1cmは150m)



仮宿崎

小根崎





4 東日本大震災に伴う対応状況

(1) 「東日本大震災の記録」岩手県宮古市」より
東日本大震災に伴う対応状況（最終報）平成24年8月31日現在

1. 地震の状況（気象庁発表）

- (1) 発生時刻 平成23年3月11日 14時46分頃
- (2) 震源地 三陸沖（北緯38・1度、東経142・9度、牡鹿半島の東南東約130キロメートル付近）
- (3) 震源の深さ 約24キロメートル
- (4) 震源の規模 マグニチュード9・0（平成23年3月13日気象庁発表）
- (5) 震度 震度5強 茂市
震度5弱 五月町、鉾ヶ崎、長沢、田老、川井、門馬田代
- (6) 警報等の発表 平成23年3月11日 14時49分 大津波の津波警報
平成23年3月12日 20時20分 津波の津波警報に切替
平成23年3月13日 7時30分 津波の津波注意報に切替
平成23年3月13日 17時58分 津波の津波注意報解除

2. 津波の状況（気象庁発表）

- (1) 最大波 平成23年3月11日 15時26分 高さ8・5メートル以上（※1）
痕跡等から推定した津波の高さ7・3メートル（※2）
- ※1 後日現地でも回収した津波観測点の記録の分析結果
- ※2 津波観測点付近において津波の痕跡等から津波の高さを調査した結果（平成23年4月5日盛岡地方気象台発表）
- （参考）津波遡上高（陸地を駆け登り到達した津波の高さ）
- 田老小堀内地区 37・9メートル（東大地震研究所発表）
- 重茂姉吉地区 40・5メートル（学術合同調査グループ発表）

3. 宮古市災害対策本部の設置・廃止状況

- (1) 宮古市災害対策本部設置 平成23年3月11日 14時46分
- (2) 宮古市災害対策本部廃止 平成24年8月31日 17時00分

※これまで「宮古市災害対策本部（関係機関合同）会議」を78回開催し活動調整を実施

4. 水ひ門の閉鎖状況

- (1) 警報発表時 閉鎖水ひ門数111箇所（宮古地区93箇所、田老地区18箇所）
- ※被災25箇所、うち宮古地区11箇所、田老地区14箇所

5. 避難状況

- (1) 避難指示発令 平成23年3月11日 14時49分
- (2) 避難指示解除 平成23年3月13日 17時58分
- (3) 避難指示対象 5千277世帯、1万2千842人
- (4) 避難者数 最大時85箇所、8千889人（平成23年8月10日に指定避難所を全て閉鎖）
- (5) 避難者対応
食事提供、炊き出し（一部避難所）、給水提供、毛布提供、日用品等提供、仮設トイレ設置（一部避難所）、入浴支援（一部避難所）、医療提供（医療チーム・宮古医師会）、衛星携帯電話等設置（一部避難所）など

6. 被害状況

(1) 人的被害及び住家等被害（平成24年8月3日現在）

人的被害			住家等被害			
死亡 届出者	死亡 認定者	合計	全壊	大規模 半壊	半壊	一部 壊
407人	110人	517人	5,968棟	1,335棟	1,174棟	611棟
		行方 不明者				合計
		96人				9,088棟

※死亡認定者と行方不明者は重複している。「死亡認定者」110人と「行方不明者」96人の差14人は、死亡認定の届出後に遺体またはDNA鑑定で行方不明者本人と特定された方の人数である。

7. ライフラインの復旧状況

(1) 電力（東北電力発表）

- ・ 3/14 県立宮古病院、県振興局復旧
- ・ 3/21 1万6千件の停電のうち流失約4千件、約1万2千件は復旧を進める
- ・ 3/25 市役所復旧（この間は発電機使用）、市内40%復旧（戸別復旧）
- ・ 4/15 東北電力営業所の受電完了
- ・ 4/30 市内完全復旧

(2) 上水道

- ・ 3/14 復旧率60%
- ・ 3/18 復旧率76%
- ・ 3/24 復旧率90%
- ・ 4/15 復旧率100%

(3) 通信

○固定電話

- ・ 3/30 宮古局復旧
- ・ 3/31 市役所光ケーブル復旧
- ・ 4/15 市内復旧（市内のすべての地区で復旧）

○携帯電話

- ・ 3/21 NTTドコモ一部復旧（重茂地区、田老地区以外復旧）
- ・ 4/15 NTTドコモとau完全復旧、ソフトバンク仮復旧（au、NTTドコモ（重茂里、鮎ヶ崎、中の浜周辺を除く）、ソフトバンク使用可能）

○特設公衆電話

- ・ 3/14 NTTの特設公衆電話、衛星携帯電話などを避難所に設置
- ・ 3/22 「みやこ災害エフエム/77・4MHz」により臨時災害放送

(4) 公共交通機関

- JR山田線
- ・ 3/26 宮古―盛岡間で通常ダイヤ運行、宮古―岩手船越間及び岩

泉線で代行バス運行

（閉伊川鉄橋（落橋）から津軽石にかけて線路流失：復旧方法検討中）

○三陸鉄道

- ・ 3/20 宮古―小本間で1日3往復運行開始
- ・ 3/29 1日4便で運行中

○県北バス

- ・ 3/16 106号バス再開
- ・ 3/18 全線再開

(5) 道路

- ・ 国道、当日から主要幹線の啓開作業開始、警察は交通規制開始
- ・ 国・県道と連携し、主要な市道から順次啓開作業を開始
- ・ 3/14 国道開通
- ・ 3/16 県道重茂半島線開通
- ・ 3/23 公道上の車両撤去完了（1千300台）
- ・ 3/29 概ね完了
- ・ 4/15 歩道の瓦礫撤去完了、以降、本復旧に移行
- ・ 7/31 JR山田線館合踏切の通行止解除

8. その他

(1) 応急仮設住宅（当初希望者分は平成23年8月11日までに入居済）

建設戸数		入居状況（平成24年7月6日までに入居済）		
箇所数	戸数	入居箇所数	戸数	入居者数
62箇所	2,010戸	60箇所	1,713戸	3,883人

(2) 適用された主な制度等

- ・ 激甚災害の指定（平成23年3月12日閣議決定）
- ・ 災害救助法の適用（平成23年3月12日岩手県知事が決定）
- ・ 被災者生活再建支援法の適用（平成23年3月12日岩手県知事が決定）

5 東日本大震災による死者数及び行方不明者数

平成 24 年 11 月 6 日現在

■年代（死者欄及び行方不明者欄の死亡認定者数は重複）

年代	死者			行方不明者 ※死亡認定者
	死亡届出者	死亡認定者	合計	
0歳～9歳	10人	9人	19人	9人
10歳～19歳	2人		2人	
20歳～29歳	10人	5人	15人	5人
30歳～39歳	16人	11人	27人	8人
40歳～49歳	28人	11人	39人	10人
50歳～59歳	56人	14人	70人	11人
60歳～69歳	91人	31人	122人	25人
70歳～79歳	106人	20人	126人	19人
80歳～89歳	74人	9人	83人	7人
90歳～99歳	14人		14人	
合計	407人	110人	517人	94人

■住所（死者欄及び行方不明者欄の死亡認定者数は重複）

地区	死者			行方不明者 ※死亡認定者
	死亡届出者	死亡認定者	合計	
宮古地区	63人	5人	68人	5人
鉾ヶ崎地区	48人	9人	57人	8人
千徳地区	11人	1人	12人	1人
磯鶏地区	58人	7人	65人	7人
崎山地区	8人	14人	22人	9人
花輪地区	5人	1人	6人	
津軽石地区	53人	4人	57人	3人
重茂地区	24人	24人	48人	20人
田老地区	136人	45人	181人	41人
新里地区	1人		1人	
合計	407人	110人	517人	94人

■性別（死者欄及び行方不明者欄の死亡認定者数は重複）

性別	死者			行方不明者 ※死亡認定者
	死亡届出者	死亡認定者	合計	
男性	182人	69人	251人	59人
女性	225人	41人	266人	35人
合計	407人	110人	517人	94人

□「死亡届出者」とは、平成23年3月11日現在において宮古市に住民登録があり、東日本大震災による直接的な原因（死因：溺死、肺炎など）で死亡した方である。

□「死者欄の死亡認定者」110人と「行方不明者欄の死亡認定者」94人の差16人は、死亡認定の届出後に遺体またはDNA鑑定で行方不明者本人と特定された方の人数である。

地区	死者			行方不明者 ※死亡認定者	
	死亡届出者	死亡認定者	合計		
宮古	新川町	7人		7人	
	向町	24人	1人	25人	1人
	大通	2人		2人	
	館合町	1人		1人	
	西町	1人		1人	
	山口	5人		5人	
	保久田		1人	1人	1人
	黒田町	2人		2人	
	築地	9人	2人	11人	2人
	愛宕	1人		1人	
	光岸地	11人		11人	
	宮園		1人	1人	1人
	63人	5人	68人	5人	
鉾ヶ崎	鉾ヶ崎	17人	3人	20人	3人
	中里団地	1人		1人	
	日影町	1人		1人	
	熊野町	3人	2人	5人	2人
	蛸の浜町	17人	1人	18人	1人
	山根町	5人	1人	6人	1人
	港町	1人		1人	
	日立浜町	3人	1人	4人	1人
	日の出町		1人	1人	
	48人	9人	57人	8人	
千徳	近内	3人		3人	
	西ヶ丘	1人		1人	
	長根	4人	1人	5人	1人
	太田	1人		1人	
	上鼻	1人		1人	
	板屋	1人		1人	
	11人	1人	12人	1人	

地区	死者			行方不明者 ※死亡認定者	
	死亡届出者	死亡認定者	合計		
磯鶏	藤原	5人	1人	6人	1人
	小山田	3人	1人	4人	1人
	磯鶏	8人		8人	
	上村	1人	1人	2人	1人
	河南	1人		1人	
	神林	3人	1人	4人	1人
	藤の川	2人		2人	
	八木沢	4人	1人	5人	1人
	高浜	4人	1人	5人	1人
	金浜	27人	1人	28人	1人
	58人	7人	65人	7人	
崎山	崎山	3人	1人	4人	
	崎鉾ヶ崎	5人	13人	18人	9人
	8人	14人	22人	9人	
花輪	田鎖	1人		1人	
	松山	1人		1人	
	老木		1人	1人	
	長沢	3人		3人	
	5人	1人	6人		
津軽石	津軽石	28人	3人	31人	2人
	赤前	25人	1人	26人	1人
		53人	4人	57人	3人
重茂	重茂	21人	23人	44人	19人
	音部	3人	1人	4人	1人
	24人	24人	48人	20人	
田老	田老	136人	45人	181人	41人
		136人	45人	181人	41人
新里	刈屋	1人		1人	
		1人		1人	
合計	407人	110人	517人	94人	

6 東日本大震災による家屋倒壊数

■家屋倒壊数の内訳（平成24年6月29日現在）

単位：棟

地区別	住家					非住家				
	全壊	大規模半壊	半壊	一部破損	合計	全壊	大規模半壊	半壊	一部破損	合計
宮古	461	242	208	170	1,081	447	233	168	71	919
鉾ヶ崎	527	16	16	36	595	487	11	9	10	517
藤原	82	129	85	27	323	123	114	59	9	305
磯鶏	133	109	146	80	468	185	81	118	18	402
高浜	66	34	29	11	140	99	41	29	9	178
金浜	129	5	1	5	140	159	5	2	1	167
白浜	15	2	4	4	25	43	2	5	0	50
崎山	40	4	10	27	81	90	4	1	7	102
花輪	0	0	1	10	11	0	0	3	7	10
津軽石	414	116	104	49	683	538	124	88	20	770
重茂	81	4	3	8	96	295	11	6	6	318
田老	729	27	32	13	801	821	21	45	3	890
新里	0	0	1	2	3	3	0	1	5	9
川井	0	0	0	2	2	1	0	0	1	2
合計	2,677	688	640	444	4,449	3,291	647	534	167	4,639

地区別	住家				
	全壊	大規模半壊	半壊	一部破損	合計
宮古	908	475	376	241	2,000
鉾ヶ崎	1,014	27	25	46	1,112
藤原	205	243	144	36	628
磯鶏	318	190	264	98	870
高浜	165	75	58	20	318
金浜	288	10	3	6	307
白浜	58	4	9	4	75
崎山	130	8	11	34	183
花輪	0	0	4	17	21
津軽石	952	240	192	69	1,453
重茂	376	15	9	14	414
田老	1,550	48	77	16	1,691
新里	3	0	2	7	12
川井	1	0	0	3	4
合計	5,968	1,335	1,174	611	9,088

■家屋倒壊数の内訳（発災初期時の速報数値）

地区別	全壊	半壊	一部破損	床上水浸	床下水浸	合計
宮古	722	647	118	1,262	247	2,996
鉾ヶ崎	646	136		33		815
崎山	148	24		17	6	195
花輪						0
津軽石	426	136	57	287	56	962
重茂	118	4	1	11	2	136
田老	1,609	59		150	12	1,830
合計	3,669	1,006	176	1,760	323	6,934

※平成24年6月29日現在の数値は、震災時の住民票データを基に罹災証明書の申請件数を集計した。
重複疑いのある建物は、住宅地図等で確認した。

■住宅被害額

全壊	大規模半壊	半壊	一部破損
123,537,600千円	13,817,250千円	9,720,720千円	2,529,540千円
合計		149,605,110千円	

7 東日本大震災による被害推計総額

245,660,884 千円

被害区分	被害推計額 (千円)	調査率 (%)	備 考
庁舎等	470,178	100	庁舎・工作物・備品等被害
通信施設	9,366	100	テレビ共同受信施設被害
社会福祉施設	1,745,167	100	建物・施設被害
社会教育施設	523,705	100	建物・施設被害
文化施設	1,115,000	100	建物・施設被害
体育施設	655,467	100	建物・施設被害
水道施設	341,000	100	上水道・簡易水道等被害
医療・衛生施設	1,692,365	100	病院等・保健センター被害
消防防災施設	780,536	100	庁舎等・機械施設被害
観光施設	13,600,504	100	公共施設・民営施設被害
商工労働関係施設	28,107,000	100	商業関係・工業関係被害
水産関係	21,506,426	100	水産施設・漁船・漁具・養殖施設・水産物被害
漁港施設	15,033,087	100	漁港施設・海岸施設・漁場施設・漁村施設被害
農業施設	36,080	100	農業施設被害
家畜等関係	621	100	畜産物被害
農地農業用施設	1,629,325	100	農地・農業用施設・海岸保全施設被害
林業関係	426,920	100	林業施設・林産物・森林被害
公共土木施設	7,738,258	100	河川・道路・橋梁・公園・下水道被害
公営住宅等	422,393	100	公営住宅被害
学校	210,292	100	建物・工作物・土地・設備等被害
文化財	12,084	100	文化財被害
住宅	149,605,110	100	日本政策投資銀行「住宅資本ストックの被害」の推計方法を準用

東日本大震災による被害区分ごとの被害推計額内訳

被害区分	内訳（被害推計額／施設名等／被害状況）
庁舎等 470,178千円	【本庁舎等】（266,633千円／本庁舎2箇所、分庁舎／床上浸水） 【大通会館】（26,887千円／半壊） 【備品損壊】（167,658千円／本庁舎1階、公用車71台、電算一式） 【田老総合事務所車庫】（3,000千円／一部破損） 【中町バス待合室】（6,000千円／全壊）
通信施設 9,366千円	【テレビ共同受信施設】（9,366千円／中の浜、日立浜、磯鶏、津軽石下町、白浜、川代）
社会福祉施設 1,745,167千円	【市立保育所】（85,161千円／津軽石、田老、千鶏／全壊、新里／設備損傷） 【市立児童館】（3,842千円／高浜／床上浸水、田老／土地被害） 【民間保育園】（10,346千円／宮古保育園／半壊、そけい幼稚園／床上浸水） 【児童公園】（3箇所） 【児童遊園】（1箇所） 【老人福祉センター等】（95,213千円／磯鶏老人福祉センター、石浜地区介護予防拠点施設／全壊） 【タラソテラピー施設】（1,403,000千円／半壊） 【田老高齢者コミュニティセンター】（245千円／床上浸水） 【民間デイサービス施設等】（147,360千円／10箇所／全壊等）
社会教育施設 523,705千円	【自治会研修センター】（110,400千円／田老、乙部地区／全壊） 【公民館】（319,105千円／津軽石、鉾ヶ崎／全壊、磯鶏、田老／一部破損） 【地区センター】（94,200千円／高浜、堀内／全壊、磯磯／半壊）
文化施設 1,115,000千円	【市民文化会館】（1,115,000千円／半壊、工作物損傷）
体育施設 655,467千円	【藤の川海水浴場】（23,000千円／トイレ等全壊） 【田老野球場】（562,079千円／全壊） 【田老ゲートボール場】（20,000千円／土砂流入） 【千徳体育館】（388千円／地下排水管破断） 【リアスハーバー宮古浮き桟橋】（50,000千円／工作物流出）
水道施設 341,000千円	【上水道施設】（223,000千円／8棟／設備等被害） 【簡易水道施設】（118,000千円／3棟／設備等被害）
医療・衛生施設 1,692,365千円	【宮古保健センター】（400,000千円／半壊） 【診療所】（600,000千円／休日急患診療所／半壊、国保田老診療所／全壊） 【民間病院等】（687,365千円／26施設／全壊等） 【公害試験室】（1,000千円／床上浸水） 【黒田町公衆便所】（4,000千円／半壊）
消防防災施設 780,536千円	【防災行政無線子局】（142,500千円／57箇所／流出等） 【防災行政無線戸別受信機】（92,350千円／1,847台／流出等） 【防災行政無線移動系無線】（26,680千円／46台／流出等） 【潮位観測装置】（17,000千円／3箇所／全壊） 【避難誘導標識等】（24,800千円／60箇所／全壊） 【避難路手摺】（2,000千円／5箇所100m／損壊） 【消防屯所等】（348,605千円／7、16、24、26、29、30分団／全壊、1、2、6、11、28分団／半壊、4、5、8、10、20、25分団／床上浸水） 【消防ポンプ自動車等】（126,262千円／15台／流出等） 【消火栓】（157千円／2箇所） 【防火水槽】（182千円／1箇所）
観光施設 13,600,504千円	【自然公園】（10,168,000千円／園地施設10箇所、野営場2箇所、浄土ヶ浜レストハウス、シャワー棟等3箇所） 【観光施設】（3,432,504千円／シートピアなど、潮里ステーション、ビービレッジ区界、民宿等33箇所）
商工労働関係施設 28,107,000千円	【被災事業所】（28,003,000千円／商業、工業事業所1,154箇所） 【宮古港湾労働者福祉センター】（104,000千円／全壊）
水産関係 21,506,426千円	【水産施設】（11,056,227千円／643箇所） 【漁船】（4,454,536千円／2,629隻） 【漁具】（1,871,561千円／33箇所） 【養殖施設】（1,701,994千円／2,973箇所） 【水産物】（2,422,108千円／14,252 t）

東日本大震災による被害区分ごとの被害推計額内訳

被害区分	内訳（被害推計額／施設名等／被害状況）
漁港施設 15,033,087千円	【外郭施設】（7,980,569千円／46箇所） 【係留施設】（624,449千円／26箇所） 【水域施設】（356,129千円／13箇所） 【輸送施設】（504,057千円／19箇所） 【漁港施設用地】（236,650千円／17箇所） 【堤防】（3,419,550千円／5箇所） 【漁業集落施設等】（294,539千円／7箇所） 【漁場施設】（1,617,144千円／2箇所）
農業施設 36,080千円	【農漁村センター】（36,080千円／金浜、千鶏／全壊）
家畜等関係 621千円	【畜産物】（621千円／生乳6,150kg）
農地農業用施設 1,629,325千円	【田】（836,133千円／60ha） 【畑】（66,993千円／15ha） 【用排水路】（55,939千円／120箇所） 【揚水機】（18,000千円／6箇所） 【農道】（39,260千円／120箇所） 【海岸保全施設】（613,000千円／1箇所）
林業関係 426,920千円	【治山施設】（16,800千円／4箇所） 【防潮林】（217,184千円／2箇所） 【林道】（105,600千円／59箇所） 【ほだ木】（8,920千円／49,100本） 【人口ほだ場】（10,800千円／3箇所） 【特用林産物】（3,066千円／77kg） 【乾燥機】（7,800千円／13台） 【その他機械等】（13,600千円） 【森林火災】（23,602千円／37.47ha） 【森林流失】（15,540千円／7.04ha） 【森林塩害】（4,008千円／1.37ha）
公共土木施設 7,738,258千円	【道路】（4,229,330千円／43箇所） 【橋梁】（24,182千円／13箇所） 【河川】（270,690千円／22箇所） 【下水道施設】（555,791千円／6箇所） 【漁業集落排水施設】（130,867千円／2箇所） 【都市公園】（2,527,398千円／6箇所）
公営住宅等 422,393千円	【公営住宅】（422,393千円／赤前東住宅9戸、重茂住宅10戸／全壊、女遊戸住宅10戸／半壊、金浜住宅13戸／一部破損、兄形団地住宅17戸／床上浸水）
学校 210,292千円	【小学校】（117,074千円／宮古小／設備損傷、鎌ヶ崎小／床上浸水、工作物損傷、磯鶏小／一部破損、山口小／設備損傷、千徳小／一部破損、高浜小／工作物損傷、赤前小／工作物損傷、鷗磯小／一部破損、工作物・設備損傷等、鷗磯小教員住宅／全壊、千鶏小／一部破損、工作物・設備損傷等、田老第一小／一部破損） 【中学校】（92,065千円／第一中／一部破損、重茂中／工作物損傷、田老第一中／一部破損、工作物・設備損傷等） 【給食センター】（1,153千円／新里給食センター／一部破損、重茂給食センター、川井給食センター／設備損傷）
文化財 12,084千円	【国登録有形文化財】（12,000千円／床上浸水） 【市指定有形文化財】（84千円／倒壊）
住宅 149,605,110千円	【住宅等被害】（149,605,110千円／5,968棟／全壊、1,335棟／大規模半壊、1,174棟／半壊、611棟／一部破損）
【被害推計総額 245,660,884千円】	

※国・県の施設、鉄道、電信電話、電気事業者関係等の被害を除く。

第2部
【資料編】歴史津波



【写真1】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十六）
是ハ大鉾ヶ崎ト唱フル処ニシテ、数百戸ノ流亡セシ明地ニ於テ、木片ヲ以テ腐乱セル屍ヲ火葬スル実
況ニシテ、傍ヲ人夫ノ徘徊スルハ荒地ヲ片附クル有様ナリ。

明治29年三陸地震津波



明治29年三陸地震津波

【写真2】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其一）
 両町ノ界ナル新道ヨリ宮古町光岸地ヲ眼下ニ其惨況ヲ撮写シタルモノニシテ、左方ハ新晴橋ノ中断ヲ遙ニ眺メ、閉伊川ヲ以テ白帯トナシ、三十余軒ノ家屋皆海吹ノ一掃セル所トナリ、只旧幸和館ノ半潰ト、破レタル一倉ヲ余スノミ。親ハ子ノ屍ヲ潰家ノ下ニ尋ネ、子ハ親ノ行衛ヲ叫ブ。実ニ惨ノ最モ酷ナルモノナリ。



【写真3】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其二）
 宮古測候所ヨリ嶽ヶ崎全町ノ惨状ヲ示シタルモノナリ。愛観者細カニ眼光ヲ放テヨ、同町上町ヲ通シテ下町ニ建立セル尋常小学校ニ及ブ、其間斑々破家ノ存立スル花廓ノ傾倒スル、或ハ数百軒ノ家屋、幾百艘ノ漁船、皆木片トナリテ累々波濤ニ漂ヘリ。惨ト呼ビ酷ト叫ブ。人々ノ悲想ハ瞭々トシテ其真ヲ写セリ。



【写真4】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其三）
 嶽ヶ崎上町ヨリ宮古測候所ノ下ヲ通シテ嶽浦沿海一帯ノ真況ヲ写シタリ。紙片ノ半ニ累々トシテ穢墨ヲ流シタルハ、是レ破損ノ家屋船舶皆海吹ノ業ト知ルヘシ。中ニ八九死ノ中ニ一生存ヲ漸ク繋ギ、木材ニ跨レル一老夫アレトモ、惜ラクハ肉眼之ヲ顕ハスコト能ハザルヲ。

【写真5】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其四）
 是ハ之レ嶽港遊郭ノ惨状ナリ。昨夜弾セシ三味線ハ已ニ破軒ノ下ニ埋没シ居レリ。天災ノ恐ルヘキ其瞬間ナル推測スヘキナリ。

【写真6】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其五）
 嶽港遊郭ノ内最モ旺盛ヲ極メシ二丁目ノ惨況ナリ。櫛比セル大層高樓モ皆半潰ノ状ヲ呈シ、路上木材ノ横タハル漁船ノ軒下ニアル、家具ノ散乱スル、一目瞭然慘ト言ハザルベカラス。

明治29年三陸地震津波



明治29年三陸地震津波

【写真7】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其六）
 鞆港三丁目ノ惨状ナリ。夥多ノ漁船大船地上ニ打上ケラレ数多ノ諸道具
 道路ニ敷イテ歩スル能ハズ。実ニ目モ当テラレヌ有様ナリ。

【写真8】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其七）
 其六ヲ南方ニ撮リシモノニシテ、帆走船ノ逆上セル、鈴木回漕店ノ半潰トナル、
 一二悲惨ノ状ヲ極メタルナリ。



【写真9】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其八）
 一見観者ヲシテ感動セシムベキ悲々惨々ノ況ナ
 リ。木材ノ横タハル中ヲ通シテ死屍ヲ運搬スル
 ノ状、誰カ一滴ノ涙ヲ揮ハザル者アラランヤ。

【写真10】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其九）
 鞆港下町ノ最モ惨ヲ極メタルモノナリ。人家皆
 流亡シテ荒地ト変ジタリ。帆走船ノ晒場トナリ
 タリ。又恐ルベキ哉。

【写真11】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十）
 堅固ナル土蔵モ激浪ノ為メニ破壊セラレ、蔵ニ
 置キタル品物ハ皆海吹ノ揮洗スル所トナル。是
 ヲ見テ其当時ノ如何ニ激烈ナリシカヲ想像スル
 ニ足ルベシ。

明治29年三陸地震津波



明治29年三陸地震津波

【写真12】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十一）
累々タル破屋ノ下数多ノ人夫群集セシハ、則チ半死半生ノ負傷者ヲ救助スル所ナリ。水災ノ翌日ナレバ此処ヨリ採掘セラレテ生命ヲ助カリシ者二十有余ナリ。



【写真13】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十二）
半陥落シタル土蔵家屋顛覆シタル漁船、又一夫ノ鉾ニ身ヲカカヘテ凄然トシテ立テルアリ、悲想ノ極ト云フベシ。



【写真14】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十三）
天地ノ変、怖ルベシトハ会者ノ言カ、不会者ノ言カ。疑フラクハ不会者ハ此程ノ者トハ予想セザルベシ。父子相携ヘテ悄然トシテ通フルアリ、天是レニ雨ヲ下シテ朦朧タラシメタリ。（注：会者ノ言カ、不会者ノ言カハ見た人の言葉か、見ない人の言葉か）

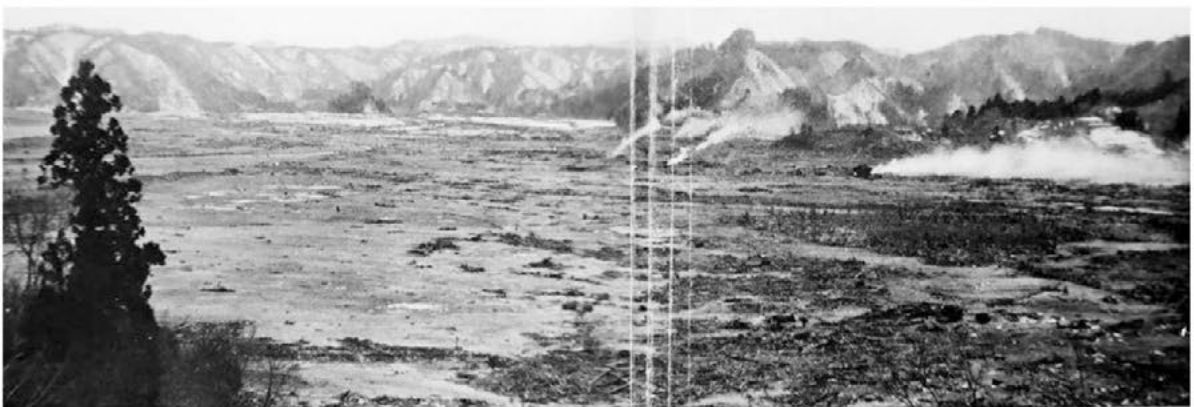
【写真15】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十四）
鉾浦ノ内蛸ノ浜ヲ背面ニ撮写シタルモノナリ。左方ノ建物ハ土蔵ノ破壊ナリ。山麓ノ半潰家屋ハ漸ク海嘯ノ嫌フ所トナレリ。現時近傍ノ人民ハ誰彼トナク此ニ集マリ雨露ヲ凌キ居レリ惨ト云フベシ。

【写真16】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十五）
災害ノ為メ七分潰レシ家屋ニシテ、其中ニハ屍ノ埋マルアリ、遠外ヨリ飛入ル醸造家ノ用ユル大樽アリ、其惨ノ著シキヲ知ルヘシ。

昭和8年三陸地震津波



【写真17】 摂待沢の北屋根（尾根力）から南望、この辺の津浪の高さは海岸の方が内陸より高かった
[東京帝国大学地震研究所]



【写真18】 荒れた砂原と化した田老町 北側乙部の裏山から南望。白煙の上る辺は旧市街地。
左一本杉の下あたり乙部部落のあった地点 [東京帝国大学地震研究所]



【写真19】 田老尋常小学校 [中央气象台]

昭和8年三陸地震津波



【写真 21】 田老村 全村流失の跡 [中央气象台]



【写真 20】 田老村 全村流失の跡（正面の山「御山」は日枝神社） [中央气象台]



【写真 23】 田老村 [中央气象台]



【写真 22】 田老村 [中央气象台]



【写真 25】 田老村 海岸より三丁余距った山麓に印された津浪の跡 [中央气象台]



【写真 24】 田老村 [中央气象台]

昭和8年三陸地震津波



【写真 27】 田老村 [中央気象台]



【写真 26】 田老村 [中央気象台]



【写真 29】 田老村 救援に活躍する近隣の消防隊
[箱石・久里]



【写真 28】 田老村 耕地ノ被害状況 [農林省山林局]



【写真 30】 田老村 災害跡の整理・再建にいそむむ人々
[箱石・久里]

昭和8年三陸地震津波



【写真 32】 宮古町 鎌ヶ崎 海岸通岸壁の棧橋板敷きは流され杭だけが残った【箱石・久里】



【写真 31】 宮古町 鎌ヶ崎 海岸通に打ち上げられた船【中央気象台】



【写真 34】 宮古町 鎌ヶ崎【中央気象台】



【写真 33】 宮古町 鎌ヶ崎上町 海岸通は（出崎埠頭）埋立て工事のため、人家の被害を少なからしめた【箱石・久里】



【写真 36】 宮古町 光岸地 余動をくり返す閉伊川河口（製材所の釜場）【箱石・久里】



【写真 35】 宮古町 宮古測候所（現在の漁協ビル）付近、倉庫の流失【中央気象台】

昭和8年三陸地震津波



【写真38】宮古町（宮古橋を閉伊川上流より望む）【中央気象台】



【写真37】宮古町（築地を望む）【中央気象台】



【写真40】宮古町（築地より藤原を望む）【中央気象台】



【写真39】宮古町（津浪に押し上げられた船のために破損した宮古橋）【中央気象台】



【写真42】津軽石村赤前（運動公園付近）【農林省山林局】



【写真41】磯鶏村（金浜から南を望む）【農林省山林局】

昭和8年三陸地震津波



【写真 44】重茂村音部 流失を免れた海浜砂丘裏の家屋 [東京帝国大学地震研究所]



【写真 43】重茂村音部 砂丘と流失を免れた家屋 [東京帝国大学地震研究所]



【写真 46】重茂村里の沢の出口 津浪は白い岩山の上を越えた [東京帝国大学地震研究所]



【写真 45】重茂村里 津浪はこの付近の海崖では比較的高く、→で示した程度の浸水があった [東京帝国大学地震研究所]



【写真 48】重茂村 鮎崎半島部川代 [東京帝国大学地震研究所]



【写真 47】重茂村姉吉 海浜の小舎はバラック [東京帝国大学地震研究所]

昭和35年チリ地震津波



【写真 50】前須賀（鋏ヶ崎港町）最高潮位の浸水状況
【宮古測候所】



【写真 49】前須賀（鋏ヶ崎港町）浸水状況【宮古測候所】



【写真 52】（鋏ヶ崎港町交番前）路上に散乱したドラム
缶【宮古測候所】



【写真 51】（鋏ヶ崎港町前須賀バス停）最大波の押上げ
途中 04 時 33 分【宮古測候所】



【写真 54】新川町【宮古測候所】



【写真 53】（築地臨港線の線路）【宮古測候所】

昭和35年チリ地震津波



【写真56】閉伊川 国鉄（現：JR）山田線の鉄橋
【宮古測候所】



【写真55】（向町）【宮古測候所】



【写真57】高浜 航空
【宮古測候所】



【写真58】金浜 航空
【宮古測候所】

昭和35年チリ地震津波



【写真60】高浜 県道（現国道45号）【宮古測候所】



【写真59】（磯鶏）神林 水産高校の艇庫【宮古測候所】



【写真62】高浜 中心地の惨状【宮古測候所】



【写真61】高浜（倒れた電柱）【宮古測候所】



【写真64】高浜 倒壊して県道（現国道45号）に乗り上げた家屋【宮古測候所】



【写真63】高浜（倒壊した火の見櫓、江山寺付近）【宮古測候所】

昭和35年チリ地震津波



【写真 66】津軽石法の脇から金浜を望む【宮古測候所】



【写真 65】金浜 江山寺を望む【宮古測候所】



【写真 68】津軽石法の脇 家屋の被害【宮古測候所】



【写真 67】津軽石法の脇 国鉄（現：JR）山田線の線路【宮古測候所】



【写真 70】津軽石堀内【宮古測候所】



【写真 69】津軽石赤前【宮古測候所】

昭和43年十勝沖地震津波



【写真 72】（田老漁港に浸入する津波）【宮古測候所】



【写真 71】（田老漁港 引き波）【宮古測候所】



【写真 74】（衝突・転覆する漁船）【宮古測候所】



【写真 73】（田老漁港）【宮古測候所】



【写真 76】（岩に激突する漁船）【宮古測候所】



【写真 75】（波に流される漁船）【宮古測候所】

昭和43年十勝沖地震津波



【写真 78】 閉伊川河口の津波 藤原を望む
【宮古測候所】



【写真 77】 鉾ヶ崎 10時32分頃の引き波【宮古測候所】



【写真 80】 高浜海岸 養殖施設のガレキ【宮古測候所】



【写真 79】 金浜海岸 襲いかかる津波
【宮古市教育委員会】



【写真 82】 赤前（県道重茂半島線）浜に打ち上げられたガレキ【宮古測候所】



【写真 81】 津軽石赤前【宮古測候所】

第2部【資料編】歴史津波 解題

〔写真〕

明治29年三陸地震津波の鉞ヶ崎・光岸地の被害状況を撮影した貴重な写真である。これらの写真は、キャビネ判の写真を台紙に貼り、19枚のセットにして販売されたものと考えられている。裏面に「宮古鉞ヶ崎町海嘯ノ惨状」と題してキャプションを付け、「陸中宮古鉞ヶ崎町写真師 末崎仁平」と書かれている。明治15年に開削された光岸地の切通しや大島、帆走船など、大正時代に埋め立てられる前の鉞ヶ崎の光景がうかがえる。

昭和8年三陸地震津波の写真は、東京帝国大学地震研究所編纂『地震研究所彙報別冊 第1号』（1934年）、中央気象台『昭和8年3月3日三陸沖強震及津浪報告』（1933年）、農林省山林局『三陸地方防潮林造成調査報告書』（1934年）の各文献からの写真を中心に複写転載した。「箱石・久里」は、宮古町で米穀店を営んだ箱石寿が当時法政大学学生だった時に撮影した写真である。箱石氏の遺族が『田野畑村の大津波・伝承と証言』を出版していた久里十太郎氏に寄贈され、久里拓洋著『三陸大津波写真集』として出版された。

昭和35年チリ地震津波・昭和43年十勝沖地震津波の写真は、旧宮古測候所から提供をいただいた。

チリ地震津波までは津波防潮堤が整備される前の被害状況で、ガレキも木材が目立つ。それに較べて、今回の東日本大震災ではいかに膨大なガレキが生じたかがわかる。また、漁港や岸壁が整備される前の海岸の地形を見ることができ、十勝沖地震津波では、津波が岸壁を越えなかったため、田老漁港への津波の進行状況と漁船の転覆が中心となった。

宮古地方地震津波年表

東京大学地震研究所『新収日本地震史料』を底本として、三陸地方

に起った地震と津波のうち被害が記録されたものを収録した。本解題では、津波の記述があるもののみ解説し、見出しに（ ）で西暦での年月日を付した。

●貞観11年5月26日（869年7月9日）

夜、M8.3ないし8.4以上と推定される巨大地震とこれに伴う津波が陸奥国（東北地方太平洋側）で発生し、甚大な被害があったことが『日本三代実録』に記されている。地震に伴う発光現象があり、夜間に巨大地震が起きたと見られる。この地震によって、家屋の倒壊、土地の地割れ、多賀城内の城郭・倉庫・門などが倒壊。多賀城下にたちまち押し寄せた津波により、溺死者千人、土地・建物・道路など壊滅的な被害を受けた。

●慶長16年10月28日（1611年12月2日）

三陸地方で大地震があり、仙台・盛岡・津軽・松前藩領に津波が来襲した。昼八ツ時（14時頃）大津波で門馬（笠間力）・黒田・宮古が騒動し、17時頃大方水が引いた。海辺通は一軒もなく波にとられ人が多く死に、家をとられた人は路頭に迷った（宮古由来記）。地震が3度あり次に大波が来て、山田は房ヶ沢まで、織笠は鈴堂まで波が来た。鶴住居・大槌・横須賀で800人、船越で50人、山田浦2人、津軽石で150人が死亡し、大槌・津軽石は市日のため数多く死亡した（盛合家文書）。

●延宝5年3月12日（1677年4月13日）

東北地方で20時頃から明け方まで20度余りの地震があり、被害が出た。17日宮古通へ大波が寄せ、波にとられた家数は鉞ヶ崎1軒・金浜12軒・高浜1軒・2軒、赤前5軒・6軒、塩釜6工が波にとられたと宮古代官所より報告があった（雑書）。

●元禄12年12月8日（1700年1月27日）

地震がないのに津波で海辺の家などが取られ、津軽石へは久保田渡りまで、法の脇は稲荷（神社）の下まで津波が到達した（盛合家文書）。鉞ヶ崎では、8日真夜中に津波が打ち寄せ、出火して20軒焼失、13軒が波に取られた（雑書）。

この津波は米国北西海岸シアトル近海で発生した地震によるものであることが、米国地質調査部のブライアン・アトウォーター氏と日本の活断層研究センター佐竹健治氏らの研究により明らかになっている。

●寛延4年5月2日（1751年5月26日）

大潮が差し込み釜石浦熅石で13軒、両石浦で15軒、大槌浦安渡60軒、織笠浦20軒、山田町大沢浦50軒が床下浸水、田畑苗代・町小路まで潮水が上がった〔雑書〕。地震があったとは記されていない。

●宝暦12年12月16日（1763年1月29日）

20時頃大地震それより1時間ばかりして大波が川へ押し込み、海辺の人々が大いに驚き山へ逃げた〔幾久屋文書〕。

●明和9年5月3日（1772年6月3日）

正午頃に大地震が発生し、地割れがして水がわき出る。人馬多く死す〔須賀原家文書〕。茂市村・田老村・長沢村・川井村・箱石村・重茂村で大岩が崩れるなどして死者が出る〔雑書〕。

死者が出るほどの大地震でありながら津波がなかったことから「草木青葉の節は津波がない」と言い伝えられた。

●寛政5年1月7日（1793年2月17日）

地震は、寛政5年正月7日12時頃で、寛政南三陸沖地震と言われる。宮城県はるか沖の海溝付近で発生し、大きな津波を伴った。地震史料により盛岡から福島に至る内陸部で震度5、宮古・大槌は震度4と推定される。昭和8年三陸津波・昭和58年日本海中部・平成5年北海道南西沖の津波と同等の規模と考えられている（『日本歴史災害事典』）。

12時から14時頃まで大地震で津波が押し寄せ、大槌通代官所管内で被害が大きかった。家屋の流失・損壊が、両石浦で79軒・死者9人〔雑書〕。宮古では、大地震があり津波が寄せ、海辺通は大騒動でたいへんであった〔幾久屋文書〕。川津波が3・4度きて山に逃げた。藤原・磯鶏・宮古には水があがらなかったが、2月中まで余震があり宮古・藤原などでは山に小屋をかけて避難した〔古実伝書記〕。

●天保8年10月11日（1837年11月8日）

真夜中に津波が来て、和泉町（現・陸前高田市）の鮭川留が押し破られ、赤崎（現・大船渡市）の御塩場廻りの土手が破られる。大地震もないのに津波があり不審である〔気仙町小嶋家文書〕。

●天保14年3月26日（1843年4月25日）

午前6時頃大地震あり、海辺にことごとく津波が押し寄せ鎌ヶ崎も浸水する〔浮世考がい記〕。津波がよせ、赤前で家に損害があり、4月17日まで余震があった〔長沢災異記〕。

●安政3年7月23日（1856年8月23日）

13時頃地震、間もなく津波で宮古代官所前の道に水が上がった。鎌ヶ崎の小島あたりから大鎌ヶ崎一帯まで浸水した。鎌ヶ崎村・高浜村・金浜村・津軽石村・赤前村で居家108軒、納屋32ヶ所が流失または損壊した〔内史略〕。「青葉の節は津波なきもの」と聞いて油断していた所に津波に襲われ、寛政5年正月の津波くらいに水があがった〔奥南見聞録〕。

●明治三陸地震津波（1896年6月15日）

旧暦端午の節句5月5日は、朝からどんよりとした日で、小雨が降ったりやんだりしていた。午後7時32分頃、三陸沖で震度2程度の緩やかな地震の揺れを感じたが、節句を祝い、あるいは前年の日清戦争の勝利を祝い、人々は気にもとめなかったという。約30分後、大音響とともに大津波が襲来した。第2波が最大で満潮時とも重なり、最大打上高は綾里村白浜（現・大船渡市）で35・2メートルに達し、2万2千人の命が一瞬にして奪われた大津波であった。

田老村では地震後、空砲のような轟音が3回あり、20時20分頃激浪に襲われた。翌朝まで7回の津波があり、1千850人が死亡、生存者183人とある。下撰待は当時10戸の小村であったが、畜養していた27頭の牛が全滅、村民43名中26名が死亡した。（『大海嘯被害録』）

宮古町では午後8時10分頃、大津波が押し寄せ、南西に進んだ波が磯鶏石崎から北に折れて、光岸地を突いて東に進んだ。さらに屈折し

て鍬ヶ崎を洗った。宮古町は比較的被害が小さく、戸数987のうち流失23戸・全半壊13戸、人口6千500のうち死亡12名・重傷6名としている。(「大海嘯被害録」)

鍬ヶ崎尋常小学校では、端午の節句にあたって幻灯会を催していた時に津波が襲来した。町長が生徒を学校から外出させないように指示して助かったが、在宅の子供たちの多くが死亡した。

重茂村では全村232戸のうち流失・損壊160戸、1千506人中733人が死亡、重傷51人で、当分町村として成立できないだろうとされた。姉吉では、全戸数11戸が流失し、総人口78名のうち72名が溺死、重傷者5名も死亡した。(「大海嘯被害録」)

●昭和三陸地震津波(昭和8年3月3日)

午前2時31分、三陸沖でM8.1の巨大地震が起きた。地震の揺れは明治三陸地震の時より強く感じられ、家屋の一部に壁の亀裂や石垣の破損など軽い被害がでる程であった(震度5)。地震の約30から40分後に三陸と北海道襟裳岬付近の海岸は、大きな津波に襲われ、三陸沿岸と北海道南岸に死者1千522名、行方不明者1千542名、家屋流失4千034戸、倒壊1千817戸という大きな被害が出た。

宮古町では町の中央を貫流する宮古川(閉伊川)を遡って一丈(約3尺)の津波が押し寄せ、鍬ヶ崎・新川町・藤原・磯鶏村海岸一帯が床上浸水した。田老村は、戸数600戸中、残ったのは小学校・役場・寺院・住家3戸で荒野と化した。(「験震時報第七巻」)

●チリ地震津波(昭和35年5月24日)

5月24日早朝、地震もないのにわが国の太平洋沿岸を突如として大津波が襲った。この津波の原因となった地震は、日本から地球の反対側になる南米チリのバルディビア沖で発生したM9.5の地震で、観測史上世界最大の地震であった。日本時間5月23日4時11分に発生した地震による津波が太平洋に広がり、途中ハワイで死者61人などの被害をなし、23時間後の未明に日本の沿岸部に到達したのである。

津波は日本の太平洋岸全域に及び、波高が高く被害が大きかったのは比較的大きな湾で、大船渡湾・広田湾・山田湾・宮古湾であった。

チリ津波の特徴は、波高が湾口で低く奥に行くに従って高くなっていることで、昭和8年は逆に奥に行くに従って低くなっている。宮古湾で湾口2.0尺、中央部で3.0から5.0尺、湾奥部で6尺と次第に高くなっている。宮古市の被害は、罹災世帯数740、行方不明1であった(「岩手県災害関係行政資料」)。

田老では役場の観測で波高3尺、岸壁に積んであった木材が流失した。高浜は県道東側の民家は全て流失、西側の建物もほとんど山際に押しつけられて潰された。金浜では、国鉄山田線線路の東側は建物が全て流失または全壊した。法の脇が最も被害が大きく、波が奥まで到達した。赤前は民家が比較的高く海岸から離れているため被害は少ないが、堤防付近で波高5尺が確認された(仙台管区気象台「チリ地震津波調査報告」)。

●十勝沖地震津波(昭和43年5月16日)

午前9時49分にM7.9の巨大地震が発生し、釧路から青森・岩手・宮城県北部の太平洋沿岸を数メートルの津波がおそった。実際の震源域は三陸北部沖で、延宝5年・宝暦13年・安政3年の津波が同様の被害をもたらしたと考えられている。

地震発生後20から60分の間に北海道および東北の太平洋沿岸に津波が来襲した。昼間の干潮時であったことと、チリ地震津波後、海岸堤防や護岸など海岸保全設備が整備されてきたため、津波による被害は比較的少なかった(「1968年十勝沖地震調査報告」)。宮古で震度3を記録、津波の最大波高21.6尺を記録した(「十勝沖地震に関する地震津波速報」)。

赤前の津波堤防での波高は4.98尺を記録、きりたった津波により海苔・カキ・ワカメの養殖施設などに被害を与え、被害額は3億6千万円にものぼった(「広報みやこ 昭和43年6月1日号」)。

宮古地方地震津波年表

<p>●天長7年(830)1月3日 出羽国地震。秋田城損壊、四天王寺仏像倒壊。〔類聚国史〕</p>
<p>●承和6年(839)4月 陸奥で頻りに地震あり、多くの百姓恐れ逃げる。多賀城・胆沢城へ援兵を要請する。 〔続後記〕</p>
<p>●嘉祥3年(850)10月16日 出羽国地震。圧死者多く出る。〔文徳実録〕</p>
<p>●貞観11年(869)年5月26日 陸奥国大地震。家屋倒壊による圧死者多く、多賀城の城郭など損壊する。 城下に津波押し寄せ、溺死者千人余り。〔三代実録〕</p>
<p>●享徳3年(1454)11月23日 関東から東北にかけて夜半に地震あり、奥州に津波入り人多く取られる。〔王代記〕</p>
<p>●明応元年(1492)6月16日 陸奥国会津、大地震。〔塔寺八幡宮長帳続〕</p>
<p>●天正15年(1587)5月10日 仙台地方で地震。〔伊達治家記録〕</p>
<p>●文禄3年(1595)12月24日 宮城県(登米地方)で大地震。〔登米郡史〕</p>
<p>●慶長元年(1596)3月6日 宮城県(登米地方)で夜地震〔登米郡史〕</p>
<p>●慶長13年(1608)11月23日 仙台海浜に大地震、男女50人余り死す。〔藩祖成蹟〕</p>
<p>○慶長16年(1611)8月21日 慶長会津地震。8時頃大地震が会津盆地を襲う。死者3千数百人。〔歴史災害事典〕</p>
<p>●慶長16年(1611)10月28日 三陸地方で大地震、仙台・盛岡・津軽・松前藩領に津波来襲。14時頃大津波で門馬(笠間カ)・黒田・宮古が騒動し17時頃大方水が引いた。海辺通は一軒もなく波にとられ人多く死に、家をとられた人は路頭に迷った〔宮古由来記〕。地震が3度あり次に大波が来て、山田は房ヶ沢まで、織笠は鈴堂まで波が来た。鶉住居・大槌・横須賀で800人、船越で50人、山田浦2人、津軽石で150人が死亡し、大槌・津軽石は市日で数多く死亡した〔盛合家文書〕。</p>
<p>○寛永17年(1640)6月14日 13日より北海道で駒ヶ岳噴火、北海道内湾に津波〔弘前市史〕。</p>
<p>●正保3年(1646)4月26日 陸前・磐城で大地震、仙台城・白石城で城壁破損〔伊達治家〕。盛岡城で酌み水こぼれる〔雑書〕。</p>

●明暦2年(1656)3月22日 22日21時頃より大地震。八戸城で家蔵の戸障子破損、土蔵の壁落ちる〔雑書〕
●寛文7年(1667)7月3日 盛岡・八戸で地震。八戸で壁破損〔八戸藩日記〕。
●寛文8年(1668)7月21日 仙台・盛岡で大地震、道路割れ、家破損。以後4日間揺れる〔近世日誌〕。
○寛文11年(1671)7月12日 松前下国の岳で噴火、南部・津軽で地鳴り〔津軽史〕。
●寛文11年(1671)8月 花巻で6時から20時頃まで地震。町家10軒ばかり倒れ、庇の落下多数〔花巻市史〕。
●延宝2年(1674)3月10日 八戸で大地震、城内・諸士屋敷・町家とも損害おびただしく、南宗寺廟所破損〔奥南温古集〕。
●延宝4年(1676)3月12日 南部大浦(青森県カ)で民家20軒流失、人馬に損害なし〔津軽家記〕。
●延宝5年(1677)3月12日 20時から明け方まで20回以上の地震があり、北閉伊浦々へ大波(津波)寄せ、家・船・塩釜が波に取られる。宮古浦で船2艘取られ、磯鷄浦船3艘破損。金浜浦で船10艘破損し、家8軒家財流れ5軒廻り壁が破れる。高浜浦で船3艘破損、麦畑3人役程浸水。津軽石浦で麦畑70役程浸水、船6艘破損。赤前浦で家5軒家財等流れ、5軒廻り壁破れ、塩釜6工波に取られる。赤前田畑共に5・6石程浸水。鍬ヶ崎浦で家1軒家財流れ、4軒は廻り壁押し払い、麦畑4つ役程浸水、塩釜2工破損。撰待浦で家28軒、船31艘が破損・流失し、塩釜8工・麦畑77役程・田畑共に5・6石程浸水。〔雑書〕
●延宝6年(1678)8月17日 20時頃大地震、花巻で御城・御役人共の家の壁大方崩れ、三御町で家14～15軒転ぶ。川口町で梁落ち女1人死亡、馬3疋死ぬ。一日市御仮屋の土蔵転び、御仮屋大方破損〔雑書〕。
○元禄7年(1694)5月27日 元禄能代地震。秋田領能代で大地震、残らず打ちひしぎ、家・蔵焼失し、600人程死亡〔雑書〕。
●元禄12年(1699)11月8日 8日より9日まで大潮にて海辺の場所によって家など取られる。津軽石では久保田渡りまで法の脇は稲荷(神社)の下まで波が来た〔日記書留帳〕。鍬ヶ崎浦で出火20軒焼失、13軒破損。159人へ御蔵米を少し配給した〔雑書〕。
○元禄16年(1703)11月23日 元禄地震。未明に房総半島沖を震源とする地震あり、房総半島から相模湾沿岸にかけて被害甚大〔歴史災害事典〕。
●宝永元年(1704)4月24日 宝永元年能代地震。秋田領能代で大地震、家・蔵多数潰れ100人程死亡、怪我人数知れず〔八戸藩日記〕。

<p>●宝永4年(1707)10月4日 八戸で地震、湊十分一小屋後ろまで小潮入る〔八戸藩日記〕。 宝永地震、14時頃遠州灘沖から四国沖に巨大地震〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●正徳2年(1712)4月23日 17時頃八戸で大地震、御屋敷少々破損〔八戸藩日記〕。</p>
<p>●享保2年(1717)4月3日 14時頃仙台で強い地震あり、仙台城本丸石垣少々崩れ、二ノ丸の塀屋根崩れ落ちる。地割れもあり、神社等の石灯籠倒れ、城下並びに在々所々破損〔雑事日記〕。</p>
<p>●享保21年(1736)3月20日 仙台で18時頃より暁にかけて地震数十回あり、城中所々石塁等および澱橋破損〔獅山公治家記録〕。</p>
<p>○寛保元年(1740)7月19日 寛保津波。早朝、北海道と津軽半島を津波が襲う〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●寛保3年(1743)10月7日 1時頃八戸で大地震、被害多く諸役人參殿する〔奥南温古集〕。</p>
<p>●寛延4年(1751)5月2日 14時頃大槌通で大潮差し込み、敷き板下或は田畑苗代・町小路まで潮水あがる。嬉石13軒・両石浦15軒・安渡60軒・織笠20軒・大沢浦50軒の床下浸水〔雑書〕。</p>
<p>●宝暦5年(1755)2月17日 16時頃地震、八戸で御殿並びに外通破損、南宗寺御廟所破損〔八戸藩日記〕。</p>
<p>●宝暦12年(1762)12月16日 夜前に大地震、八戸で所々破損あり、南宗寺御廟並びに御仏殿破損〔八戸藩日記〕。18日湊村に津波差し込み流破船7艘あり。久慈種市通の流破船13艘、堤防橋梁の破損数ヶ所〔奥南温古録〕。16日18時頃の地震により厨川通土淵村で家1軒潰れ、死馬3疋。沼宮内通平館村で肝入の家潰れ男女3人死亡。田名部通・野辺地通で潰れ家多く、死者あり〔雑書〕。鍬ヶ崎で損害あり、赤崎(赤前カ)浦で網納屋破損〔釜石市誌〕。</p>
<p>●宝暦13年(1763)1月9日 正月26日まで度々地震あり〔雑書〕、八戸で大橋破損〔八戸藩日記〕。</p>
<p>●宝暦13年(1763)1月27日 八戸で大地震、家・土蔵大破、南宗寺石塔崩れる〔奥南温古録〕。</p>
<p>●宝暦13年(1763)2月1日 14時頃大地震、八戸玄中寺大破。八戸城内惣塀大破〔八戸藩日記〕。</p>
<p>●明和3年(1766)1月28日 明和津軽地震。津軽・陸奥で18時頃大地震。弘前城東御門潰れ、黒石城下で町家400軒程潰れ、死者200人。青森で家723軒焼け潰れ、死者198人。大浜で400軒残らず焼け潰れ、死人400人。浪岡村で家50軒余潰れる〔古実伝書記〕。</p>
<p>●明和6年(1769)6月9日 8時頃地震、八戸で大橋5間落橋、南宗寺で石塔・石灯籠・庫裡・大門が破損〔八戸藩日記〕。</p>

<p>●明和9年(1772)5月3日 12時頃大地震、盛岡城の石垣小破、花巻城所々破損。宮古通長沢で死者・死馬あり〔吉田家文書〕。腹帯村・田老村・長沢村・川井村・箱石村で大岩崩れ死者あり〔雑書〕。大地震であったが津波がなく、「古人ハ草木青葉ノ節ハ津波之レナキコトヲ言残シ置キヌ」〔梅荘見聞録〕</p>
<p>○寛政4年(1792)12月28日 寛政西津軽地震。午後2時半頃地震、鱒ヶ沢・深浦・下北の田名部で津波を記録〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●寛政5年(1793)正月7日 寛政南三陸沖地震。12時頃大地震あり、陸中・陸前・磐城に津波寄る。大槌通代官所管内で被害甚大。流失家屋72軒、損壊家屋11軒、船流失47艘、死者11人〔雑書〕。宮古では川津波が3・4度遡上し山に逃げた。宮古町・藤原・磯鶏には波は余り寄せず、損害はなかった。2月中まで小地震あり、宮古・藤原では山に小屋をかけて避難した〔古実伝書記〕。宮城県はるか沖の海溝付近を震源とする地震〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●文化元年(1804)6月4日 象潟地震。22時頃出羽庄内地方で大地震、津波寄せ人馬死に家々も数千軒潰れる〔寛政日記〕。</p>
<p>●文化5年(1808)閏6月16日 7時頃大地震、岩泉板橋鉄山で炭釜21筒破損〔雑書板橋御鉄山〕。</p>
<p>●文政4年(1821)8月16日 11時頃大地震、八戸で殿中および塀垣に破損多くあり〔奥南温古集〕。</p>
<p>●文政6年(1823)8月25日 24時頃大地震あり、沼宮内・西根通で潰れ家105軒、所々山崩れ鹿角あたりまで山里のうち死者69人、行方不明4人〔奥南見聞録〕。</p>
<p>●天保3年(1832)2月13日 12時頃大地震あり、八戸で御殿通・諸役所の壁所々落ち、南宗寺並びに本寿寺の石碑所々痛む〔八戸藩日記〕。</p>
<p>○天保4年(1833)10月26日 天保庄内沖地震。14時頃山形県酒田沖で地震発生、北海道函館から隠岐諸島で津波を記録、山形県沿岸域で被害甚大〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●天保6年(1835)6月25日 14時頃大地震あり、岩手県南から仙台にかけて石垣・蔵の壁など崩れる〔皆川家日記〕。仙台城石垣所々崩れ破損する〔御年代記〕。</p>
<p>●天保8年(1837)10月11日 真夜中、気仙郡・本吉郡に津波入り込み、今泉川(陸前高田市)の鮭川留が押し破られる。大船渡赤崎御塩場廻りの土手が押し破られ、塩2,000俵津波に取られる。大地震もなく津波があり不審〔小嶋家文書〕。</p>
<p>●天保13年(1842)6月18日 20時頃地震あり、気仙郡で土蔵の壁多く痛む〔世乃中風唱聞書記〕。</p>

<p>●天保 14 年 (1843) 3 月 26 日 6 時頃大地震あり、海辺に津波寄せ、赤前で家痛む [長沢災異記]。八戸白銀村で津波にメ粕流失、海辺の小屋 14 ~ 15 軒程痛み、小船や鯛釜流失 [遠山家日記]</p>
<p>●天保 14 年 (1843) 6 月 7 日 18 時頃大地震あり、沢内 (岩手県) で家・家財痛む [沢内年代記]。</p>
<p>●嘉永 7 年 (1854) 閏 7 月 2 日 真夜中、八戸で強震あり、城内御朱印庫のほか土蔵破損、家士・町家の被害多し [奥南温古集]。</p>
<p>●嘉永 7 年 (1854) 閏 7 月 5 日 20 時過ぎに大地震あり、八戸城御朱印蔵・御土蔵・御納戸など大破 [御用人所日記]。</p>
<p>○安政 2 年 (1855) 10 月 2 日 安政江戸地震。21 時過ぎに江戸大地震、死者 7 千人余り [歴史災害事典]。</p>
<p>●安政 3 年 (1856) 7 月 23 日 12 時頃強い地震があり、間もなく津波寄せる。宮古代官所前の往来に水上がり、鍬ヶ崎では小島あたりより大鍬ヶ崎 (日立浜・角力浜) まで水上がる。鍬ヶ崎浦・高浜浦・金浜浦・赤前浦で居家の被害 108 軒 [内史略]。</p>
<p>●安政 5 年 (1858) 5 月 28 日 20 時頃大地震あり、八戸で土蔵など所々破損 [遠山家日記]。</p>
<p>●文久元年 (1861) 9 月 17 日 真夜中に大地震あり人家の痛み甚だしく、登米郡で 300 ~ 400 軒程破損 [大内家日記]。</p>
<p>○明治 13 年 (1880) 2 月 22 日 明治横浜地震。1 時頃地震発生、横浜を中心に被害。日本地震学会設立 [歴史災害事典]。</p>
<p>○明治 27 年 (1894) 6 月 20 日 明治東京地震。14 時 4 分東京東部を震央とする地震が発生、家屋・建造物に甚大な被害 [歴史災害事典]。</p>
<p>○明治 27 年 (1894) 10 月 22 日 庄内地震。17 時 35 分に庄内平野を震源とする地震発生、山形県酒田を中心に被害 [歴史災害事典]。</p>
<p>●明治 29 年 (1896) 6 月 15 日 明治三陸地震津波。19 時 32 分頃三陸沿岸で震度 2 程度の地震を感じる。約 30 分後、大音響と共に大津浪襲来、岩手県綾里村白浜で最大打上高 38.2 ㍎を記録、死者 2 万 2 千人 [歴史災害事典]。</p>
<p>○明治 29 年 (1896) 8 月 31 日 陸羽地震。17 時 6 分に秋田県東南部に地震発生、岩手県沢内村にかけて被害。東北受難の年と言われる [歴史災害事典]。</p>
<p>○大正 3 年 (1914) 3 月 15 日 秋田仙北地震。4 時 59 分に秋田県西仙北地域で地震発生、秋田県内に被害 [歴史災害事典]。</p>

○大正 12 年 (1923) 9 月 1 日 関東大震災。11 時 58 分神奈川県西部を震源とするマグニチュード 7.9 の地震発生。死者 10 万 5 千人、全潰家屋推定 11 万棟、都市部での大火災により我が国自然災害史上最悪の被害となる。相模湾で津波発生 [歴史災害事典]。
●昭和 8 年 (1933) 3 月 3 日 昭和 三陸地震津波。2 時 31 分、三陸沿岸で震度 5 の激しい揺れがあり、30 分から 1 時間内に北海道から三陸地方を津波が襲った。岩手県で死者 1,408 名、行方不明者 1,263 名 (岩手県昭和震災誌) [歴史災害事典]。
●昭和 13 年 (1938) 5 月 - 11 月 塩屋崎沖地震。5 月 23 日 16 時 18 分マグニチュード 7.0、11 月 5 日から立て続けに大地震が発生し、福島東方沖地震とも言われる。11 月 5 日の地震に伴って軽微な津波が襲来、福島県小名浜で全震幅 107 釐、宮古は 45 釐を記録 [歴史災害事典]。
●昭和 27 年 (1952) 3 月 4 日 昭和 十勝沖地震。10 時 22 分、北海道襟裳岬沖から釧路川沖にいたる沖合でマグニチュード 8.2 の地震発生。震動による被害は北海道に限られたが、津波が東北地方北部の太平洋側で 1 ~ 2 釐に達した [歴史災害事典]。
●昭和 35 年 (1960) 5 月 24 日 チリ地震津波。南米チリのバルディビア沖で 23 日 4 時 11 分にモーメントマグニチュード 9.5 の世界最大の地震が発生。23 時間後の翌日未明に日本に到達、北海道から千葉県まで 6 道県と沖縄県で合わせて 142 人の死者・行方不明者を出した [歴史災害事典]。
○昭和 39 年 (1964) 6 月 16 日 新潟地震。13 時 1 分に新潟県村上市沖合から阿賀野川河口沖で発生したマグニチュード 7.5 の逆断層地震。秋田県から新潟県までの日本海沿いで液状化が発生し、石川・島根県は津波による被害が出た [歴史災害事典]。
●昭和 43 年 (1968) 5 月 16 日 十勝沖地震。9 時 49 分に青森県東方沖を震源とするマグニチュード 7.9 の地震が発生した。北海道の襟裳岬から岩手県北部にかけて震動被害が、釧路から青森・岩手・宮城県北部の太平洋沿いに数釐の津波による被害が発生した。津波は八戸・野田・宮古・大槌などで 5 釐以上となったが、干潮時にあつたことと、津波防潮堤の設置が進んでいたこともあり津波被害は軽くなった [歴史災害事典]。
○昭和 48 年 (1973) 6 月 17 日 根室半島沖地震。12 時 55 分に根室半島東南沖を震源とするマグニチュード 7.4 の地震が発生。地震による被害は根室から釧路にとどまり小規模であった。津波は花咲で 4 釐以上、十勝港で 1.2 釐と道東で浸水被害があった [歴史災害事典]。
●昭和 53 年 (1978) 6 月 12 日 宮城県沖地震。17 時 14 分に金華山沖を震源としたマグニチュード 7.4 の地震である。宮城県を中心に被害を受け、人口 50 万人を越える大都市仙台が地震に見舞われ、ライフラインの耐震性の低さが認識された [歴史災害事典]。
○昭和 58 年 (1983) 5 月 26 日 日本海中部地震津波。12 時 00 分、能代から津軽の沖合でマグニチュード 7.7 の地震が発生し、震源に近いところでは 10 分も経たずに大津波が到達した。津波は日本海全体に及び能登半島や隠岐・北海道西岸に被害をもたらした [歴史災害事典]。

<p>○平成5年(1993)7月12日 北海道南西沖地震。22時17分、北海道南部の日本海側の奥尻島北方沖を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生。地震発生後わずか5分で奥尻島に津波が来襲し、南東部の初松前^{はつまつまえ}では波高が20^{メートル}近くになった〔歴史災害事典〕。</p>
<p>○平成7年(1995)1月17日 阪神・淡路大震災。5時46分、明石海峡下を震源として六甲・淡路断層帯で発生したマグニチュード7.3の地震で、1995年兵庫県南部地震と呼ばれる。倒壊家屋が3割を越えるとされる震度7をはじめて記録、被害は甚大で死者6,434人、行方不明者3人、負傷者43,792人、被害建物689,776棟。被害額は約10兆円に達した〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●平成15年(2003)7月26日 宮城県北部地震。宮城県の北部を震源とした浅い地震。局所的に大きな被害があり、住家全壊1,276軒〔災害史に学ぶ〕。</p>
<p>●平成15年(2003)9月26日 十勝沖地震。4時50分に襟裳岬沖から釧路川沖で発生したマグニチュード8.0の地震が発生。人的被害は少なかったが、住宅全壊116棟、半壊368棟、津波による床下浸水9棟の被害が出た。津波は十勝港で2.6^{メートル}、厚内1.8^{メートル}など北海道東南部から岩手県にかけて1~2^{メートル}と昭和27年の津波より小規模だった〔歴史災害事典〕。</p>
<p>○平成16年(2004)10月23日 新潟県中越地震。17時56分六日町断層帯北部を震源とするマグニチュード6.8の浅い地震が発生。長岡市の山古志^{やまこし}や小国^{おぐに}、小千谷市^{おぢや}・魚沼市などで倒壊や土砂崩壊など大きな被害が出た〔歴史災害事典〕。</p>
<p>○平成19年(2007)7月16日 新潟県中越沖地震。10時13分柏崎から観音岬の沖合でマグニチュード6.8の地震が発生。柏崎市・長岡市・刈羽村で震度6強、新潟県内の広範囲で震度5強から4の強い揺れに襲われた。気象庁は新潟県上・中・下越と佐渡に津波注意報を発表し、柏崎で32^{センチメートル}、秋田県から石川県にかけての日本海沿岸で小さい津波が観測された。東京電力柏崎刈羽原子力発電所が、原発として世界ではじめて地震で被災したが、地震動の強さに対して被害が軽かった〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●平成20年(2008)6月14日 岩手・宮城内陸地震。岩手・宮城県境付近でマグニチュード7.2の地震が発生。岩手県奥州市と宮城県栗原市で震度6強を記録。住家全壊30、死者・行方不明者23人で、ほとんどが山地での土砂災害による〔災害史に学ぶ〕。</p>

* 月日は明治以前は和暦(太陰暦)、明治以降は太陽暦で表示した。

* 東京大学地震研究所編「新収日本地震史料」を底本とし、三陸沿岸に被害が記録された地震・津波を抽出した(●印)。三陸地方に大きな被害はないが、東日本を中心に歴史上重要な地震・津波も掲載した(○印)。

* 被害状況の後に〔 〕で出典(資料名)を記した。地震・津波の概要は、主に「日本歴史災害事典」「災害史に学ぶ海溝型地震・津波編」を参考にした。

津波の高さと被害

(1) 昭和8年三陸地震による津波の高さ (岩手県)

郡名	町村名	地名	浪高 (米)	明治29年 津浪高(米)	差 (米)
気仙(広田湾)	気仙村	福伏	3.2		
	同	長部	3.2	3.4	-0.2
	高田町	高田町海岸	3.0		
	同	脇沢	3.2		
	同	砂浜	4.5		
	小友村	両替	3.0		
	同	三日市	1.0	2.4	-1.4
	広田村	泊港	4.5	7.6	-3.1
	同	根岬	11.2		
気仙(大野湾)	広田村	六ヶ浦	3.5		
	同	大野湾奥	4.0		
	小友村	唯出	3.4	10.7	-7.3
気仙(門之浜湾)	末崎村	梅真	3.5		
気仙(外洋)	末崎村	泊里	5.7		
気仙(大船渡湾)	同	碁石	3.5		
	同	細浦	3.1	6.7	-3.6
	同	石浜	4.5		
	同	船河原	3.9		
	大船渡村	丸森	4.2		
	同	下船渡	3.0	5.5	-2.5
	同	永沢	3.3		
	同	大船渡	2.4	3.4	-1.0
	同	盛町海岸	3.6		
	赤崎村	生形	2.8		
	同	蛸ノ浦	4.3		
	同	長崎	4.3		
	赤崎村	合足	7.3		
	綾里村	綾里港	4.5	10.7	-6.2
	綾里村	白浜	23.0	22.0	+1.0
気仙(越喜来湾)	同	砂子浜	2.3		
	同	小石浜	3.8	10.4	-6.6
	越喜来村	下甫嶺	4.2		
	同	越喜来	3.0	10.4	-7.4
	同	泊	4.0		
	同	浦浜	3.2	9.8	-6.6
	同	浦浜川岸	7.0		
気仙(吉浜湾)	吉浜村	吉浜	9.0	24.4	-15.4
	同	千歳	6.0		
気仙(唐丹湾)	唐丹村	大石	3.0		
	同	小白浜	6.0	16.7	-10.7
	同	本郷	6.0	14.0	-8.0
上閉伊(釜石湾)	釜石町	嬉石	4.2	4.4 (ママ)	-0.1 (ママ)
	同	釜石	5.4	5.4	-2.8
上閉伊(両石湾)	鵜住居村	水海	7.0		
	同	両石	6.4	11.6	-5.2
上閉伊(大槌湾)	鵜住居村	海岸	4.5		
	同	片岸	5.4		
	同	室ノ浜	5.2		
	大槌町	大槌	3.9	2.7	+1.2
	同	大安渡	4.2	4.3	-0.1
	同	赤浜	4.6		
上閉伊(船越湾)	大槌町	吉里吉里	6.0	10.7	-4.7
	同	浪板	5.5	10.7	-5.2
下閉伊(船越湾)	船越村	船越	6.0	10.5	-4.5
	同	田ノ浜	6.0	9.2	-3.2
下閉伊(山田湾)	織笠村	織笠	2.4	3.4	-1.0
	山田町	伝作鼻			

郡名	町村名	地名	浪高 (米)	明治29年 津浪高(米)	差 (米)
下閉伊(山田湾)	山田町	山田町	4.5	5.5	-1.0
	大沢村	大沢	6.0	4.0	+2.0
	重茂村	川代	4.5		
下閉伊(山田湾)	同	石浜	12.0		
	同	千鶏北側	13.6	17.1	-3.5
	同	同南側	6.0		
下閉伊(外洋)	重茂村	姉吉	12.4	18.9	-6.5
	同	里	10.9		
	同	重茂	10.8	11.0	-0.2
	同	音部	7.6	9.2	-1.6
	同	鵜磯	4.5		
下閉伊(宮古湾)	磯鶏村	白浜	2.1	8.5	-6.4
	同	堀内	1.7	12.2	-10.5
	津軽石村	赤前	2.1		
	同	法ノ脇	1.6		
	磯鶏村	金浜	1.2	4.0	-2.8
	同	磯鶏	4.5	6.1	-1.6
	宮古町	宮古	3.6	4.6	-1.0
	同	鍬ヶ崎	6.7		
下閉伊(外洋)	崎山村	女遊戸	7.5		
	田老村	田老	10.1	14.6	-3.5
	小本村	小本	13.0	12.2	+0.8
下閉伊(外洋)	田野畑村	島ノ越	9.7		
	同	平井賀	8.2		
	同	羅賀	13.0	22.9	-9.9
	同	明戸	16.9	12.2	-1.6
	普代村	太田名部	13.0	15.2	-2.2
	同	普代	11.5		
	同	野田	5.5		
九戸(外洋)	野田村	玉川	5.8	18.3	-12.5
	同	野田	5.5		
	宇部村	久喜	5.5	12.2	-6.7
九戸(久慈湾)	同	小袖	8.2	13.7	-5.5
	久慈町	久慈海岸	5.5		
九戸(外洋)	同	湊	4.5		
	同	海岸	6.0		
	侍浜村	海岸	10.6		
	中野村	海岸	7.0		
	種市村	八木	6.0	10.7	-4.7
	同	種市	6.0	9.1	-3.1

三陸沖強震及津浪に就て「験震時報 第七巻」[昭和八年三月三日 三陸沖強震及津浪報告] 中央气象台より作成

(2) 明治 29 年 6 月 15 日の三陸津浪による被害 (県別)

県別		岩手県	宮城県	青森県	合計
人	死者	18,158	3,452	299	21,909
	傷者	2,943	1,241	214	4,398
	行方不明	不詳	—	44	(44)
	計	(21,101)	4,693	557	26,351
家屋	流失	4,801	3,121	602	*8,526
	倒潰	726	854	264	1,844
	焼失	—	—	—	—
	浸水	1,175	2,426	93	3,694
	計	6,702 外2,532	6,403	959	16,596
船舶	流失	4,453	1,145	122	5,720
	破損	1,003	—	207	1,210
其ノ他	家畜・堤防・橋梁・山林・農作物・道路				

震災予防調査会報告第十一号による。

◆三陸津浪に依る被害調査「驗震時報 第七卷」[昭和八年三月三日 三陸沖強震及津浪報告]

中央气象台より作成

(*印は、計算が合わない。)

(3) 昭和 8 年 3 月 3 日の三陸津浪による被害 (県別)

庁府県別		岩手県	宮城県	青森県	北海道	福島県	山形県	合計
人	死者	1,522	169	22	13	—	—	1,726
	傷者	881	145	70	56	—	—	1,152
	行方不明	1,136	138	8	—	—	—	1,282
	計	3,539	452	100	69	—	—	4,160
家屋	流失	3,850	950	85	32	—	—	4,917
	倒潰	1,585	528	136	90	—	(7)	2,346
	浸水	2,520	1,520	107	182	—	—	4,329
	焼失	249	—	—	—	—	—	249
	計	8,204	2,998	328	304	—	(7)	11,841
船舶	流失	(5,860)	948	314	178	3	—	7,303
	破損	破損ヲ含ム	425	317	158	10	—	910
其ノ他	農作家畜山林等		船具漁具等		堤防決潰乾魚流失	醸造酒溢出 (23.8石)		
損害見積額 (単位百円)	(108,777)	13,068	2,424	2,471	8	(23)	126,770	

表中括弧を附したものは内務省警保局の調査によるもの。

◆三陸津浪に依る被害調査「驗震時報 第七卷」[昭和八年三月三日 三陸沖強震及津浪報告] 中央气象台より作成

(4) 明治 29 年三陸地震津波 岩手県管内海嘯被害表

		総人口	死 亡	負 傷	総戸数	流失家屋	半壊家屋
気仙郡	気仙村	3,651	23	10	569	35	16
	高田村	3,489	3	未詳	616	未詳	未詳
	米崎村	3,460	12	2	350	11	50
	小友村	2,519	260	14	381	70	5
	広田村	3,102	500	11	469	163	未詳
	末崎村	2,965	606	30	400	191	未詳
	大船渡村	2,304	780	35	306	105	30
	赤崎村	2,985	448	68	389	172	未詳
	綾里村	2,803	1,458	59	451	285	100
	越喜来村	2,449	411	60	322	113	124
	吉浜村	1,075	215	9	133	32	33
	唐丹村	2,807	2,100	20	474	341	3
	合 計	33,609	6,816	318	4,860	1,518	361
	南閉伊郡	釜石町	6,557	4,700	500	1,223	1,080
鵜住居村		3,147	1,069	190	511	350	未詳
大槌町		6,555	900	724	1,192	369	未詳
合 計		16,259	6,669	1,414	2,926	1,799	未詳
東閉伊郡	船越村	2,295	1,327	701	474	371	1
	織笠村	1,800	67	50	303	105	25
	山田町	3,746	1,040	150	782	359	250
	大沢村	1,036	550	59	199	196	未詳
	重茂村	1,493	700	33	236	159	未詳
	津軽石村	2,618	3	1	434	8	未詳
	磯鶏村	1,996	90	54	365	109	未詳
	鎌ヶ崎町	3,459	100	33	701	300	50
	宮古町	5,157	12	未詳	993	20	未詳
	崎山村	981	160	12	155	45	9
	田老村	3,747	2,655	277	666	130	未詳
	合 計	28,328	6,704	1,370	5,308	1,802	335
北閉伊郡	小本村	2,090	367	257	386	156	147
	田野畑村	3,025	303	15	465	47	42
	普代村	2,038	1,010	153	330	95	49
	合 計	7,153	1,680	425	1,181	298	238

「明治二十九年地震報告」中央气象台より作成

(5) 昭和8年3月3日の三陸津浪による被害 (岩手県)

町村名	部落名	死者	行衛不明	傷者	計	流失	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	焼失	計	戸数	人口	備考
気仙郡 広田村	長洞	3	1	—	4	7	—	1	—	—	—	8	75	587	
	中央	—	2	5	7	14	7	3	1	7	—	32	88	623	
	喜多	6	4	—	10	14	—	—	—	—	—	14	96	842	
	根岬	2	15	2	19	23	—	1	—	—	—	24	75	622	
	中沢浜	2	1	1	4	13	5	—	3	—	—	21	79	595	
	泊	7	2	6	15	42	3	—	1	2	—	48	114	752	
	大陽	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	4	56	512	
広田村	小 計	20	25	14	59	117	15	5	5	9	—	151	583	4,533	流失戸数は住家のみ記入
気仙郡 小友村	只出	8	10	—	18	30	1	2	2	—	—	35	35	224	
	三日市	—	—	—	—	1	—	3	26	—	—	30	30	165	
	両替	—	—	—	—	1	4	5	18	—	—	28	27	164	
	矢浦	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	2	2	21	
	塩谷	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	2	5	
	森崎	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	1	3	
小友村	小 計	8	10	2	20	32	6	11	49	—	—	98	99	601	石浜を含む
気仙郡 末崎村	船河原	13	5	9	27	8	—	1	—	—	—	9	—	—	
	峯岸	2	—	6	8	42	—	5	8	—	—	55	—	—	
	細浦	1	—	2	3	31	—	1	1	—	—	33	—	—	
	中野	4	1	3	8	34	—	1	1	—	—	36	—	—	
	小細浦	—	1	3	4	12	—	1	2	—	—	15	—	—	
	小河原	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	1	—	—	
	門之浜	—	—	1	1	8	—	—	4	—	—	12	—	—	
泊里	9	3	1	13	20	—	9	13	—	—	42	—	—		
末崎村	小 計	29	10	26	65	156	—	18	29	—	—	203	—	—	戸数人口は調査中
気仙郡 気仙村	要谷	—	—	—	—	—	—	5	1	—	—	6	6	51	
	福伏	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1	8	
	双六	—	—	—	—	—	1	2	3	3	—	9	9	71	
気仙村	小 計	31	1	18	50	49	1	6	7	—	—	62	62	424	
高田町	高田松原	3	—	2	5	3	1	—	—	—	—	4	4	9	部落別被害不明
米崎村		8	—	8	16	—	(18)	—	(14)	—	—	32	—	—	
気仙郡 大船渡町	下船渡	—	—	1	1	—	6	8	30	10	—	54	54	264	
	平	2	—	8	10	1	8	1	35	14	—	59	59	374	
	永井沢	—	—	1	1	—	—	8	9	4	—	21	25	121	
	笹ヶ崎	—	—	6	6	—	—	1	9	—	—	10	10	63	
	川原	—	—	2	2	—	—	2	16	4	—	22	22	69	
	茶屋	—	—	8	8	1	6	7	64	2	—	80	80	503	
赤沢	—	—	—	—	—	1	4	12	3	—	20	20	129		
大船渡町	小 計	2	—	26	28	2	21	31	175	37	—	266	266	1,523	
気仙郡 赤崎村	宿	—	—	3	3	26	1	1	5	—	—	33	33	194	
	生形	3	—	5	8	7	3	3	6	7	—	26	26	177	
	山口	—	—	2	2	4	3	3	7	2	—	19	19	179	
	永浜	10	5	7	22	12	10	11	7	—	—	40	40	272	
	清水	16	5	5	26	12	2	2	6	3	—	25	25	120	
	上蛸浦	13	—	35	48	12	1	3	4	3	—	23	23	156	
	下蛸浦	19	1	35	55	9	7	8	6	—	—	30	30	201	
	長崎	—	—	—	—	2	—	—	3	—	—	5	5	35	
合足	20	8	3	31	8	—	—	1	2	—	11	11	55		
赤崎村	小 計	81	19	95	195	92	27	31	45	17	—	212	212	1,389	
気仙郡 綾里村	田浜	1	1	—	2	30	—	1	4	2	—	37	51	339	他に他町村のもの死1名行不2名
	石浜	7	2	6	15	26	—	1	2	—	—	29	46	307	
	港下	38	18	1	57	59	—	—	—	—	—	59	60	303	
	港上	24	9	—	33	58	—	—	—	—	—	58	58	314	
	岩崎	1	—	—	1	18	—	1	6	6	—	31	62	369	
	野々前	—	1	—	1	6	—	—	—	—	—	6	46	337	
	白浜	18	48	12	78	32	—	2	—	—	—	34	42	312	
	砂子浜	1	1	—	2	2	—	—	—	—	—	2	16	156	
	小石浜	4	4	—	8	12	1	—	—	—	—	13	29	203	
綾里村	小 計	94	84	19	197	243	1	5	12	8	—	269	410	2,640	

町村名	部落名	死者	行衛不明	傷者	計	流失	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	焼失	計	戸数	人口	備考
気仙郡 越喜来村	崎浜	31	19	20	70	26	6	5	7	3	-	47	165	1,120	
	浦浜	19	8	9	36	49	7	5	3	2	-	66	197	1,139	
	泊	-	1	-	1	16	4	5	3	1	-	29	57	381	
	甫嶺	6	3	5	14	21	9	-	2	1	-	33	94	550	
越喜来村	小計	57	30	34	121	112	26	15	15	7	-	175	513	3,190	
気仙郡 吉浜村	本郷	3	14	1	18	9	4	1	4	1	-	19	164	959	
	根白	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	69	471	
吉浜村	小計	3	14	1	18	10	4	1	4	1	-	20	233	1,430	
気仙郡 唐丹村	花露辺	4	6	12	22	9	2	2	5	-	-	18	66	403	
	本郷	209	117	21	347	100	1	-	-	-	-	101	101	620	
	小白浜	4	3	4	*13	96	2	6	1	-	-	105	160	958	
	片岸	5	1	5	*6	28	2	1	-	-	-	31	48	301	
	荒川	4	7	4	*11	7	2	-	1	-	-	10	71	447	
	大石山谷	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	78	490	
唐丹村	小計	226	134	*40	*400	240	9	9	8	-	-	266	549	3,380	
上閉伊郡 釜石町	只越	15	8	40	63	52	42	29	125	187	114	549	932	5,592	
	大渡	-	-	16	16	5	3	2	214	214	-	438	898	3,788	
	場所	-	-	21	21	-	11	31	10	3	132	187	206	1,236	
	仲町	1	-	11	12	1	14	76	37	55	-	183	280	1,680	
	東前	-	-	14	14	-	16	83	24	36	-	159	255	1,530	
	松原	-	-	9	9	1	51	64	18	26	3	163	203	1,218	
	鳩石	2	-	8	10	42	35	84	5	7	-	173	207	1,242	
平田	4	6	7	17	11	17	40	27	36	-	131	189	1,134		
釜石町	小計	22	14	126	162	112	189	409	460	564	249	1,983	3,170	17,420	
上閉伊郡 鵜住居村	両石	2	1	6	9	86	-	2	2	1	-	91	92	-	
	水海	-	-	-	-	2	1	-	2	1	-	6	14	-	
	箱崎	-	-	1	1	7	3	6	4	13	-	33	95	-	
	桑浜	-	-	-	-	4	2	-	-	-	-	6	15	-	
	白浜	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	52	-	
	根浜	-	-	-	-	3	1	4	-	3	-	11	16	-	
	片岸	-	-	1	1	20	3	5	10	1	-	39	52	-	
室浜	1	3	7	11	9	3	3	8	6	-	29	52	-		
鵜住居村	小計	3	4	15	22	132	13	20	26	25	-	216	388	-	
上閉伊郡 大槌町	小槌	29	-	42	71	193	31	98	166	73	-	561	101	-	
	安渡	22	-	32	54	98	42	39	21	18	-	218	311	1,859	
	吉里吉里	10	-	25	35	104	15	13	18	20	-	170	458	2,885	
大槌町	小計	61	-	99	160	395	88	150	205	111	-	949	870	*11,250	
下閉伊郡 船越村	船越	3	-	3	6	23	-	1	-	-	-	24	164	1,025	
	田ノ浜	1	1	2	4	183	-	2	11	-	-	196	223	1,471	
船越村	大浦	-	-	-	-	5	-	14	16	-	-	35	179	1,267	
船越村	小計	4	1	5	10	211	-	17	27	-	-	255	566	3,763	
下閉伊郡 織笠村	細浦	-	3	-	3	1	-	-	-	-	-	1	6	-	
	跡浜	-	2	-	2	-	-	3	19	-	-	22	63	-	
	織笠	-	1	-	1	-	-	7	41	-	-	48	165	-	
織笠村	小計	-	6	-	6	1	-	10	60	-	-	71	234	-	
下閉伊郡 山田町	境田	3	-	9	12	64	-	4	9	6	-	83	83	498	
	川向	3	-	8	11	136	-	37	24	1	-	198	198	1,221	
	南町	-	-	6	6	52	-	7	13	33	-	105	128	738	
	八幡	-	-	-	-	-	-	-	-	32	-	32	32	175	
	中町	1	-	2	3	6	-	3	4	12	-	25	25	170	
	三日町	-	-	-	-	5	-	3	1	9	-	18	18	97	
荒浜	-	1	1	2	-	-	-	2	11	-	13	13	85		
釜谷洞	-	-	-	-	3	-	5	9	77	-	94	94	178		
山田町	小計	7	1	26	34	266	-	59	62	181	-	568	591	3,162	
大沢村	大沢	1	-	-	1	58	15	35	34	10	-	152	217	1,385	
下閉伊郡 重茂村	里	16	31	8	55	27	1	-	4	-	-	32	-	-	
	首部	6	7	-	13	2	4	-	1	-	-	7	-	-	
	姉吉	13	76	1	90	15	-	-	-	-	-	15	-	-	
重茂村	千鷲	-	10	-	10	2	-	-	-	-	2	-	-	-	

人口は調査中
行方不明は死亡と見なす

人口は調査中

外に非住家流失倒潰120浸水あり

町村名	部落名	死者	行衛不明	傷者	計	流失	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	焼失	計	戸数	人口	備考
下閉伊郡 重茂村	石浜	—	7	1	8	1	1	—	1	—	—	3	—	—	人口戸 数ハ調 査中 外に納 屋附属 建物 209棟 流失
	川代	2	2	—	4	1	—	—	—	—	—	1	—	—	
	荒巻	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	鶯磯	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	2	—	—	
	仲組 追切	—	2 2	—	2 2	—	—	—	—	1	—	1	—	—	
重茂村	小計	37	137	10	184	50	6	—	7	—	—	63	—	—	
下閉伊郡 津軽石村	津軽石	2	—	—	2	—	—	3	2	—	—	5	358	2,219	死亡人 数は一 時的居 住者 を含む
	赤前	—	1	—	1	3	—	3	6	—	—	12	159	985	
	津軽石村	小計	2	1	—	3	3	—	6	8	—	17	517	3,204	
下閉伊郡 磯鶏村	磯鶏	—	—	3	3	4	—	5	1	18	—	28	127	915	死亡人 数は一 時的居 住者 を含む
	高浜	4	—	3	7	2	4	20	12	12	—	50	97	698	
	金浜	—	—	—	—	1	—	4	1	3	—	9	51	367	
	白浜	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	38	273	
	太田浜	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	2	14	
磯鶏村	小計	4	—	6	10	7	4	29	16	33	—	89	315	2,267	
下閉伊郡 宮古町	宮古	17	4	3	24	3	4	4	21	11	—	43	2,210	11,955	死亡人 数は一 時的居 住者 を含む
	鯉ヶ崎	15	9	2	26	1	10	10	63	9	—	93	1,210	6,171	
	宮古町	小計	32	13	5	50	4	14	14	*86	20	136	3,220	18,126	
下閉伊郡 崎山村	日出島	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	9	70	死亡人 数は一 時的居 住者 を含む
	宿	—	—	1	1	1	—	1	—	—	—	2	4	39	
	女遊戸	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	24	188	
崎山村	小計	—	—	1	1	1	—	1	—	2	—	4	37	297	
下閉伊郡 田老村	田老	471	292	118	881	358	—	—	—	—	—	358	362	1,798	死亡人 数は一 時的居 住者 を含む
	樫内	7	—	—	7	2	—	—	—	—	—	2	24	12	
	荒谷	25	4	2	31	63	—	—	4	—	—	67	67	455	
	青砂里	28	8	2	38	46	—	—	—	—	—	46	46	276	
	野原	31	20	—	51	27	—	—	—	—	—	27	27	162	
	小港 撰待	6 6	2 1	— —	8 7	2 2	— —	— 1	1 1	— 2	— —	3 6	3 30	28 42	
田老村	小計	574	327	122	1,023	500	—	1	6	2	—	509	559	2,773	
下閉伊郡 小本村	小成	1	—	—	1	4	—	—	—	6	—	10	23	134	死亡人 数は一 時的居 住者 を含む
	茂師	27	10	6	43	12	—	—	—	—	—	12	36	234	
	小本	115	3	26	144	77	2	1	—	29	—	109	145	792	
	中野	—	—	—	—	—	2	—	—	15	—	17	86	440	
小本村	小計	143	13	32	188	93	4	1	—	50	—	148	290	1,600	
下閉伊郡 田野畑村	明戸	3	1	1	5	1	—	—	—	—	—	1	28	184	死亡人 数は一 時的居 住者 を含む
	羅賀	33	26	8	67	72	1	—	—	—	—	73	109	551	
	和野	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	3	22	164	
	島越	10	8	2	20	51	3	—	—	—	—	54	95	554	
	田野畑 切牛	— 1	1 —	— —	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— 32	18 171	
田野畑村	小計	47	36	11	94	127	4	—	—	—	—	131	304	1,764	
下閉伊郡 普代村	普代	6	23	33	62	32	—	6	10	25	—	73	137	683	死亡人 数は一 時的居 住者 を含む
	太田名部	21	78	45	144	43	—	2	2	—	—	47	58	255	
	堀内	1	6	3	10	4	—	2	1	—	—	7	78	321	
	黒崎	—	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	45	178	
普代村	小計	28	109	81	218	79	—	10	13	25	—	127	318	1,437	
九戸郡 野田村	下安家	—	—	2	2	4	2	1	7	5	—	19	6	34	玉川被害 なし 外に倉庫 48棟納 屋23棟 其他122 棟
	広内	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	3	3	8	
	米田	—	—	—	—	3	1	1	5	2	—	12	4	20	
	前浜	4	2	6	12	38	5	7	30	8	—	88	43	238	
	新山	2	—	—	2	5	1	—	1	2	—	9	6	26	
野田村	小計	6	2	8	16	53	9	9	43	17	—	131	62	326	
九戸郡 宇部村	久喜	—	1	—	1	2	—	4	—	2	—	8	—	—	戸数人口 は調査中
	宇部村	1	4	—	5	3	—	1	—	—	—	4	—	—	
	宇部村	小計	1	5	—	6	5	—	5	—	2	—	12	—	
九戸郡 長内村	大尻	5	3	4	12	6	—	—	—	—	—	6	38	226	二子部落 罹災者は 全部他村 のもの
	二子 長内	— 2	— —	— 1	— 3	20 9	— 1	— —	— —	— —	— —	20 10	20 102	117 558	
	長内村	小計	7	3	5	15	35	1	—	—	—	36	160	901	

町村名	部落名	死者	行衛不明	傷者	計	流失	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	焼失	計	戸数	人口	備考
九戸郡 久慈町	久慈港	-	-	1	1	35	-	1	1	9	-	46	35	242	他に漁業用納屋47棟 船小屋81棟 船揚場破損
	源道	-	-	-	-	33	-	-	-	-	-	33	-	-	
	上門前	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	4	-	-	
	久慈町	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	
久慈町	小計	-	-	1	1	74	-	1	1	9	-	85	-	-	
九戸郡 夏井村	閉伊口	-	-	1	1	1	-	-	2	-	-	3	73	399	
	大崎	1	-	6	7	-	1	-	7	-	-	8	55	288	
夏井村	小計	1	-	7	8	1	1	-	9	-	-	11	128	687	
九戸郡 侍浜村	横沼	-	2	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	桑畑	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	麦生	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
侍浜村	小計	2	2	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
九戸郡 中野村	中野	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	205	1,385	
	有家	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	117	827	
	小子内	3	1	1	5	2	-	3	-	1	-	6	98	683	
中野村	小計	3	3	1	7	3	-	3	-	1	-	7	420	2,895	
九戸郡 種市村	八木	45	34	35	114	37	-	4	-	3	-	44	98	487	
	大浜	22	-	4	26	8	-	-	-	1	-	9	22	132	
	川尻	-	-	-	-	8	-	3	-	2	-	13	99	490	
種市村	小計	67	34	39	140	53	-	7	-	6	-	66	219	1,109	
総計		1,522	1,136	881	3,539	3,850	1,585		2,520		249	8,204			

盛岡測候所報告による。

◆三陸津浪に依る被害調査「験震時報 第七巻」「昭和八年三月三日 三陸沖強震及津浪報告」中央气象台より作成
(*印は、計算が合わない。)

(6) 津波浸水高表 (T.P.上*)

地名	湾名	明治29年	昭和8年	昭和35年 チリ地震津波	摘要
八木港	八木港	18.3	7.2	3.1	偏平
久慈湊	久慈湾	—	8.7	4.5	大きなU字形
野田湾	野田湾	20.0	15.6	4.4	偏平
普代湾	普代湾	—	16.9	4.3	小さいU字形(偏平)
小本		11.8	13.4	4.1	小さいU字形(偏平)
田老		14.6	6.4	4.3	小さいU字形
宮古湾	宮古湾	9.1	8.2	2.0	大きい湾
金浜	宮古湾	6.3	3.5	5.6	大きい湾
姉吉	山田湾湾口	18.8	14.0	3.0	小さいV字形
大沢	山田湾	3.9	4.4	4.0	大きい湾
山田	山田湾	5.5	4.2	3.3	大きい湾
大槌	大槌湾	4.2	3.4	4.0	大きい湾
両石	両石湾	11.7	9.5	3.5	V字形
釜石	釜石湾	6.0	4.4	3.0	2重V字形
本郷	唐丹湾	15.3	9.9	—	小さいV字形
小白浜	唐丹湾	17.3	12.1	3.0	V字形
吉浜	吉浜湾	26.3	14.6	4.8	V字形
越喜来	越喜来湾	11.3	6.3	3.4	V字形
白浜	綾里湾	38.2	29.3	4.9	V字形
大船渡	大船渡湾	5.8	3.1	4.4	大きい湾
細浦	大船渡湾	5.8	3.8	2.7	大きい湾
沼田	広田湾	—	3.5	5.4	大きい湾
長部	広田湾	4.6	3.6	5.2	大きい湾
只越	広田湾	10.5	8.5	4.6	大きい湾

〔岩手県災害関係行政資料I〕より作成

* T.P. … 東京湾平均海面のこと。各観測点の観測基準面(D.L.)から測った潮位にD.L.の標高(通常マイナスの値)を加えることで、T.P.(標高0 \bar{m})から測った潮位に変換することができる。

D.L.から測った潮位 + D.L.の標高 = T.P.から測った潮位
(気象庁技術報告第133号より)

(7) チリ地震津波による市町村別被害

区分→ 市町村名↓	建物関係	土木関係	耕地 関係	農林畜産 関係	水産関係	商工 関係	教育施 設関係	公用及び 公共施設 関係	公営企 業等施 設関係	合計
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
陸前高田市	432,630	668,700	441,417	132,184	835,250	51,395	450	7,760	260	2,570,046
大船渡市	1,149,900	295,974	86,575	156,763	332,823	2,157,482	6,234	4,678	1,200	4,191,629
釜石市	185,210	113,067	14,222	79,080	236,225	170,227	783	128		798,935
宮古市	272,400	265,610	73,732	73,098	273,769	51,227	22,875	1,543		1,034,254
久慈市	7,310	3,740		18,118	27,897	2,526	808			60,399
大槌町	364,330	49,200	3,993	47,579	338,277	156,840		2,960	70	963,199
山田町	489,310	41,500	43,558	41,237	485,121	191,378		230	800	1,293,134
田老町				6,054	896					6,950
岩泉町				12,403	569					12,972
種市町	3,070	59,200		5,143	31,519			100		99,032
三陸町	700	3,200	2,250	17,704	41,561					65,415
田野畑村			323	1,881	21,287					23,491
普代村		5,610	400	1,701	15,078					22,789
野田村	18,200		65,164	9,613	17,217					110,194
その他								261,500		261,590
計	2,923,060	1,505,794	731,634	602,558	2,657,439	2,781,075	31,150	278,899	2,330	11,513,939

「岩手県災害関係行政資料Ⅰ」より作成

(8) チリ地震津波による人的被害 (岩手県)

区分→ 市町村名↓	罹災者総数	罹災世帯数	死者	行方不明	負傷		合計
					重傷	軽傷	
陸前高田市	3,688	683	7人	1人	1人	1人	9人
大船渡市	7,466	1,480	50	3	27	275	355
釜石市	6,524	1,351					
宮古市	3,797	740		1			1
久慈市	192	40			1		1
大槌町	6,542	1,251			1	1	2
山田町	7,461	1,383			1	1	2
種市町	64	16					
三陸村	55	10					
野田村	132	20					
計	35,921	6,974	57	5	31	277	370

「岩手県災害関係行政資料Ⅰ」より作成

(9) チリ地震津波による家屋被害①

市町村名↓	区分→	住 家 の 被 害											
		全 壊			流 失			半 壊			浸 水		
		戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円
陸前高田市		71	346	106,500	90	563	162,000	143	788	85,800	199	1,155	29,850
大船渡市		214	1,153	321,000	218	1,153	392,400	567	3,134	340,200	257	1,416	38,550
釜石市		17	83	25,000	11	50	19,800	25	111	15,000	768	3,773	115,200
宮古市		36	201	54,000	76	407	136,800	70	407	42,000	213	1,082	31,950
久慈市		1	4	1,500				4	20	2,400	4	22	600
大槌町		38	186	57,000	44	221	79,200	189	1,305	113,400	637	2,993	95,550
山田町		88	415	132,000	48	239	86,400	210	1,111	126,000	911	5,021	136,650
種市町					1	3	1,800				1	5	150
三陸村													
野田村					9	58	16,200	1	8	600			
計		465	2,388	697,500	497	2,694	894,600	1,209	6,884	725,400	2,990	15,467	448,500

(9) チリ地震津波による家屋被害②

市町村名↓	区分→	住 家 の 被 害						非住家の被害		合 計	
		浸 水			計			戸数	被害額 千円	戸数	被害額 千円
		戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円				
陸前高田市		67	403	670	570	3,255	384,820	683	47,810	693	432,660
大船渡市		105	610	1,050	1,361	7,466	1,093,200	810	56,700	1,361	1,149,900
釜石市		530	2,507	5,300	1,351	6,524	180,800	63	4,410	1,351	185,210
宮古市		345	1,700	3,450	740	3,797	269,200	60	4,200	740	272,400
久慈市		1	2	10	10	48	4,510	40	2,800	40	7,310
大槌町		343	1,837	3,430	1,251	6,542	348,580	225	15,750	1,251	364,330
山田町		126	675	1,260	1,383	7,461	482,310	100	7,000	1,383	489,310
種市町					2	8	1,950	16	1,120	16	3,070
三陸村								10	700	10	700
野田村					10	66	16,800	20	1,400	20	18,200
計		1,517	7,734	15,170	6,678	35,167	2,781,170	2,027	141,890	6,855	2,923,060

「岩手県災害関係行政資料Ⅰ」より作成

参考文献

- 岩手県 『岩手県東日本大震災津波の記録』 二〇一三年三月
 岩手県 『チリ地震津波災害復興誌』 一九六九年三月
 岩手県宮古市 『東日本大震災の「記録」』 岩手県宮古市
 二〇一三年三月
 岩手県大船渡市 『チリ地震津波 1960 大船渡災害誌』
 一九六二年六月
 岩手県編纂 『岩手県昭和震災誌』 一九三四年九月 岩手県知事官房
 岩手県立図書館 『岩手史叢 第五卷 内史略(5)』 一九七五年八月
 岩手県文化財愛護協会
 重茂・千鶴区観音像建立実行委員会編集部会 『大海嘯誌』
 一九八二年六月
 気象庁 『気象庁技術報告 第133号 平成23年(2011年)』
 東北地方太平洋沖地震調査報告 第1編 二〇一二年十二月
 北原糸子・松浦律子・木村玲欧編 『日本歴史災害事典』 二〇一二年六月
 (株)吉川弘文館
 首藤伸夫ほか編集 『津波の事典』 二〇〇七年十一月
 昭和ニュース事典編纂委員会 『昭和ニュース事典 第四卷(昭和8年—
 昭和9年)』 一九九一年六月 (株)毎日コミュニケーションズ
 白い国の詩編 『北方の児童文集 岩手編』 二〇〇八年六月 東北電力(株)
 震災予防調査会編纂 『大日本地震史料(上下巻)』 一九〇四年五月
 丸善株式会社
 仙台管区気象台 『昭和35年5月24日 チリ地震津波調査報告』
 一九六一年一月
 (有)タウン情報社 『月刊みやこわが町 2013/9 NO. 417』
 二〇一三年八月
 高浜自治会 『津波記念誌 チリ地震津波より三十年あの惨状を振り返って』
 一九九一年二月
 田面木貞夫編・著 『遠野が生んだ先覚者 山奈宗真』 一九八六年三月
 田老尋常高等小学校 『昭和九年三月三日一回忌記念 田老村津浪誌』
 田老小学校編 一九三四年九月
 田老町教育委員会 『伝聞ふるさと津波誌(三陸大津波)』
 一九九一年三月
 田老町教育委員会編 『田老町史 津波編(田老町津波誌)』
 二〇〇五年五月
- 田老町史編纂委員会 『田老町史(第一集) 防災の町』 一九七一年九月
 中央気象台 『三陸沖強震及津浪概報』 一九三三年三月
 中央気象台 『昭和八年三月三日三陸沖強震及津浪報告』 一九三三年八月
 中央気象台編纂 『験震時報』 第七卷 一九三四年五月 三秀舎
 中央防災会議 『災害教訓の継承に関する専門調査会』 編 『災害史に学ぶ海溝
 型地震・津波編』 二〇一一年三月 内閣府(防災担当) 災害予防担当
 遠野市立遠野文化研究センター 『復刻版 明治29年「風俗画報」臨時増刊
 大海嘯被害録 マヨヒガ 遠野文化友の会会報 VOL. 2』
 二〇一二年三月 (有)荒蝦夷
 東京大学史料編纂所 『大日本史料』 一九〇六年三月 東京大学出版会
 東京大学地震研究所編 『新収日本地震史料』 第一巻 第五卷
 一九八一年三月 東京大学地震研究所
 東京大学地震研究所編 『新収日本地震史料補遺』 一九八九年三月
 東京帝国大学地震研究所編纂 『地震研究所彙報別冊 第1号 昭和8年
 3月3日三陸地方津浪に関する論文報告』 一九三四年三月 岩波書店
 東北大学工学部土木教室編纂 『東北大学工学部土木教室研究報告 第21号
 1968年十勝沖地震調査報告』 一九六九年三月
 東北大学東北文化研究会編 『蝦夷史料』 一九五七年九月 吉川弘文館
 南部叢書刊行会 『南部叢書(一)』 一九七〇年一月 (株)歴史図書社
 (独)防災科学技術研究所 『東日本大震災津波浸水図』 二〇一二年三月
 宮古市 『宮古市東日本大震災津波浸水図』 二〇一二年九月
 宮古市 『広報みやこ』 昭和43年6月1日号 一九六八年六月
 宮古市 『広報みやこ』 平成23年6月1日号 二〇一一年六月
 宮古市教育委員会編 『宮古市の石碑』 二〇一〇年三月
 宮古市教育委員会編 『宮古市史 資料集(近世五)』 一九八九年三月
 宮古市
 宮古市教育委員会編 『宮古市史 資料集(近代一—二)』
 一九九九年十二月 宮古市
 宮古市教育委員会編 『宮古市史 年表』 一九九一年三月 宮古市
 明治ニュース事典編纂委員会 『明治ニュース事典 第五卷(明治26年—
 明治30年)』 一九八五年一月 (株)毎日コミュニケーションズ
 盛岡市教育委員会 『盛岡藩家老席日記 雑書』 第十六巻 第二十五巻
 二〇〇四年一月 二〇一〇年十月 東洋書院
 盛岡市中央公民館 『盛岡藩 雑書』 第一巻 第十五巻
 一九八六年二月 二〇〇一年十二月 熊谷印刷出版部
 盛岡地方気象台・岩手県 『岩手県災異年表』 一九七九年六月
 日本気象協会盛岡支部

山口彌一郎 『津浪と村』 一九四三年九月 恒春閣書房
1968年十勝沖地震調査委員会 『1968年十勝沖地震調査報告』
一九六九年三月

協力者（敬称略）

機関

岩手県総務部総合防災室
気象庁
気象庁盛岡地方気象台
警視庁緊急災害警備本部
国土地理院
国立国会図書館
タウン情報社
田老漁業協同組合
東京大学地震研究所
東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ
特定非営利法人ワールド・ビジョン・ジャパン
独立行政法人防災科学技術研究所
宮古漁業協同組合

個人

前川 均
和田 薫

宮古市東日本大震災記録編集委員会

(編集委員)

		氏名	研究機関・役職
		委員長	神田 より子
		副委員長	南 正昭
		委員	小川 直之
		〃	平井 寛
		〃	岸 昌一
			敬和学園大学 人文学部教授
			岩手大学 工学部教授
			國學院大學 文学部教授
			岩手大学 工学部准教授
			前宮古市史編さん室長

(事務局)

氏名	所属・役職
坂下 昇	総務企画部長 (24～25年度)
佐藤 廣昭	教育部長 (24～25年度)、総務企画部長 (26年度)
熊谷 立行	教育部長 (26年度)
山崎 政典	総務企画部 企画課長
竹下 將男	教育委員会 文化課長
三河 浩	企画課 広報担当 主査 (24年度)
田中 富士春	〃 主査 (25年度)
川内 義昭	〃 主査
假屋 雄一郎	教育委員会 文化課 市史編さん室 主査

東日本大震災 宮古市の記録 第1巻（津波史編）概要版

平成二十六年（二〇一四）九月一日 発行

編集 宮古市東日本大震災記録編集委員会
発行 宮古市

宮古市新川町二一

印刷 株式会社文化印刷

宮古市松山五一三二一六

